

令和 5 年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに	(大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山倉 健嗣)	1
------	--------------------------------------	---

I 大学FD活動状況

1	全学FD活動	
(1)	授業担当者懇談会実施報告	3
(2)	授業改善のためのアンケート実施概要	4
(3)	授業改善のためのアンケート集計結果	9
2	各学部の令和5年度FD活動の概要報告	
(1)	家政学部	39
(2)	文学部	42
(3)	社会情報学部	44
(4)	人間関係学部	46
(5)	比較文化学部	48
(6)	短期大学部	50
3	人間文化研究科の令和5年度FD活動	52

II 全学FD講演会・研修会

1	講演会・研修会の内容及びアンケート結果	
(1)	アフターコロナのICT教育 ーresponを活用して全学生参加型の双方向授業をつくるー	75
(2)	ChatGPTとビジネス・大学教育研究 ～AIの発展に伴う課題と対応～	89

参考資料

1	大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	102
2	令和5年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿	104

はじめに

令和5年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和5年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和5年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和5年度の授業は対面8割、オンライン2割で授業が行われました。令和4年度と同様に、緊急事態宣言の発令に影響されることなく、教職員、学生の協力もあり、授業は今年度の経験の蓄積もあり、順調に進行しました。令和7年度より対面授業に全面移行となりますが、対面授業とオンデマンド授業が併存した経験は生かされることになるでしょう。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。回収率を向上するという目標を立て、今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度も40%を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つであり、向上のための新たな施策を講じていかなければと考えます。令和5年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。さらに、課題に対する教員からのフィードバックに関する項目を1問追加しました。この問いについて、学生数や授業形態ごとの違いがあることもわかりました。全体としての学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部・学科・専攻ごとの違いを知ることができますし、授業時間以外の学修時間は少ないという従来からの課題は残念ながら残っています。

令和5年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期後期の2回無事に昨年同様オンラインで開催することができました。前期は7月28日に「アフターコロナのICT教育—responを活用して全学生参加型の双方向授業をつくる—」というテーマで行いました。前半は本学での活用事例を八城薫教授、山本真知子准教授、宮崎美智子准教授、竹部成崇専任講師に報告いただき、後半は株式会社レスポンス 代表取締役社長 森田真基氏にご講演いただきました。本学の教員のresponの授業形態別の具体的な活用事例を学ぶことができた、森田社長からのプレゼンによりresponの多様な機能についても知ることができたなどの感想が寄せられました。後期は12月15日に株式会社野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室室長 塩崎潤一氏を講師としてお迎えし、「ChatGPTとビジネス・大学教育研究～AIの発展に伴う課題と対応～」というテーマで行いました。近年話題となっている生成AIの現状を俯瞰しつつ、その利点や可能性とともに問題点も指摘した、刺激的な講演でした。今後テーマの選択や開催日の設定については十分に配慮した運営を行っていきます。

各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。例年と同じく参加した非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられたとの報告をいただいています。

令和6年度もアフターコロナの状況で、FD 活動の必要性はますます高まっていくでしょう。令和5年度の経験・実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を引き続き図っていきます。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて、授業担当の教員(専任及び非常勤)による学生指導に関する各位の所見・抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容(学科・専攻別懇談会)

千代田キャンパス

家政学部 被服学科	対面:5月13日(土)
家政学部 食物学科	オンライン:5月13日(土)
家政学部 児童学科	対面:5月13日(土)
家政学部 ライフデザイン学科	対面:5月13日(土)
文学部 日本文学科	対面:5月13日(土)
文学部 英語英文学科	対面:5月13日(土)
文学部 コミュニケーション文化学科	オンライン:5月13日(土)
社会情報学部 社会情報学科社会生活情報学専攻	オンライン:5月13日(土)
社会情報学部 社会情報学科環境情報学専攻	オンライン:5月13日(土)
社会情報学部 社会情報学科情報デザイン専攻	オンライン:5月13日(土)
比較文化学部 比較文化学科	対面:5月13日(土)
短期大学部 家政科家政専攻	対面:5月13日(土)
短期大学部 家政科生活総合ビジネス専攻	オンライン:5月22日(月) 対面・文章による意見交換: 5月17日(水)～5月24日(水)
短期大学部 家政科食物栄養専攻	対面:5月13日(土)
短期大学部 国文科	オンライン:5月13日(土)
短期大学部 英文科	オンライン:5月11日(木)
全学共通科目(基礎科目・教養科目)	対面:5月13日(土)
教職課程	オンライン:5月11日(木)
図書館学課程	対面:5月13日(土)
博物館学芸員課程	対面:5月13日(土)

多摩キャンパス

人間関係学部 人間関係学科社会学専攻	オンライン:5月27日(土)
人間関係学部 人間関係学科社会・臨床心理学専攻	オンライン:5月27日(土)
人間関係学部 人間福祉学科	オンライン:5月27日(土)

（２）授業改善のためのアンケート実施概要

①概要

前・後期において、それぞれ授業改善のためのアンケートを実施した。
実施科目数及び回答学生数は次のとおりである。

実施科目数 前期（学期末）：1,471 科目

後期（学期末）：1,390 科目

回答学生数 前期（学期末）：25,476 名（受講者数 59,831 名 回答率 42.58%）

後期（学期末）：19,893 名（受講者数 55,450 名 回答率 35.88%）

②実施時期

前期（学期末）令和 5 年 7 月 10 日（月）～7 月 22 日（土）

後期（学期末）令和 5 年 12 月 11 日（月）～12 月 23 日（土）

③実施方法

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」（UNIPA）で実施した。

④調査項目（４～７ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

また、集計結果は、UNIPA 上で授業担当者に公開している。

分類：全体、学部別、学生所属別、学年別、授業方法別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別

令和5年度（前期）大妻女子大学 「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1.

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2.

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞ ※PPT：PowerPointの略

選択必須

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3.

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい／確認していない

4.

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい

5.

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞

選択必須

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6.

6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった

7.

7. この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

選択必須

- ☐ ⑤3時間以上 ☐ ④2時間以上3時間未満 ☐ ③1時間以上2時間未満
- ☐ ②30分以上1時間未満 ☐ ①30分未満 ☐ ⑩していない

8.

8. 課題に対する教員からのフィードバック（コメントや学習指導）は効果的でしたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

9.

9. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

10.

10. あなたは授業に満足しましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

回答

令和5年度（後期）大妻女子大学 「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1.

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2.

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞ ※PPT：PowerPointの略

選択必須

- ☐ 対面
- ☐ オンデマンド型：テキスト（教材）提示
- ☐ オンデマンド型：スライド（PPT）
- ☐ オンデマンド型：音声データとテキスト（PPT／PDF等）
- ☐ オンデマンド型：動画視聴（YouTube等）
- ☐ その他

3.

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい／確認していない

4.

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など）をしたと感じることができましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑥わからない／判断しづらい

5.

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞

選択必須

- ☐ 予習復習（アンケートなど）
- ☐ 小テスト
- ☐ レポート提出
- ☐ 中間／期末テスト
- ☐ コースコンテンツ
- ☐ プロジェクト
- ☐ コースニュース
- ☐ 掲示板
- ☐ 個別指導コレクション
- ☐ レスポン
- ☐ その他
- ☐ manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- ☐ 活用していない

6.

6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい／発言の機会がなかった

7.

7. この授業の授業外学修の時間（授業1回あたりの平均）はどの程度ですか。

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

選択必須

- ☐ ⑤3時間以上 ☐ ④2時間以上3時間未満 ☐ ③1時間以上2時間未満
- ☐ ②30分以上1時間未満 ☐ ①30分未満 ☐ ⑩していない

8.

8. 課題に対する教員からのフィードバック（コメントや学習指導）は効果的でしたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

9.

9. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

10.

10. あなたは授業に満足しましたか。

選択必須

- ☐ ⑤そう思う ☐ ④ややそう思う ☐ ③どちらともいえない
- ☐ ②あまりそう思わない ☐ ①そう思わない ☐ ⑩わからない／判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

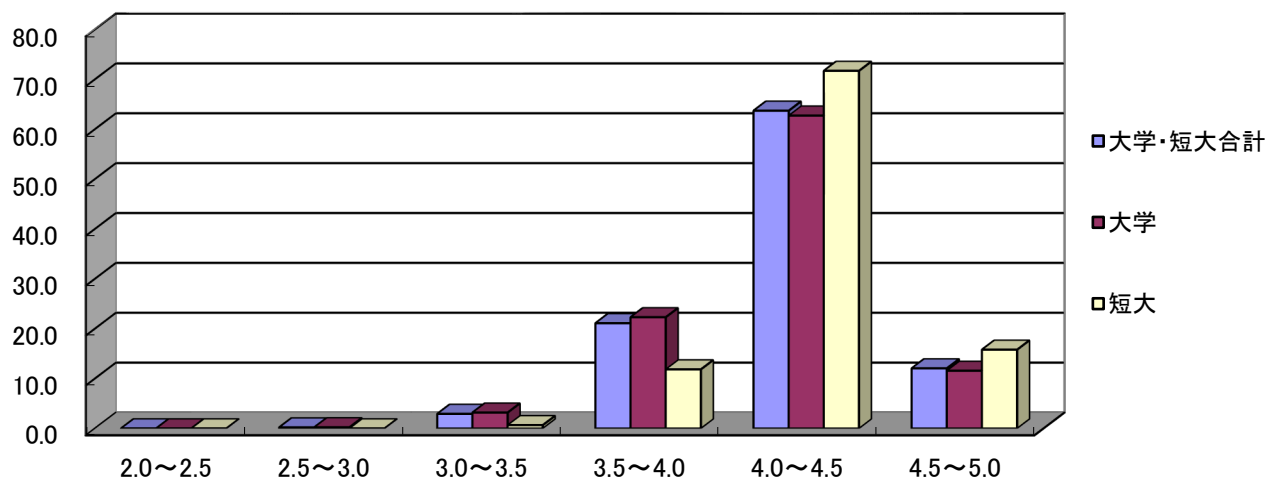
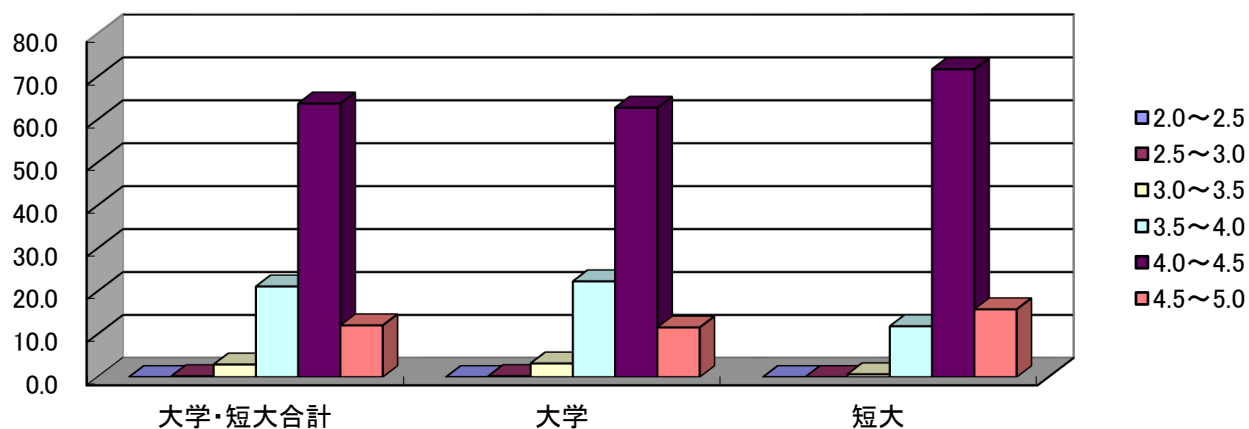
回答

(3) 授業改善のためのアンケート集計結果

2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	3	0.2	3	0.2	0	0.0
3.0～3.5	43	2.9	42	3.2	1	0.7
3.5～4.0	310	21.1	295	22.3	18	11.8
4.0～4.5	936	63.7	830	62.7	109	71.7
4.5～5.0	177	12.0	153	11.6	24	15.8

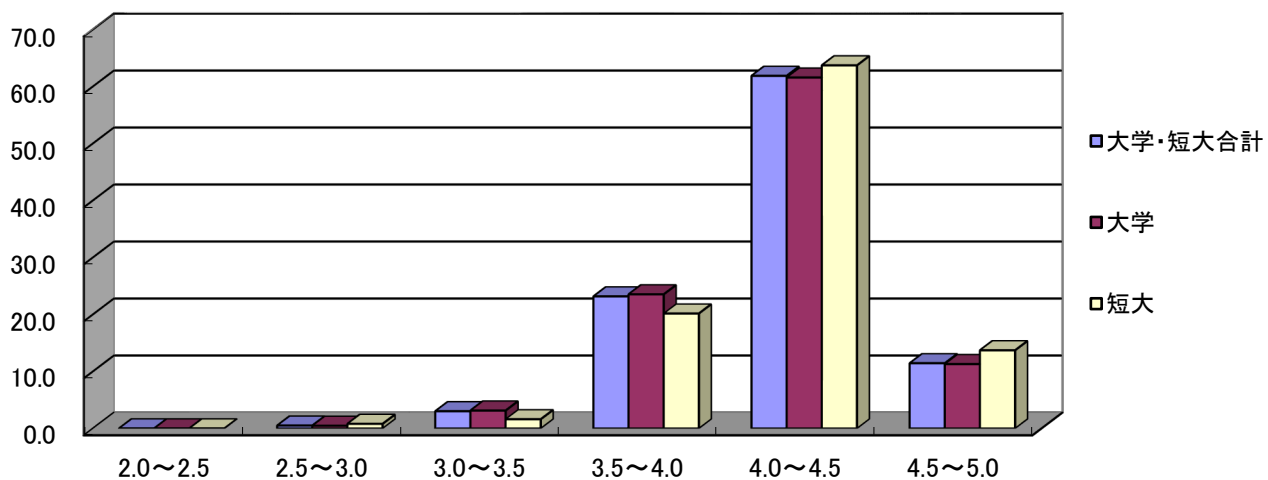
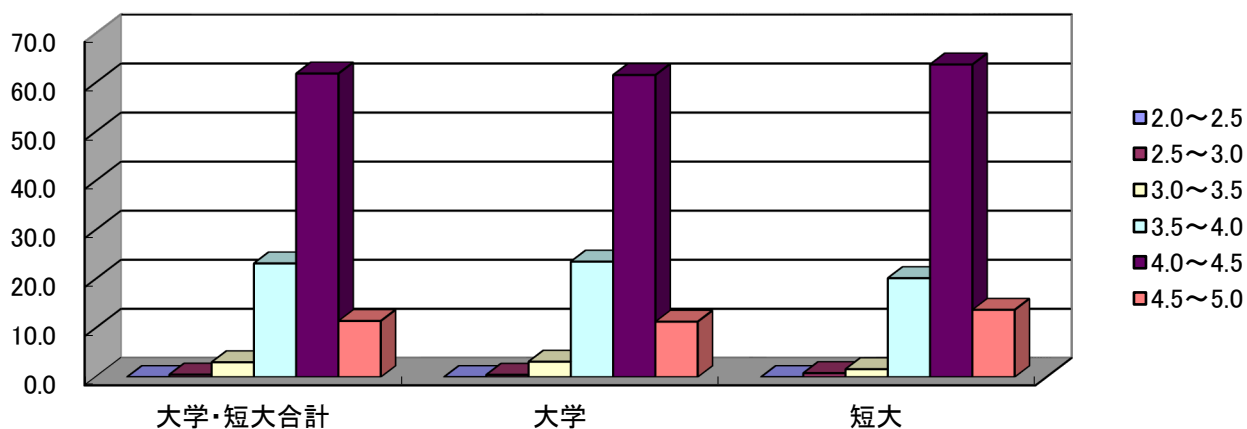
評定平均点分布表



2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	7	0.5	6	0.5	1	0.8
3.0～3.5	42	3.0	40	3.1	2	1.6
3.5～4.0	322	23.2	300	23.5	25	20.2
4.0～4.5	860	61.9	785	61.6	79	63.7
4.5～5.0	159	11.4	144	11.3	17	13.7

評定平均点分布表

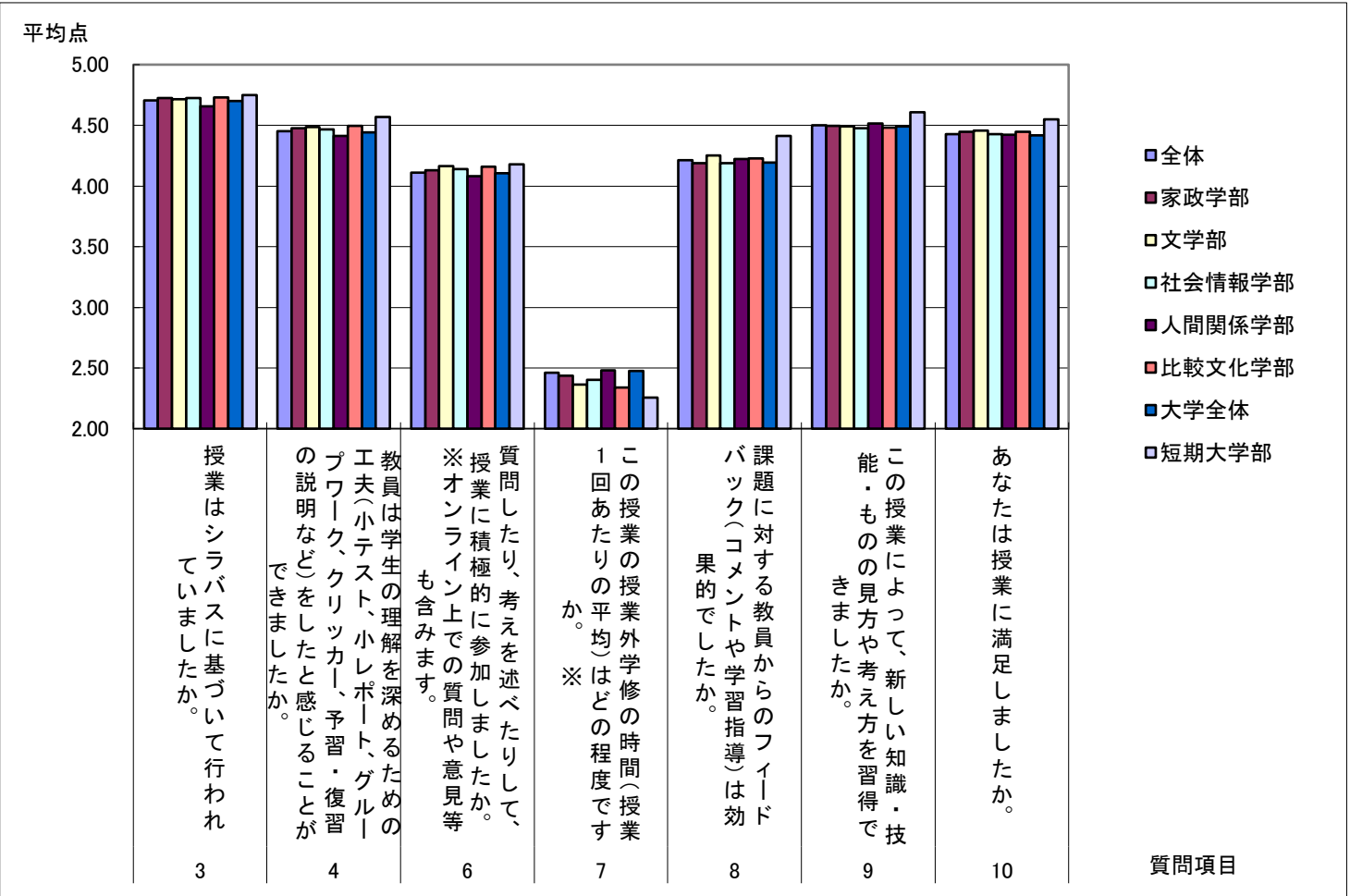


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数		全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1,476	1,471	5	履修者数	59,831	29,230	23,872	23,791	8,958	20,536	56,461	3,571
			回答者数	25,476	12,369	10,773	10,513	4,227	9,163	23,582	1,974
			回答率(%)	42.58	42.32	45.13	44.19	47.19	44.62	41.77	55.28

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.73	4.72	4.73	4.65	4.73	4.70	4.75
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、ク リッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.45	4.48	4.49	4.47	4.41	4.50	4.44	4.57
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.13	4.16	4.14	4.08	4.16	4.10	4.18
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はど の程度ですか。※	2.46	2.44	2.36	2.40	2.48	2.34	2.48	2.25
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導) は効果的でしたか。	4.21	4.19	4.25	4.19	4.22	4.23	4.19	4.41
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を 習得できましたか。	4.50	4.50	4.49	4.48	4.51	4.48	4.49	4.61
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.45	4.46	4.43	4.42	4.45	4.42	4.55

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

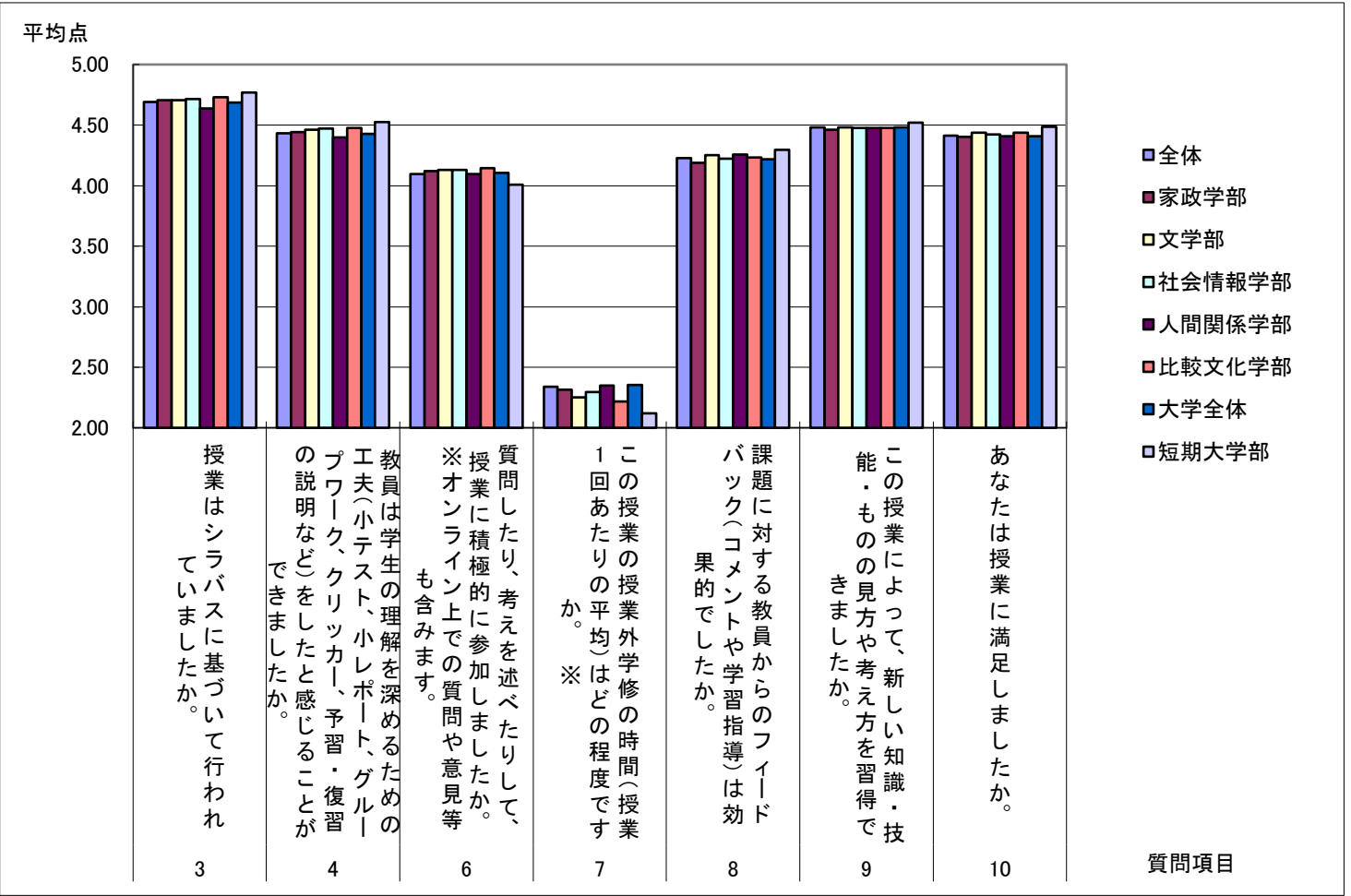


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象 科目数	実施 科目数	未実施 科目数		全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
1,397	1,390	7	履修者数	55,450	28,898	23,288	22,479	8,417	20,743	52,921	2,806
			回答者数	19,893	10,104	8,909	8,249	3,184	7,625	18,541	1,449
			回答率(%)	35.88	34.96	38.26	36.70	37.83	36.76	35.04	51.64

	全体	家政学部	文学部	社会情報 学部	人間関係 学部	比較文化 学部	大学全体	短期大学部
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.71	4.70	4.72	4.64	4.73	4.69	4.77
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、ク リッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.43	4.44	4.46	4.47	4.40	4.48	4.43	4.52
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.10	4.12	4.13	4.13	4.10	4.14	4.10	4.01
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はど の程度ですか。※	2.34	2.32	2.25	2.29	2.35	2.22	2.35	2.12
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導) は効果的でしたか。	4.23	4.19	4.25	4.22	4.26	4.23	4.22	4.30
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を 習得できましたか。	4.48	4.46	4.48	4.47	4.48	4.47	4.48	4.52
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.41	4.40	4.44	4.42	4.41	4.44	4.41	4.49

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	1,628	1,071	775	1,306	694	1,520	1,966	1,466	1,864	1,533	1,185
	大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英	
	1,884	1,506	1,295	1,427	2,434	412	615	704	112	76	

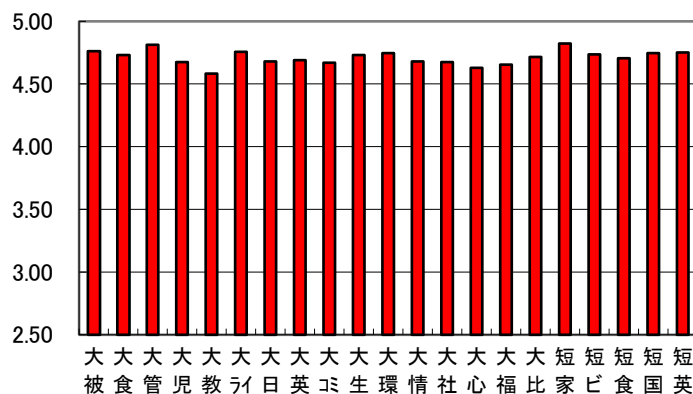
		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.76	4.73	4.81	4.68	4.58	4.76	4.68	4.69	4.67	4.73	4.75
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.46	4.41	4.48	4.46	4.36	4.53	4.47	4.42	4.44	4.42	4.52
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.03	3.97	4.18	4.04	4.05	4.13	4.13	4.16	4.05	4.22
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.56	2.44	2.59	2.39	2.56	2.57	2.59	2.44	2.34	2.22	2.35
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.07	4.12	4.18	4.17	4.14	4.25	4.31	4.22	4.26	4.08	4.27
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.54	4.46	4.57	4.55	4.44	4.56	4.58	4.46	4.40	4.43	4.51
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.49	4.34	4.46	4.51	4.32	4.50	4.52	4.37	4.36	4.37	4.49

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

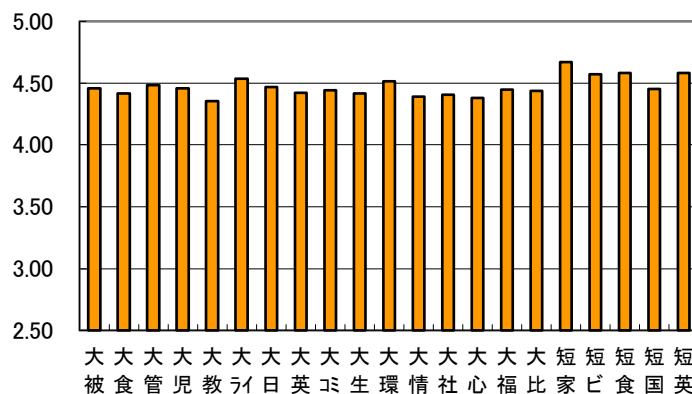
		大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.68	4.68	4.63	4.65	4.72	4.82	4.73	4.71	4.75	4.75
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.39	4.41	4.38	4.45	4.44	4.67	4.57	4.58	4.45	4.58
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.11	4.11	4.03	4.10	4.10	4.33	4.19	4.15	3.93	4.27
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.62	2.41	2.74	2.30	2.46	2.17	1.91	2.49	2.60	2.49
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.12	4.26	4.13	4.27	4.18	4.49	4.43	4.40	4.46	4.46
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.40	4.54	4.46	4.54	4.46	4.73	4.61	4.57	4.64	4.46
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.32	4.45	4.36	4.46	4.36	4.67	4.58	4.50	4.55	4.55

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

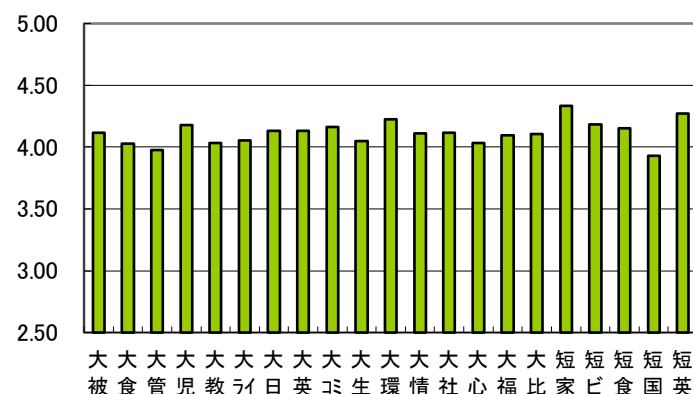
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



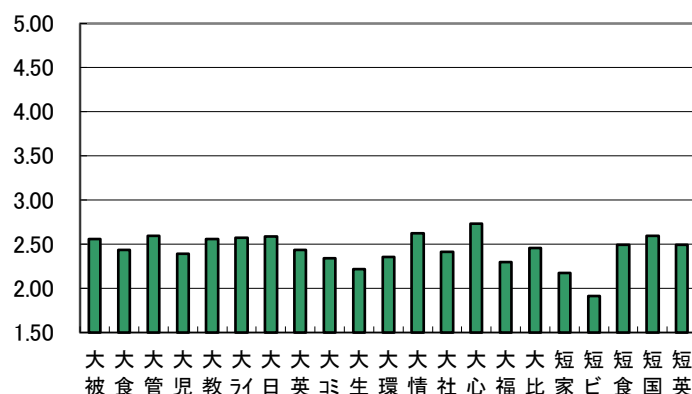
4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



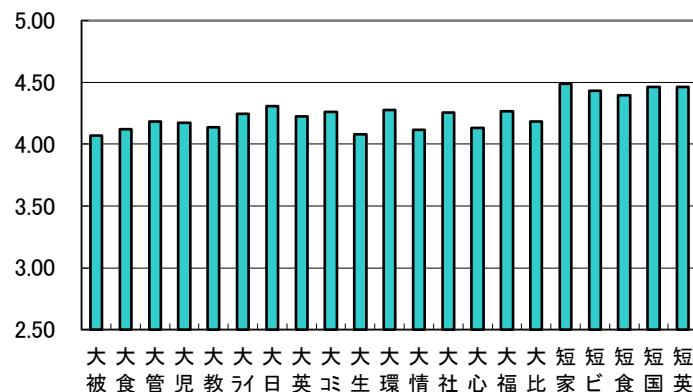
6 授業に積極的に参加したか



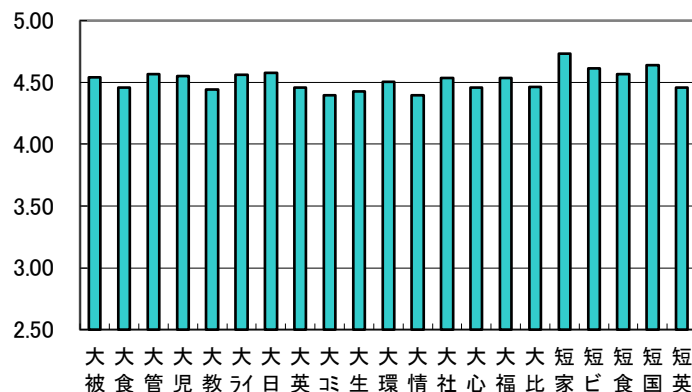
7 授業外学修時間(授業1回あたりの平均)



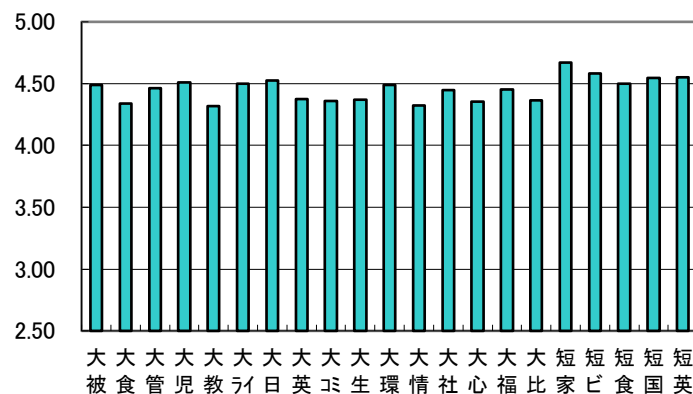
8 教員からのフィードバックは効果的だったか



9 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか



10 授業に満足したか



2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	1,375	1,110	385	898	584	1,177	1,917	1,046	1,242	1,138	933
	大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英	
	1,504	1,100	941	1,140	2,023	287	330	627	87	41	

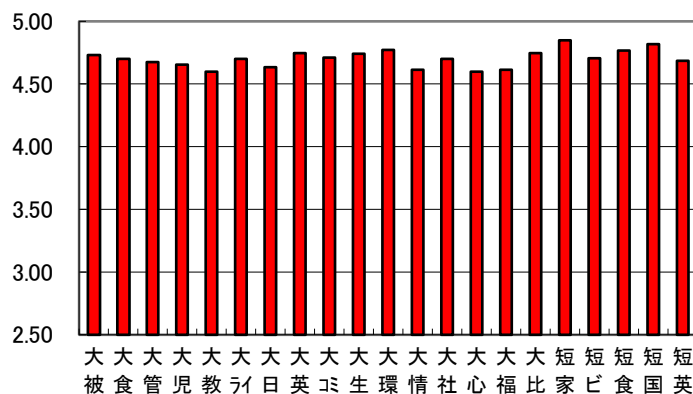
		大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.73	4.70	4.68	4.66	4.60	4.70	4.64	4.75	4.71	4.74	4.77
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.41	4.33	4.32	4.50	4.33	4.39	4.43	4.45	4.46	4.55	4.56
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.06	4.03	3.94	4.28	4.12	4.02	4.08	4.12	4.07	4.28	4.23
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.31	2.56	2.45	2.34	2.62	2.36	2.37	2.34	2.35	2.14	2.18
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.08	4.08	4.06	4.24	4.20	4.21	4.30	4.25	4.25	4.33	4.33
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.46	4.37	4.36	4.54	4.48	4.49	4.55	4.49	4.45	4.54	4.53
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.41	4.31	4.30	4.47	4.40	4.36	4.48	4.39	4.41	4.50	4.46

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

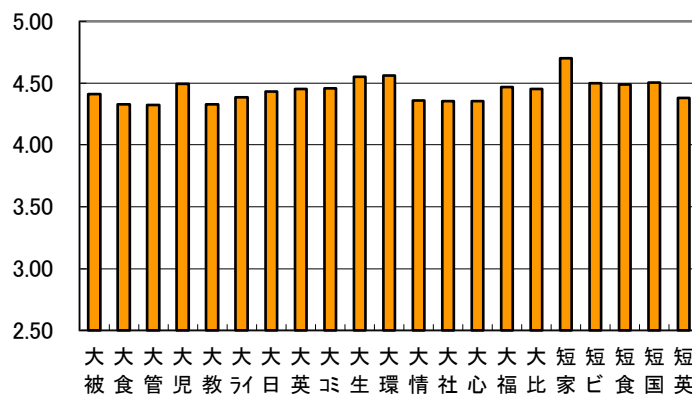
		大情	大社	大心	大福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.61	4.70	4.60	4.62	4.75	4.85	4.71	4.77	4.82	4.68
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.36	4.36	4.36	4.47	4.45	4.70	4.50	4.49	4.51	4.38
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.99	4.09	4.01	4.17	4.13	4.00	4.01	4.03	3.76	3.90
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.48	2.35	2.55	2.17	2.26	2.36	1.92	2.00	2.31	2.97
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.12	4.31	4.12	4.31	4.22	4.45	4.33	4.30	4.14	3.55
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.39	4.50	4.40	4.52	4.49	4.67	4.49	4.50	4.45	4.24
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.32	4.40	4.32	4.49	4.42	4.65	4.46	4.44	4.61	4.13

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

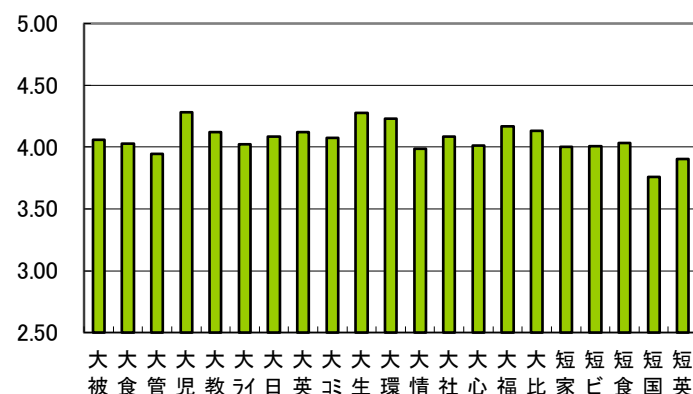
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



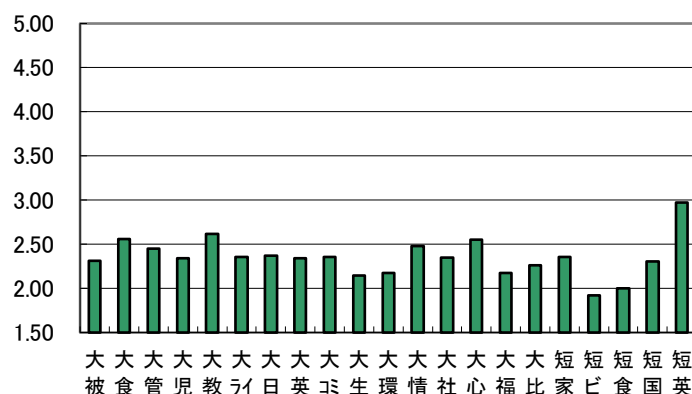
4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



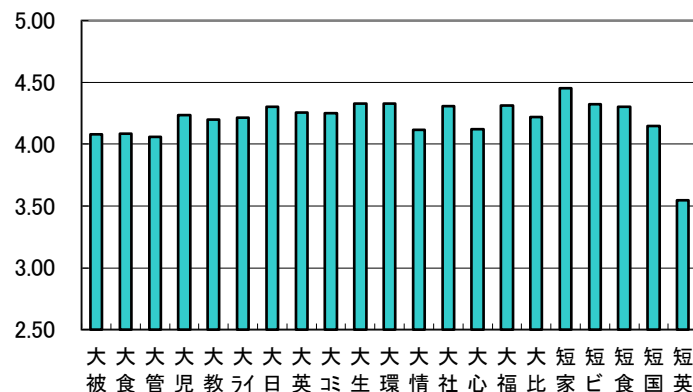
6 授業に積極的に参加したか



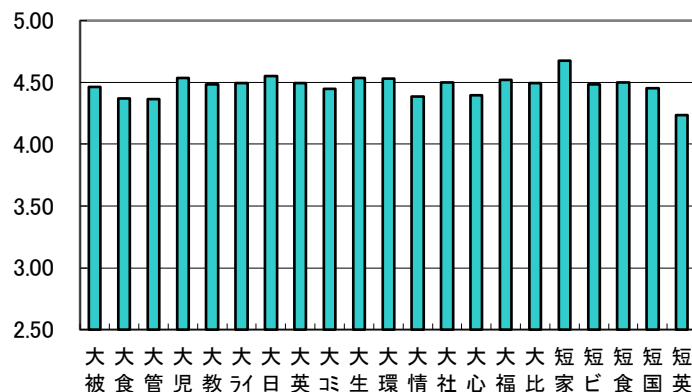
7 授業外学修時間(授業1回あたりの平均)



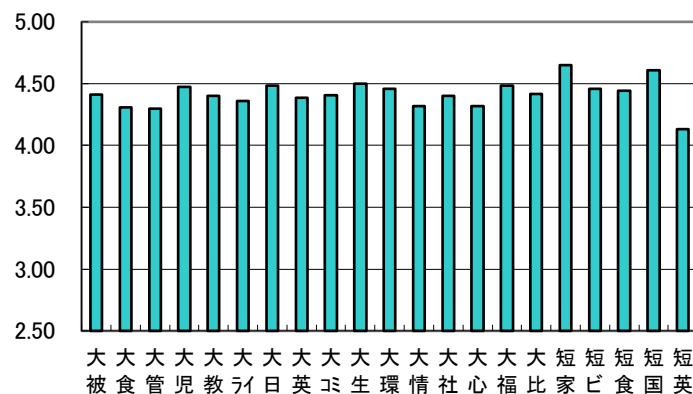
8 教員からのフィードバックは効果的だったか



9 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか



10 授業に満足したか

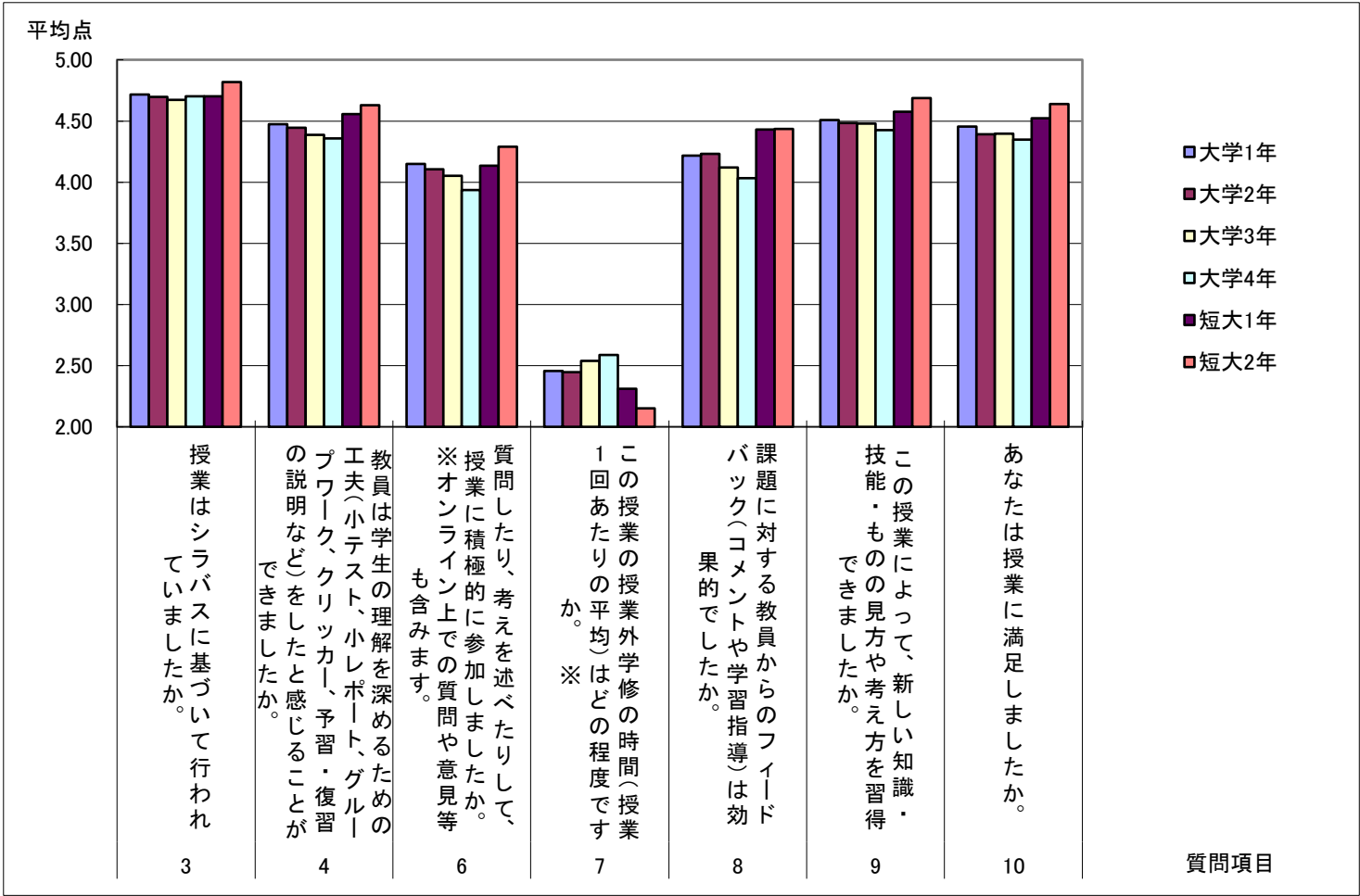


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	10,067	7,916	4,384	1,215	1,231	710

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.70	4.67	4.70	4.70	4.82
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.47	4.44	4.38	4.36	4.56	4.63
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.15	4.11	4.05	3.93	4.13	4.29
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.46	2.45	2.54	2.59	2.31	2.15
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.22	4.23	4.12	4.03	4.43	4.43
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.51	4.48	4.48	4.43	4.58	4.69
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.45	4.39	4.40	4.35	4.52	4.64

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

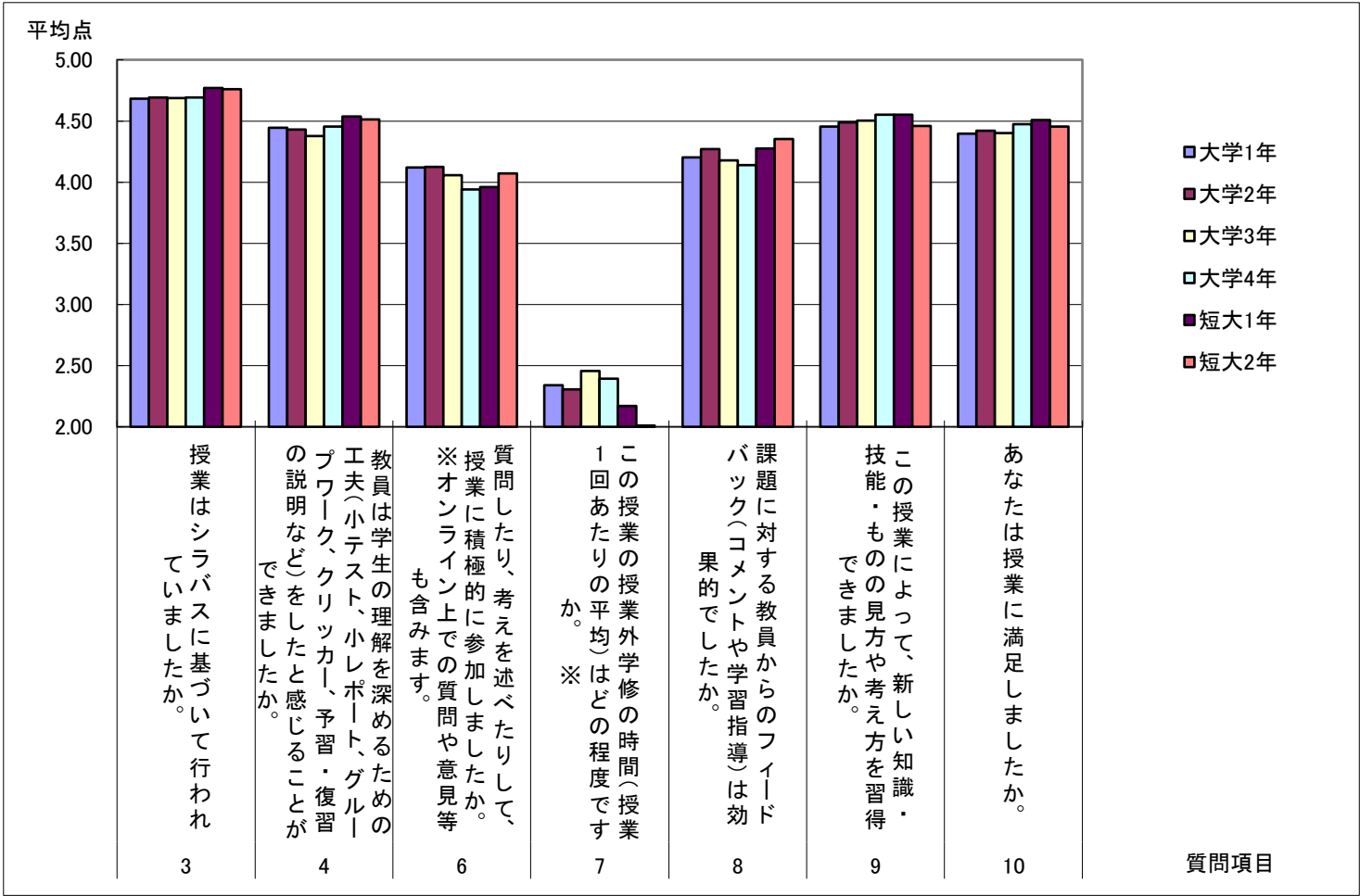


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	7,615	6,615	3,711	600	875	521

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.68	4.69	4.69	4.69	4.77	4.76
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.44	4.43	4.38	4.45	4.54	4.51
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.12	4.12	4.06	3.94	3.96	4.07
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.34	2.31	2.46	2.39	2.17	2.01
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.20	4.27	4.18	4.14	4.28	4.35
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.45	4.49	4.50	4.55	4.55	4.46
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.40	4.42	4.40	4.48	4.51	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

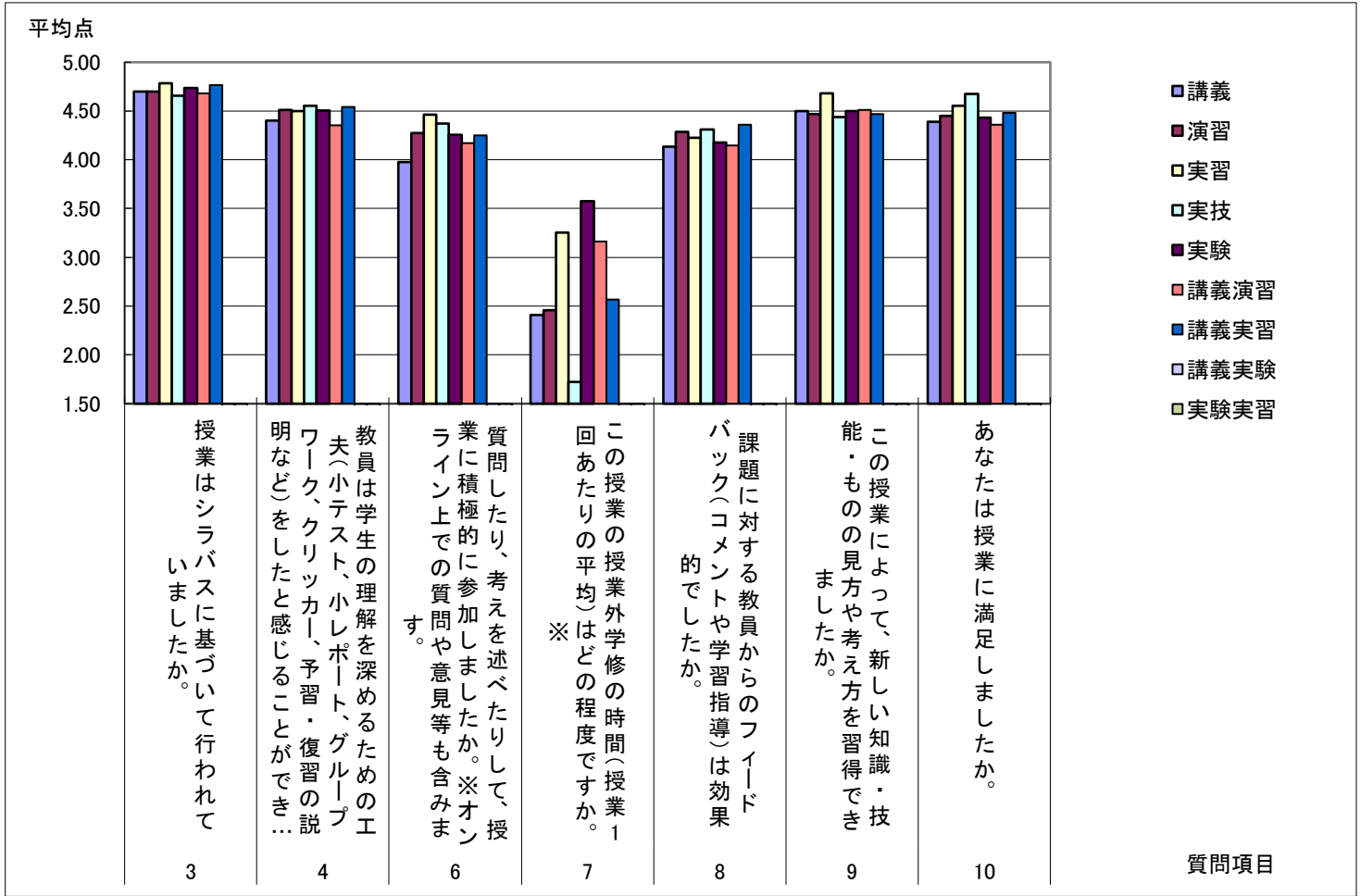


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	36,810	14,757	1,150	701	765	1,870	408	－	－
回答者数	13,993	7,585	442	331	291	765	175	－	－
回答率(%)	38.01	51.40	38.43	47.22	38.04	40.91	42.89	－	－

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.70	4.78	4.66	4.74	4.68	4.77	－
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.40	4.51	4.50	4.55	4.51	4.35	4.54	－
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.98	4.27	4.47	4.37	4.26	4.17	4.25	－
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.41	2.46	3.25	1.72	3.57	3.16	2.56	－
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.14	4.29	4.23	4.31	4.18	4.15	4.36	－
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.47	4.68	4.44	4.50	4.51	4.47	－
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.39	4.45	4.55	4.68	4.43	4.36	4.48	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

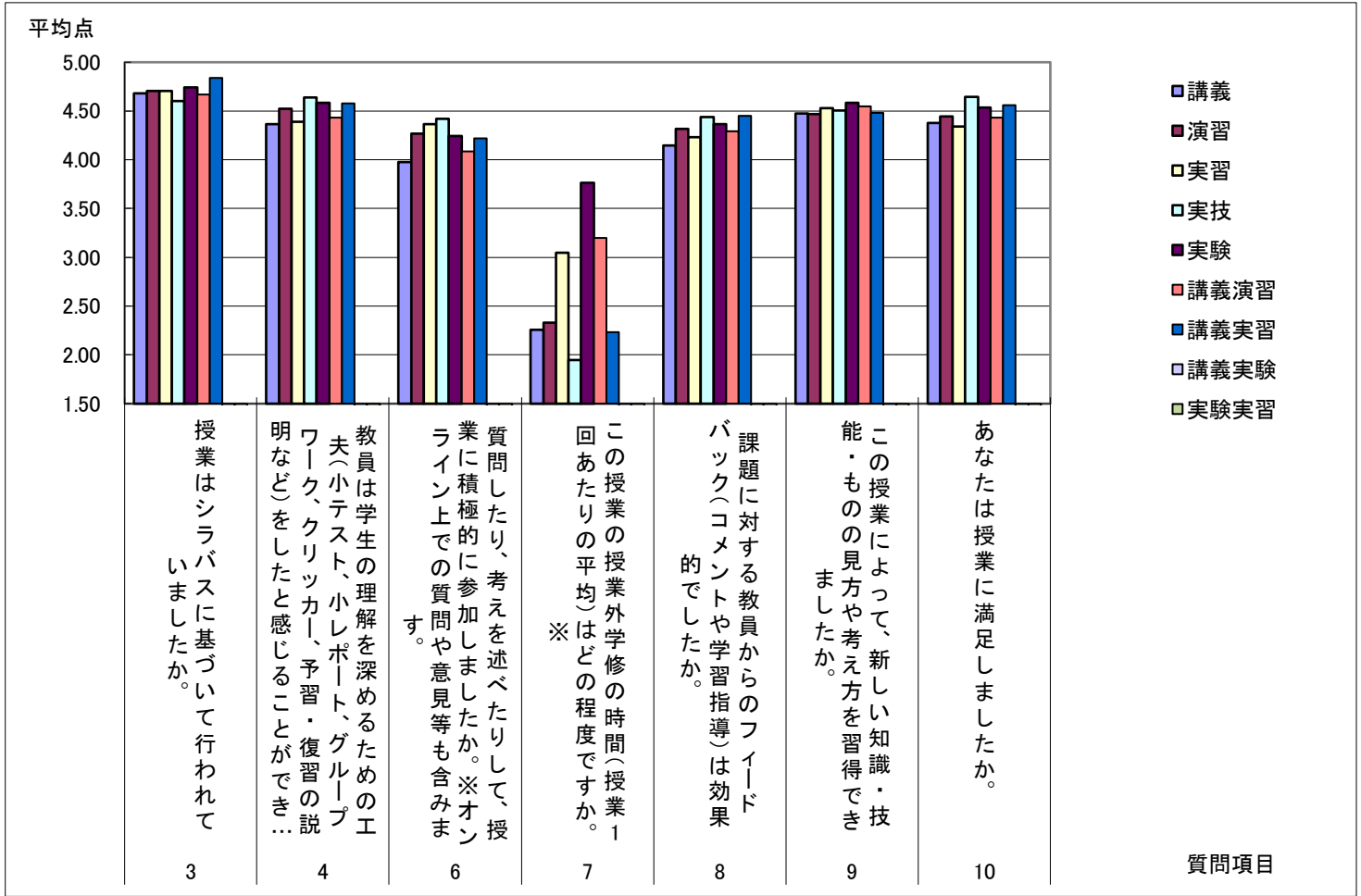


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	34,159	13,792	1,498	779	546	1,817	330	-	-
回答者数	10,837	5,952	505	298	185	633	131	-	-
回答率(%)	31.73	43.16	33.71	38.25	33.88	34.84	39.70	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.68	4.70	4.70	4.60	4.74	4.67	4.84	-
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.36	4.52	4.39	4.64	4.58	4.44	4.58	-
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.98	4.27	4.37	4.42	4.25	4.09	4.22	-
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.26	2.33	3.05	1.95	3.76	3.20	2.23	-
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.14	4.32	4.23	4.44	4.37	4.29	4.45	-
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.47	4.53	4.51	4.58	4.55	4.48	-
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.44	4.34	4.65	4.54	4.43	4.56	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

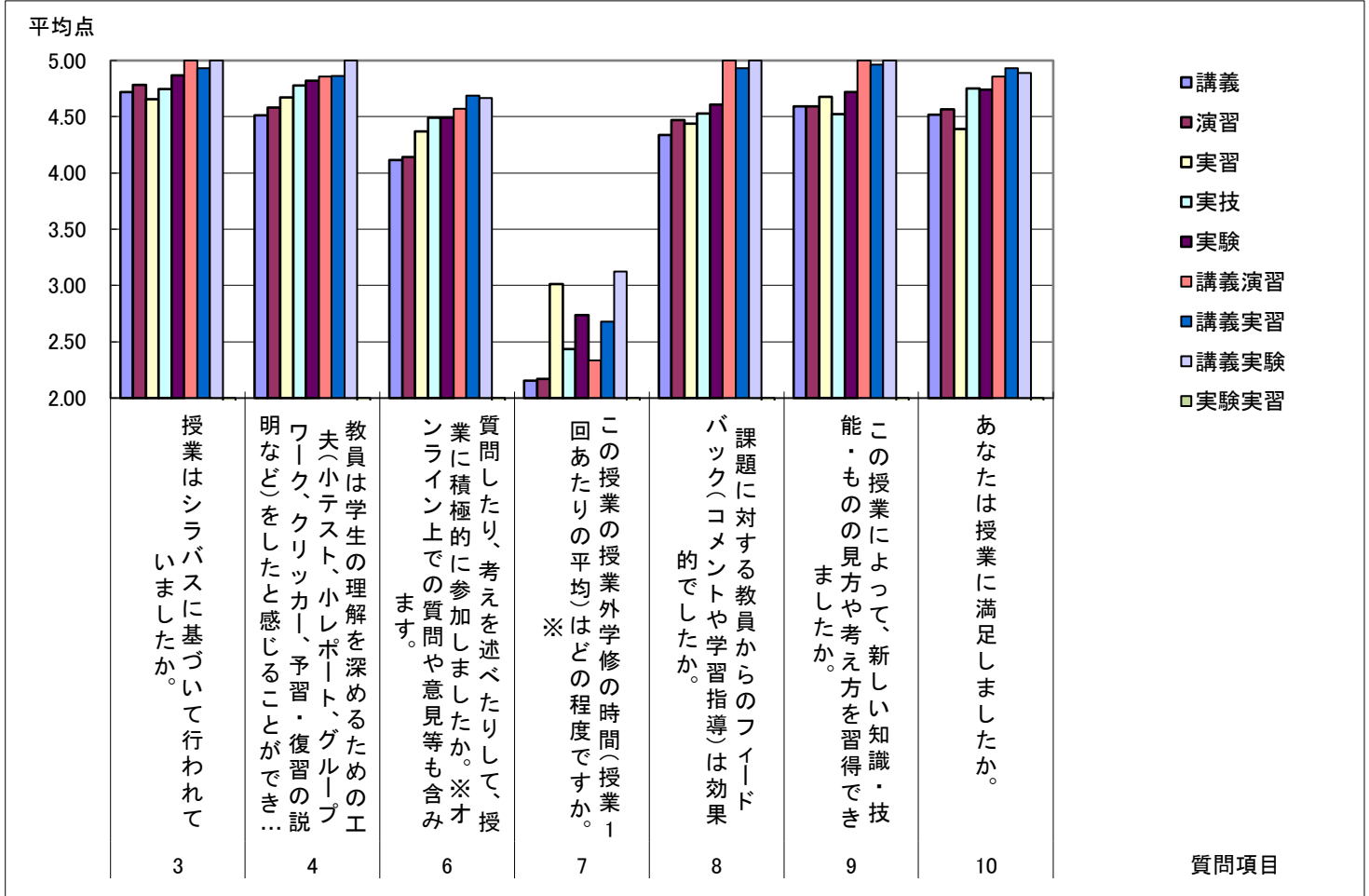


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	2,141	851	202	99	211	14	41	12	-
回答者数	1,186	504	88	64	86	7	30	9	-
回答率(%)	55.39	59.22	43.56	64.65	40.76	50.00	73.17	75.00	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.78	4.65	4.75	4.87	5.00	4.93	5.00	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.51	4.58	4.67	4.78	4.82	4.86	4.86	5.00	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.12	4.14	4.37	4.49	4.49	4.57	4.69	4.67	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.15	2.17	3.01	2.43	2.74	2.33	2.68	3.13	-
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.34	4.47	4.44	4.53	4.61	5.00	4.93	5.00	-
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.59	4.59	4.68	4.52	4.72	5.00	4.97	5.00	-
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.52	4.56	4.39	4.75	4.74	4.86	4.93	4.89	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

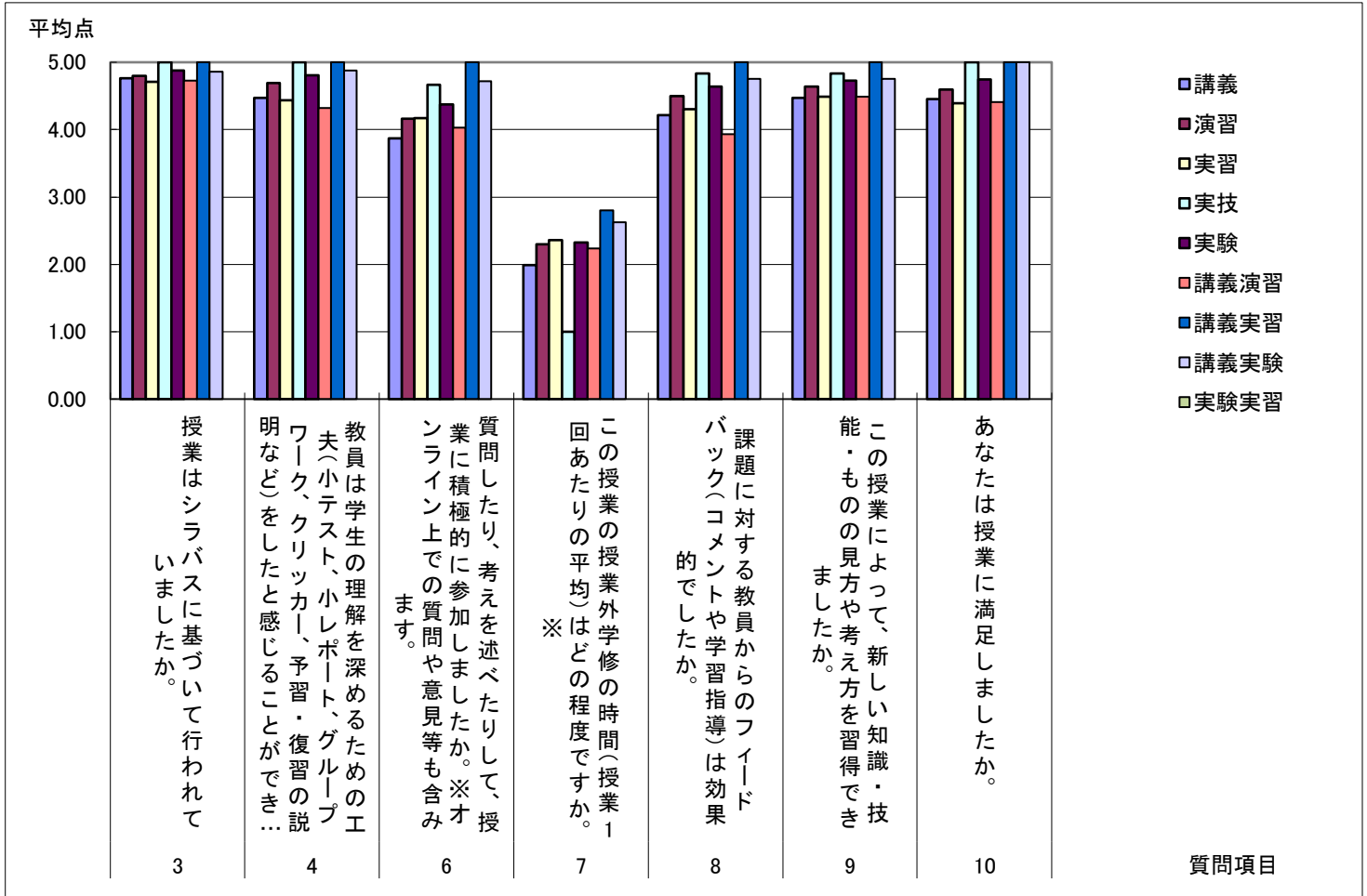


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	1,762	488	280	18	104	132	12	10	－
回答者数	888	263	172	6	52	51	9	8	－
回答率(%)	50.40	53.89	61.43	33.33	50.00	38.64	75.00	80.00	－

		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.76	4.80	4.71	5.00	4.88	4.73	5.00	4.86	－
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.47	4.69	4.44	5.00	4.81	4.32	5.00	4.88	－
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.87	4.16	4.17	4.67	4.38	4.03	5.00	4.71	－
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	1.99	2.30	2.36	1.00	2.32	2.23	2.80	2.63	－
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.21	4.50	4.30	4.83	4.64	3.94	5.00	4.75	－
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.64	4.49	4.83	4.72	4.49	5.00	4.75	－
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.45	4.60	4.39	5.00	4.74	4.41	5.00	5.00	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

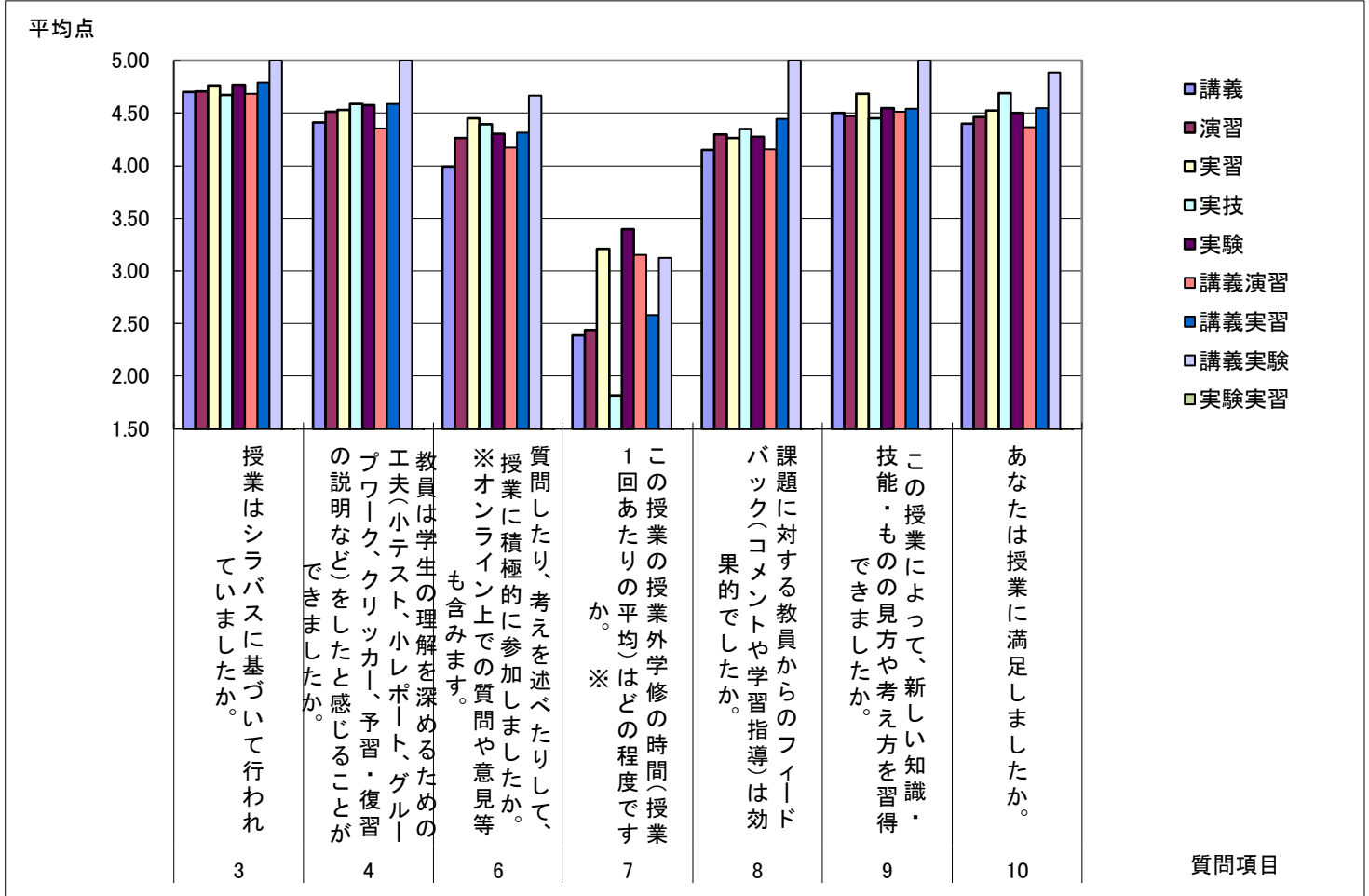


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	38,771	15,587	1,352	800	976	1,884	449	12	-
回答者数	15,113	8,075	530	395	377	772	205	9	-
回答率(%)	38.98	51.81	39.20	49.38	38.63	40.98	45.66	75.00	-

		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.71	4.76	4.67	4.77	4.68	4.79	5.00	－
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.41	4.52	4.53	4.59	4.58	4.36	4.59	5.00	－
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.99	4.27	4.45	4.39	4.30	4.18	4.31	4.67	－
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.39	2.44	3.21	1.81	3.40	3.15	2.58	3.13	－
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.15	4.30	4.26	4.35	4.28	4.16	4.45	5.00	－
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.47	4.68	4.45	4.55	4.51	4.54	5.00	－
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.40	4.46	4.53	4.69	4.50	4.36	4.55	4.89	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

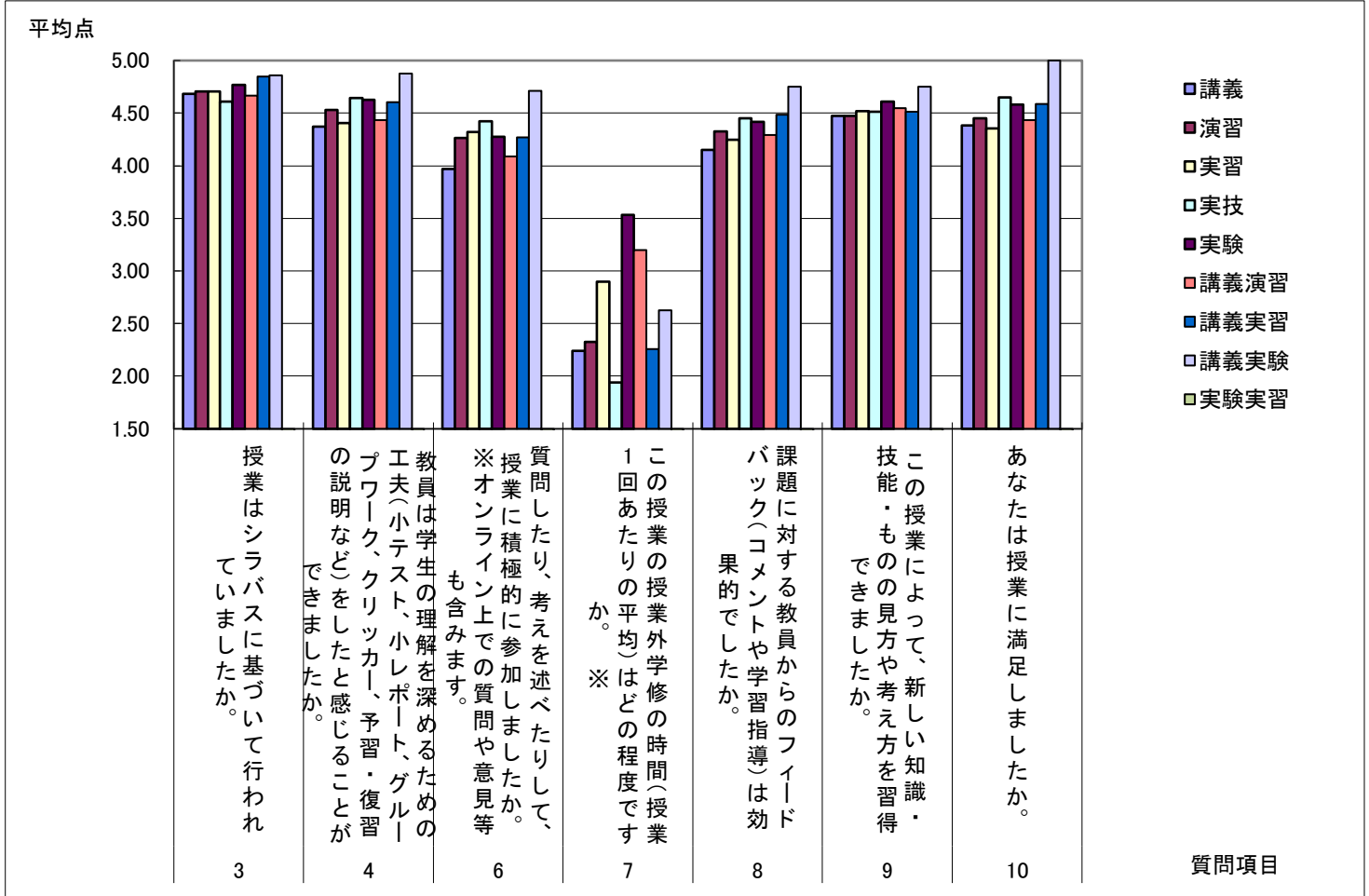


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	35,800	14,256	1,778	797	650	1,817	342	10	－
回答者数	11,684	6,210	677	304	237	633	140	8	－
回答率(%)	32.64	43.56	38.08	38.14	36.46	34.84	40.94	80.00	－

		講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3	授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.68	4.71	4.70	4.61	4.77	4.67	4.85	4.86	－
4	教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.37	4.53	4.40	4.64	4.63	4.44	4.60	4.88	－
6	質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.97	4.26	4.32	4.42	4.27	4.09	4.27	4.71	－
7	この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.24	2.33	2.90	1.94	3.53	3.20	2.26	2.63	－
8	課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.15	4.33	4.25	4.45	4.42	4.29	4.48	4.75	－
9	この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.48	4.52	4.51	4.61	4.55	4.51	4.75	－
10	あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.45	4.36	4.65	4.58	4.43	4.59	5.00	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

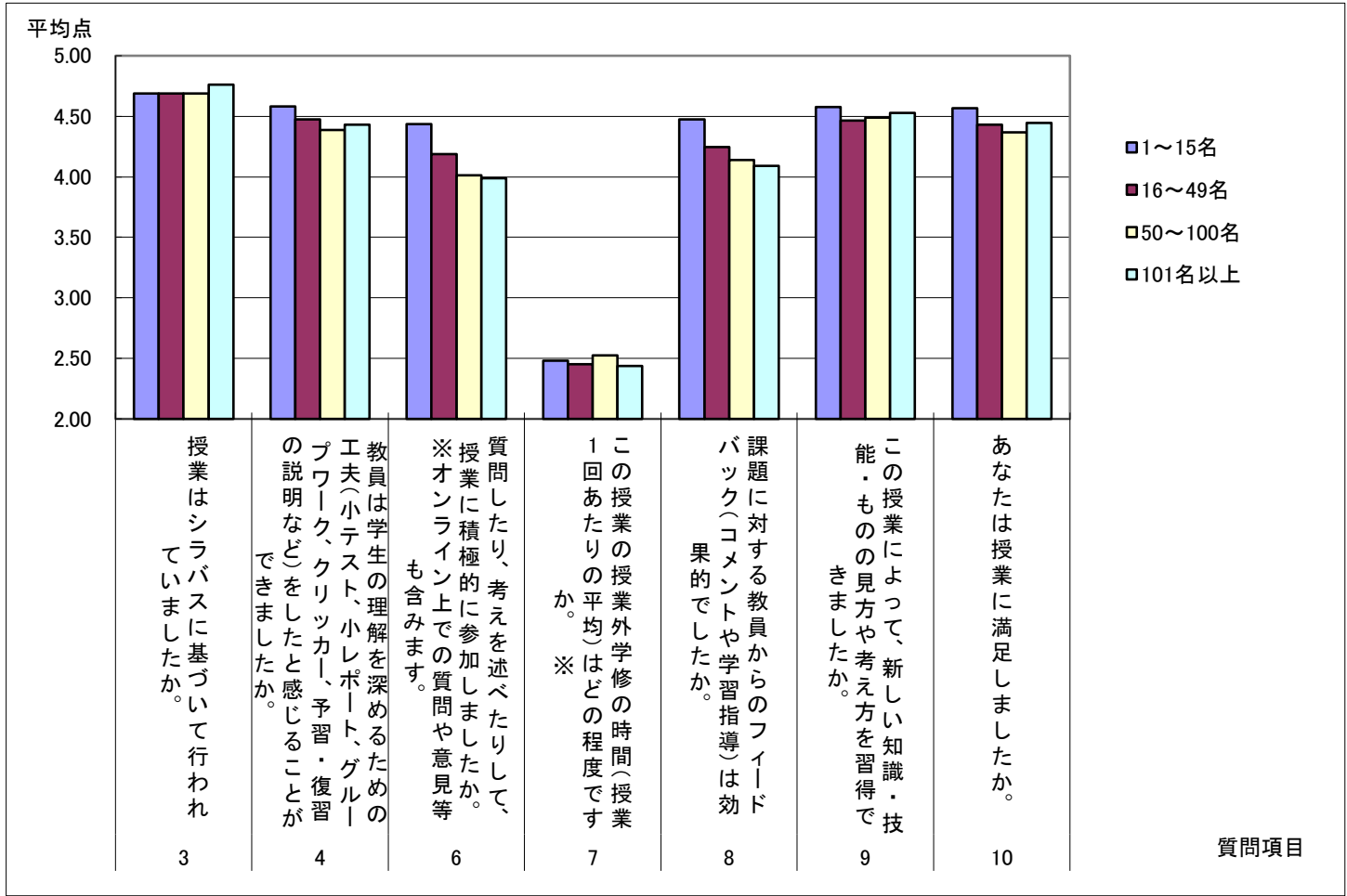


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,344	21,369	21,573	11,175
回答者数	1,091	9,982	8,520	3,989
回答率(%)	46.54	46.71	39.49	35.70

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.69	4.69	4.76
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.58	4.48	4.39	4.43
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.44	4.19	4.01	3.99
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.48	2.45	2.52	2.44
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.48	4.25	4.14	4.09
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.57	4.47	4.49	4.53
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.57	4.43	4.37	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

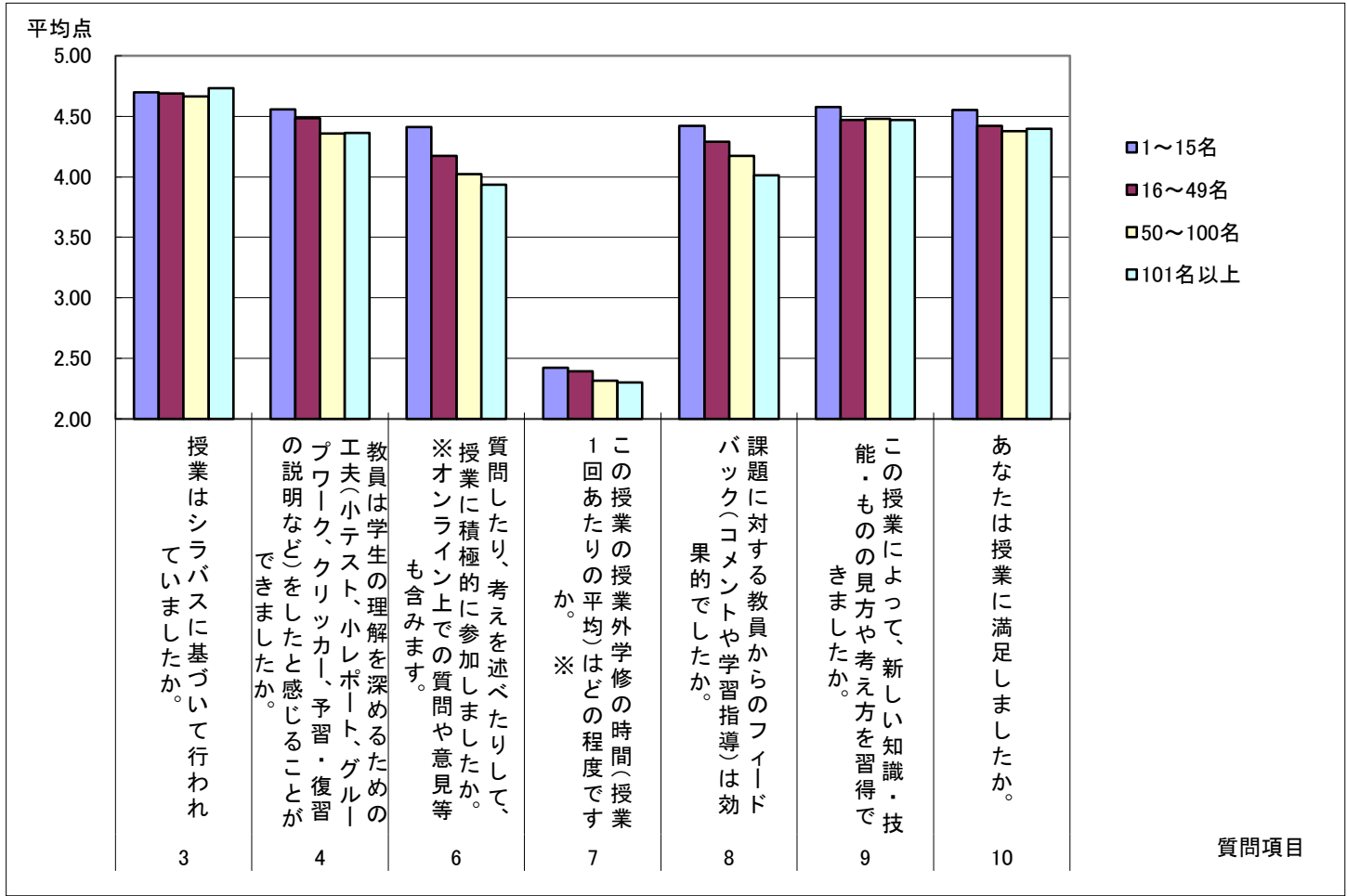


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,435	20,586	21,046	8,854
回答者数	928	8,544	6,495	2,574
回答率(%)	38.11	41.50	30.86	29.07

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.69	4.67	4.73
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感ずることができましたか。	4.56	4.48	4.36	4.36
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.41	4.17	4.02	3.93
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.42	2.39	2.31	2.30
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的 でしたか。	4.42	4.29	4.17	4.01
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得でき ましたか。	4.57	4.47	4.48	4.47
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.55	4.42	4.38	4.40

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

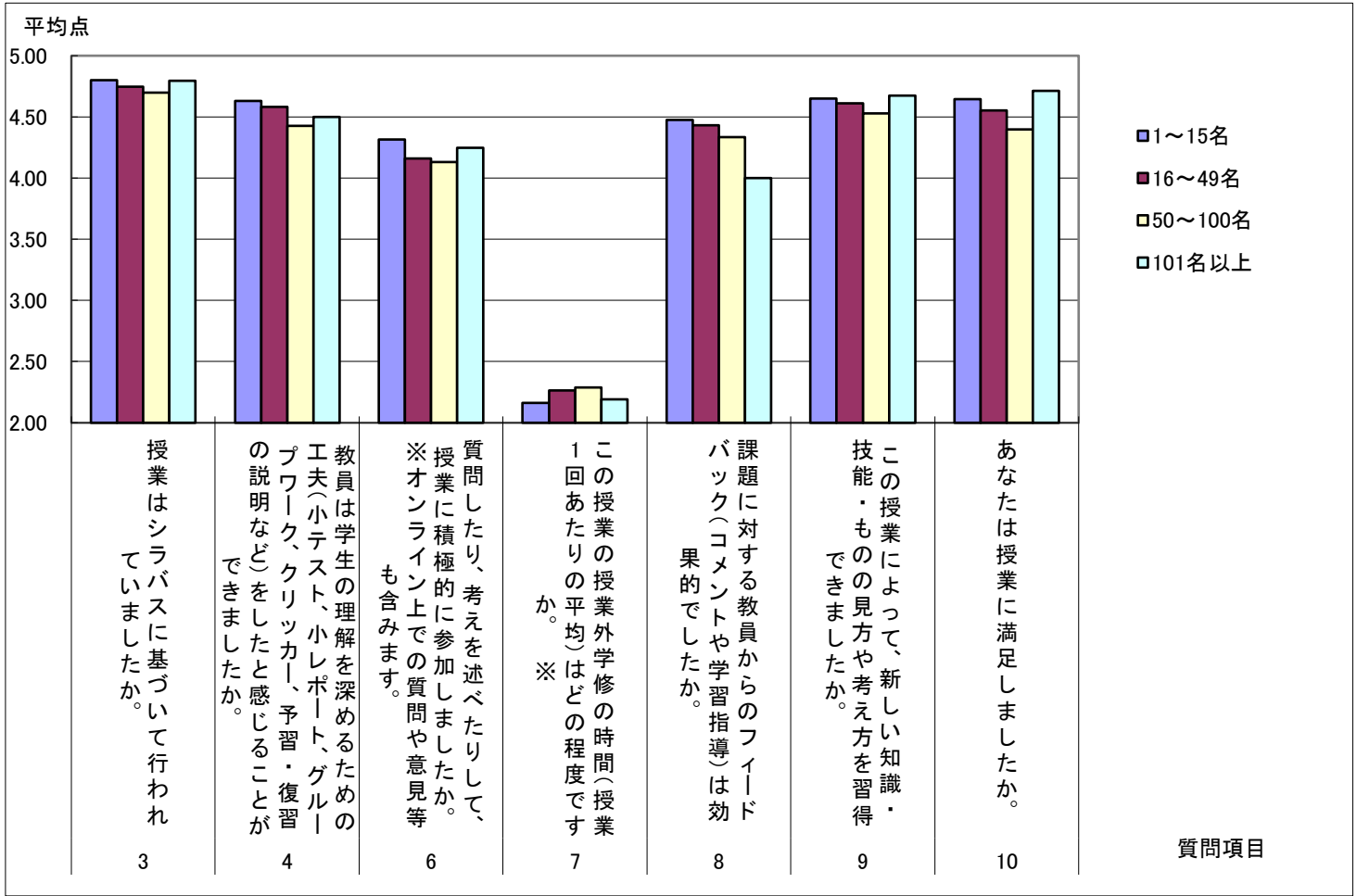


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	325	2,784	351	111
回答者数	192	1,528	198	56
回答率(%)	59.08	54.89	56.41	50.45

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.80	4.75	4.70	4.80
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.63	4.58	4.43	4.50
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.32	4.16	4.13	4.24
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.16	2.26	2.29	2.19
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.47	4.43	4.33	4.00
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.65	4.61	4.53	4.67
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.65	4.55	4.40	4.71

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

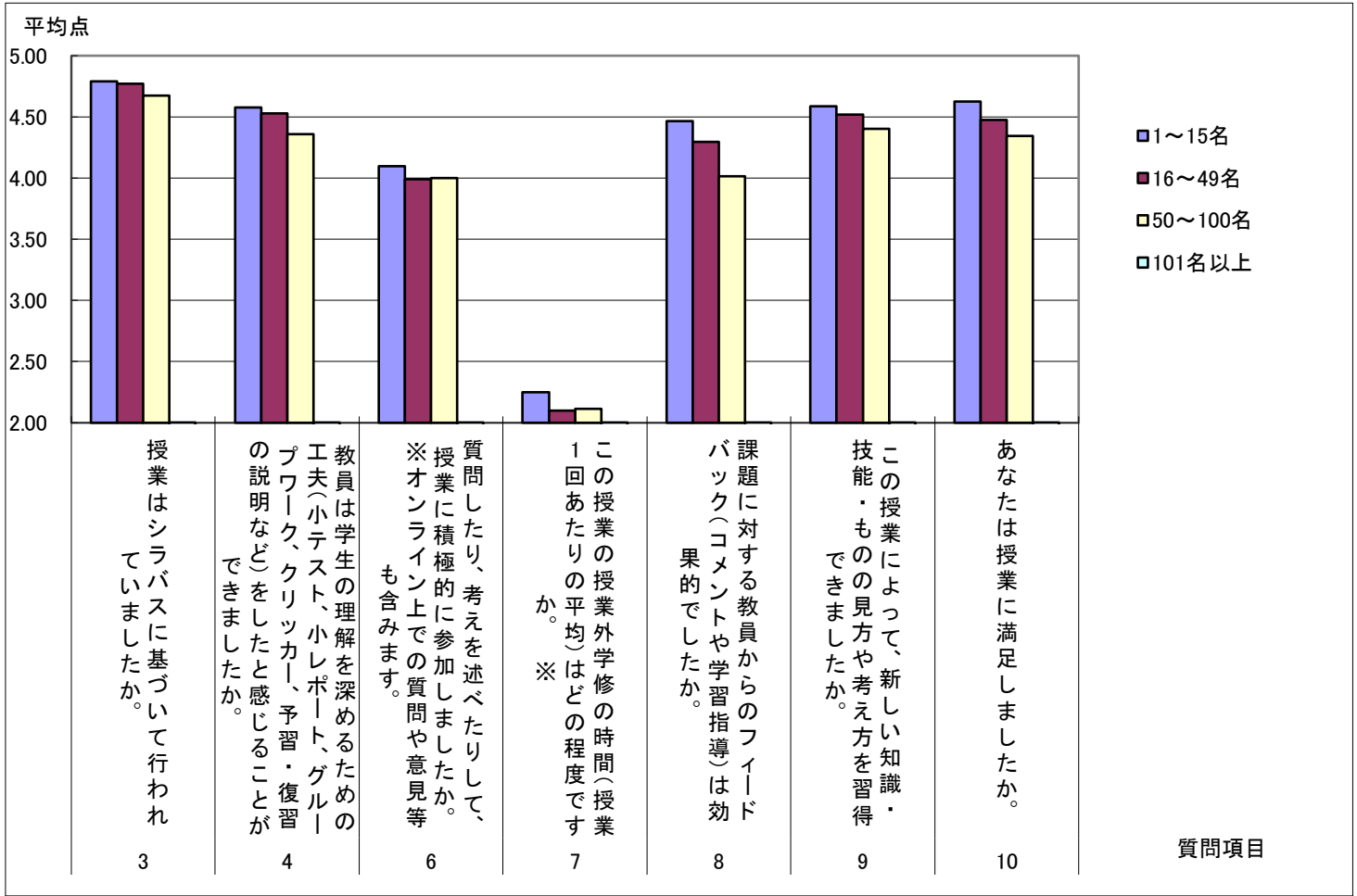


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	354	2,193	259	－
回答者数	183	1,179	87	－
回答率(%)	51.69	53.76	33.59	－

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.79	4.77	4.67	－
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.58	4.53	4.36	－
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.10	3.99	4.00	－
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.25	2.10	2.12	－
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果 的でしたか。	4.46	4.29	4.01	－
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得で きましたか。	4.59	4.52	4.40	－
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.63	4.48	4.34	－

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

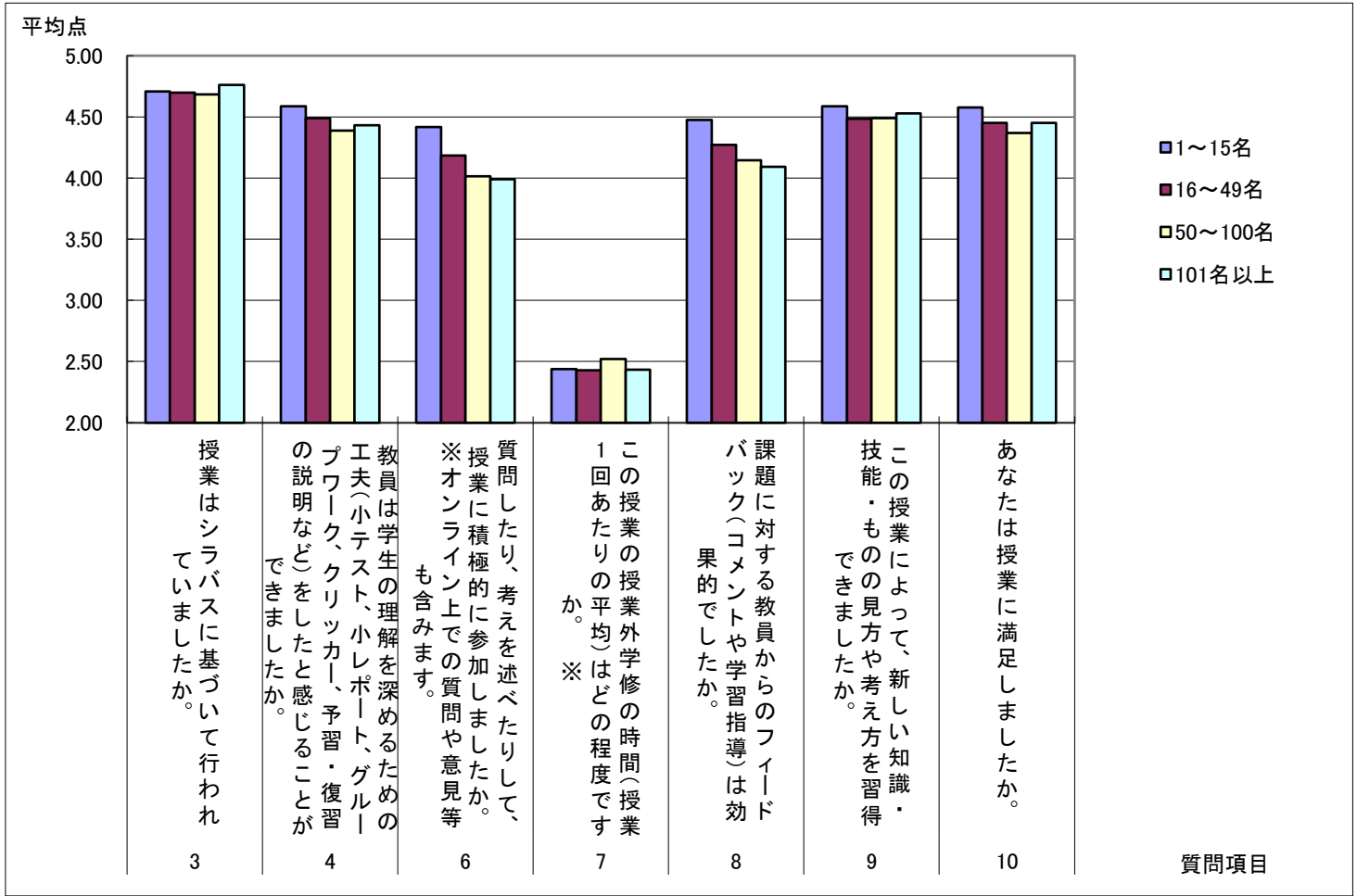


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,669	24,011	21,865	11,286
回答者数	1,283	11,446	8,702	4,045
回答率(%)	48.07	47.67	39.80	35.84

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.70	4.69	4.76
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッ カー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.59	4.49	4.39	4.43
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.42	4.18	4.02	3.99
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度で すか。※	2.44	2.43	2.52	2.44
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果 的でしたか。	4.48	4.27	4.14	4.09
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得で きましたか。	4.59	4.49	4.49	4.53
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.58	4.45	4.37	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

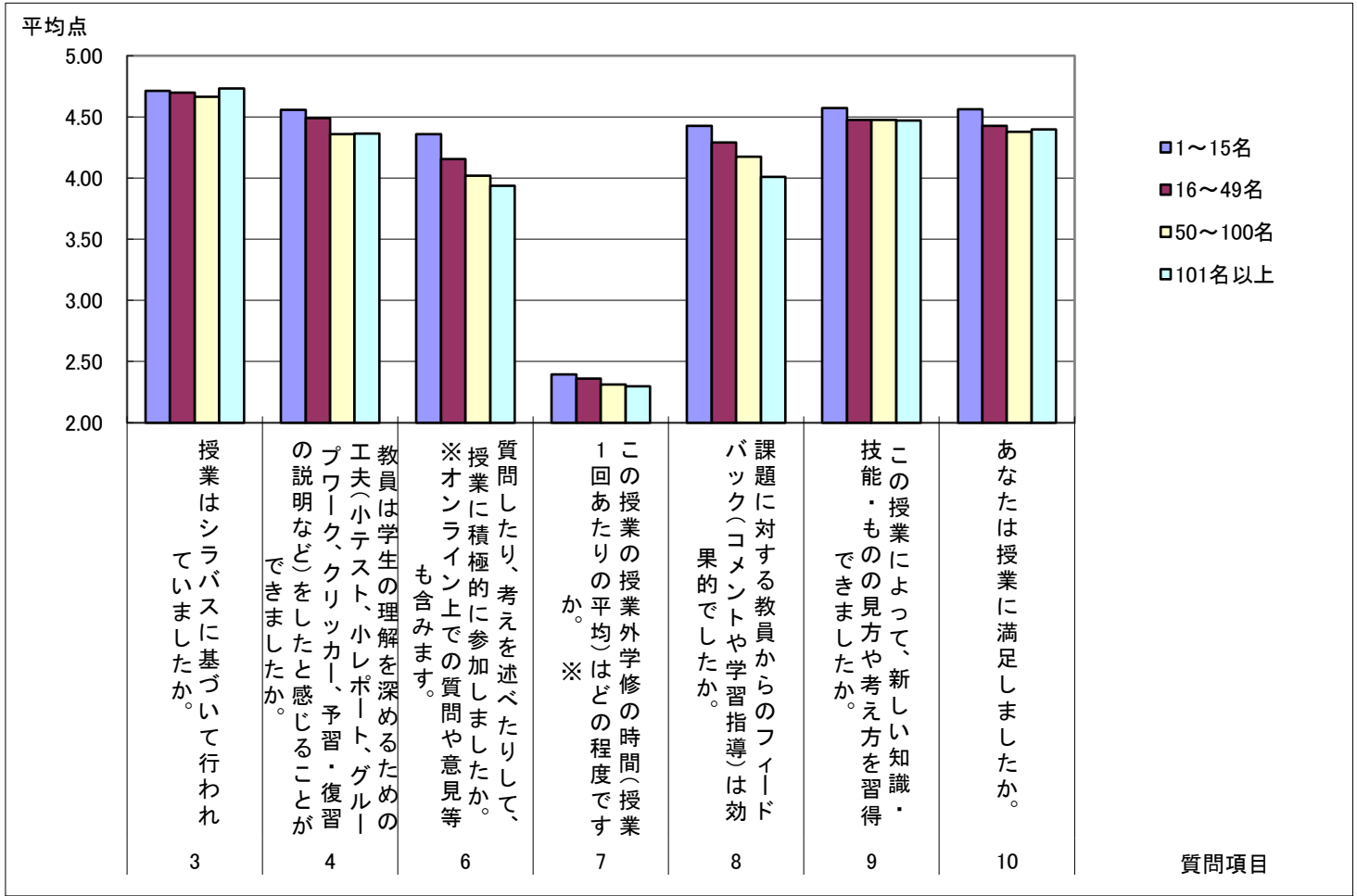


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,765	22,658	21,173	8,854
回答者数	1,105	9,683	6,531	2,574
回答率(%)	39.96	42.74	30.85	29.07

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.70	4.66	4.73
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.56	4.49	4.36	4.36
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.36	4.15	4.02	3.93
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.40	2.36	2.31	2.30
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.42	4.29	4.17	4.01
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.57	4.48	4.48	4.47
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.56	4.43	4.38	4.40

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

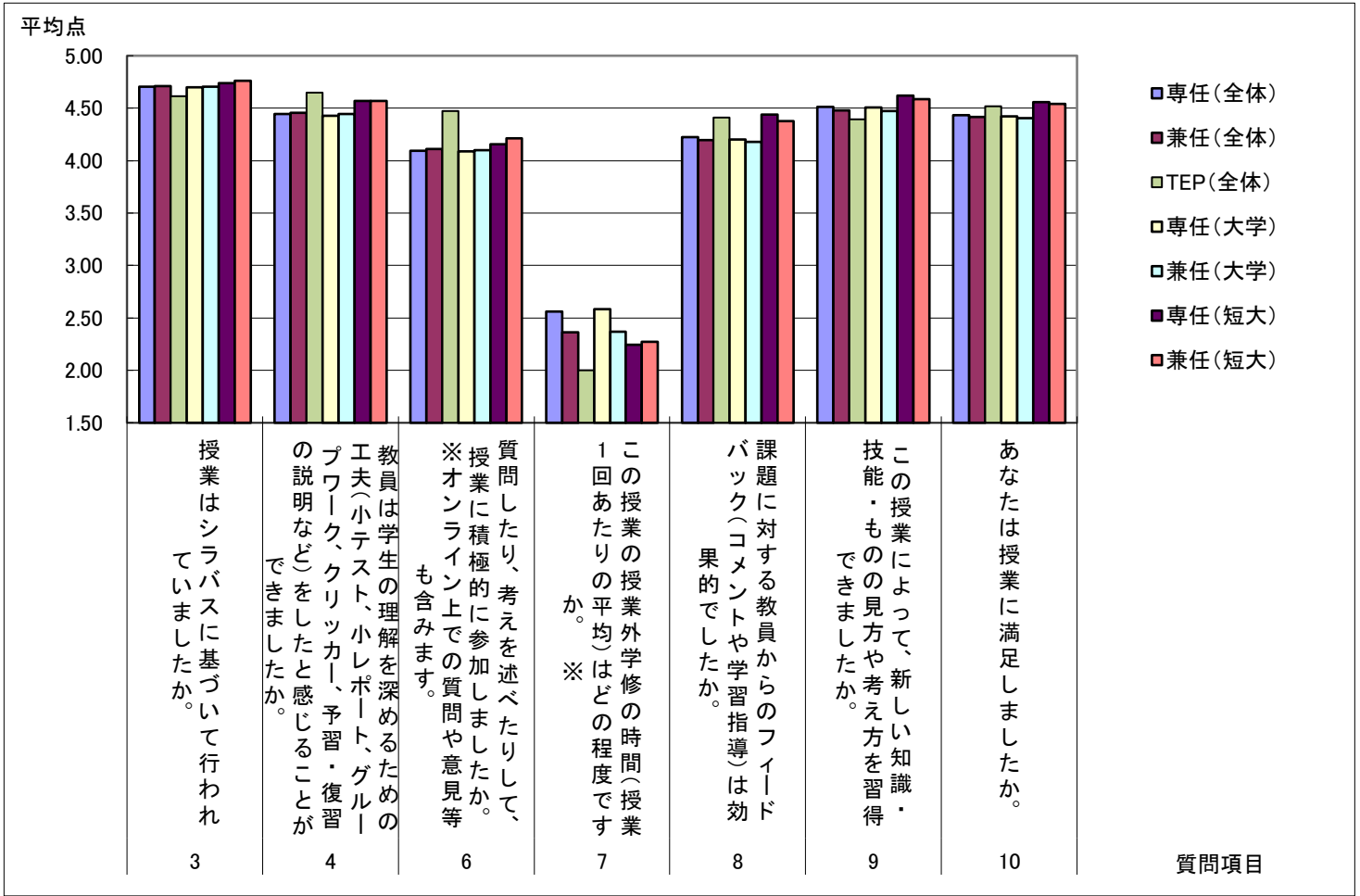


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	31,643	25,810	769	29,791	24,292	1,929	1,642
回答者数	12,850	11,679	354	11,718	10,917	1,169	805
回答率(%)	40.61	45.25	46.03	39.33	44.94	60.60	49.03

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.71	4.61	4.70	4.70	4.74	4.76
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.44	4.46	4.65	4.43	4.45	4.57	4.57
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.09	4.11	4.47	4.09	4.10	4.16	4.21
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.56	2.36	2.00	2.58	2.37	2.24	2.27
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.22	4.20	4.41	4.20	4.18	4.44	4.37
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.51	4.48	4.40	4.50	4.47	4.62	4.58
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.42	4.52	4.42	4.41	4.56	4.54

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

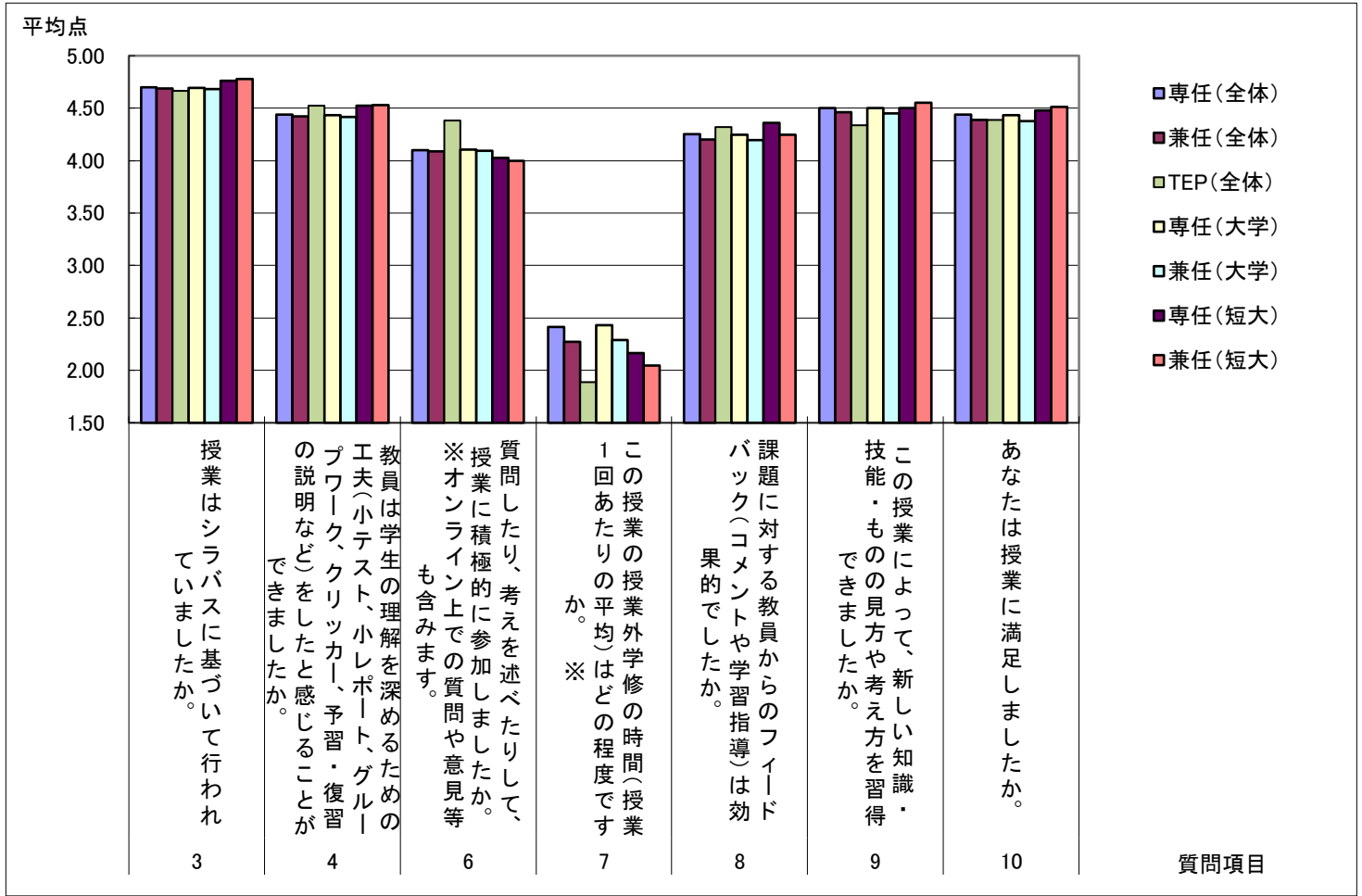


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	29,582	23,416	782	28,318	22,201	1,364	1,392
回答者数	9,750	9,295	272	9,051	8,665	731	695
回答率(%)	32.96	39.70	34.78	31.96	39.03	53.59	49.93

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.69	4.66	4.69	4.68	4.76	4.78
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.44	4.42	4.53	4.43	4.41	4.52	4.53
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.10	4.09	4.38	4.10	4.09	4.03	4.00
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.41	2.27	1.89	2.43	2.29	2.16	2.05
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.25	4.20	4.32	4.24	4.19	4.36	4.25
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.46	4.34	4.50	4.45	4.50	4.55
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.44	4.39	4.39	4.44	4.38	4.48	4.51

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

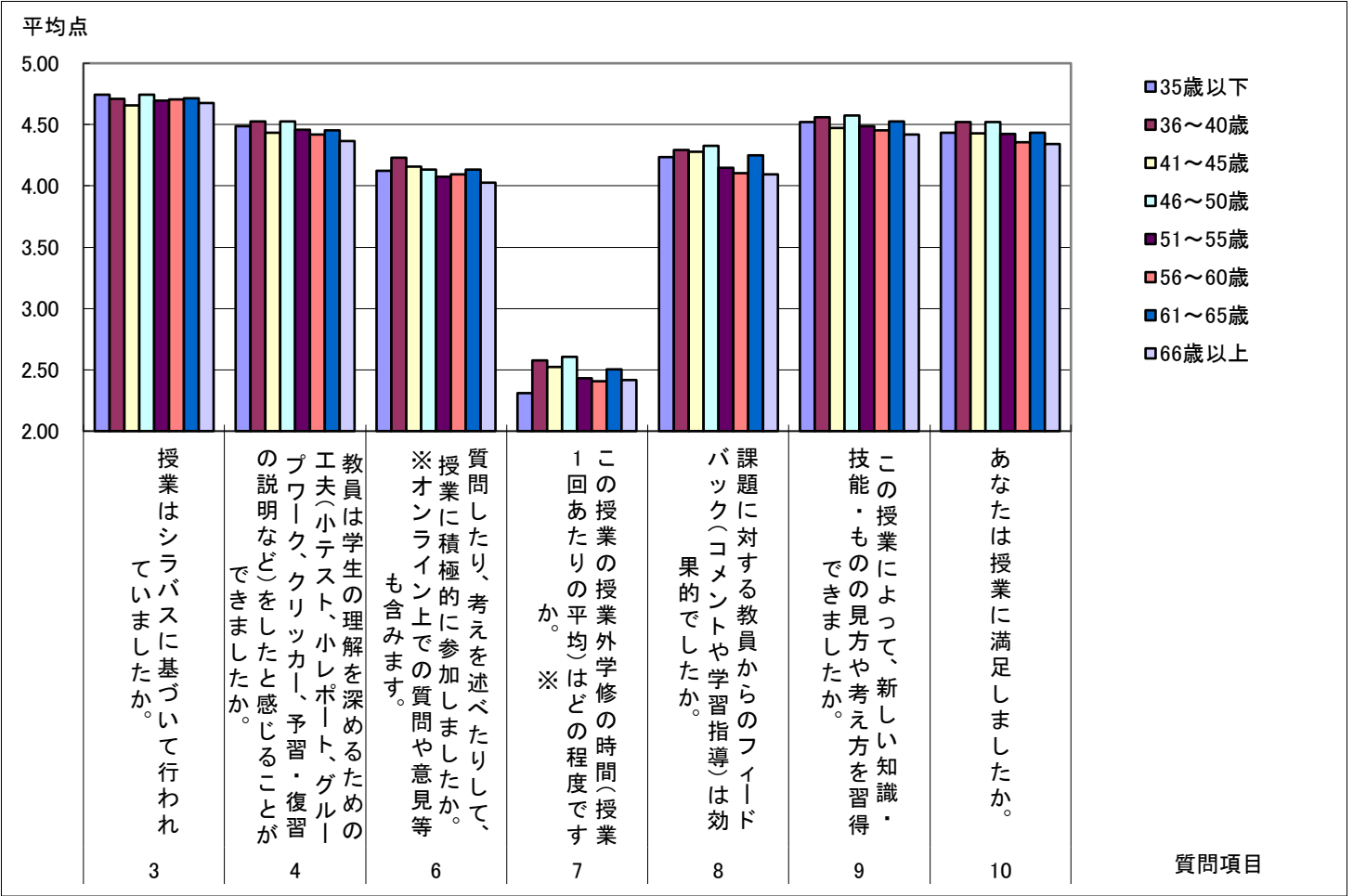


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,826	2,294	5,919	8,007	8,212	8,012	9,568	11,014
回答者数	808	917	2,427	3,095	3,449	3,162	4,080	5,051
回答率(%)	44.25	39.97	41.00	38.65	42.00	39.47	42.64	45.86

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.74	4.71	4.65	4.74	4.70	4.71	4.72	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.48	4.52	4.43	4.52	4.46	4.42	4.45	4.36
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.12	4.23	4.16	4.13	4.07	4.09	4.13	4.03
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.31	2.58	2.52	2.61	2.43	2.40	2.50	2.42
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.23	4.29	4.28	4.33	4.15	4.11	4.25	4.09
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.52	4.56	4.47	4.58	4.48	4.45	4.53	4.42
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.52	4.43	4.52	4.42	4.35	4.43	4.34

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

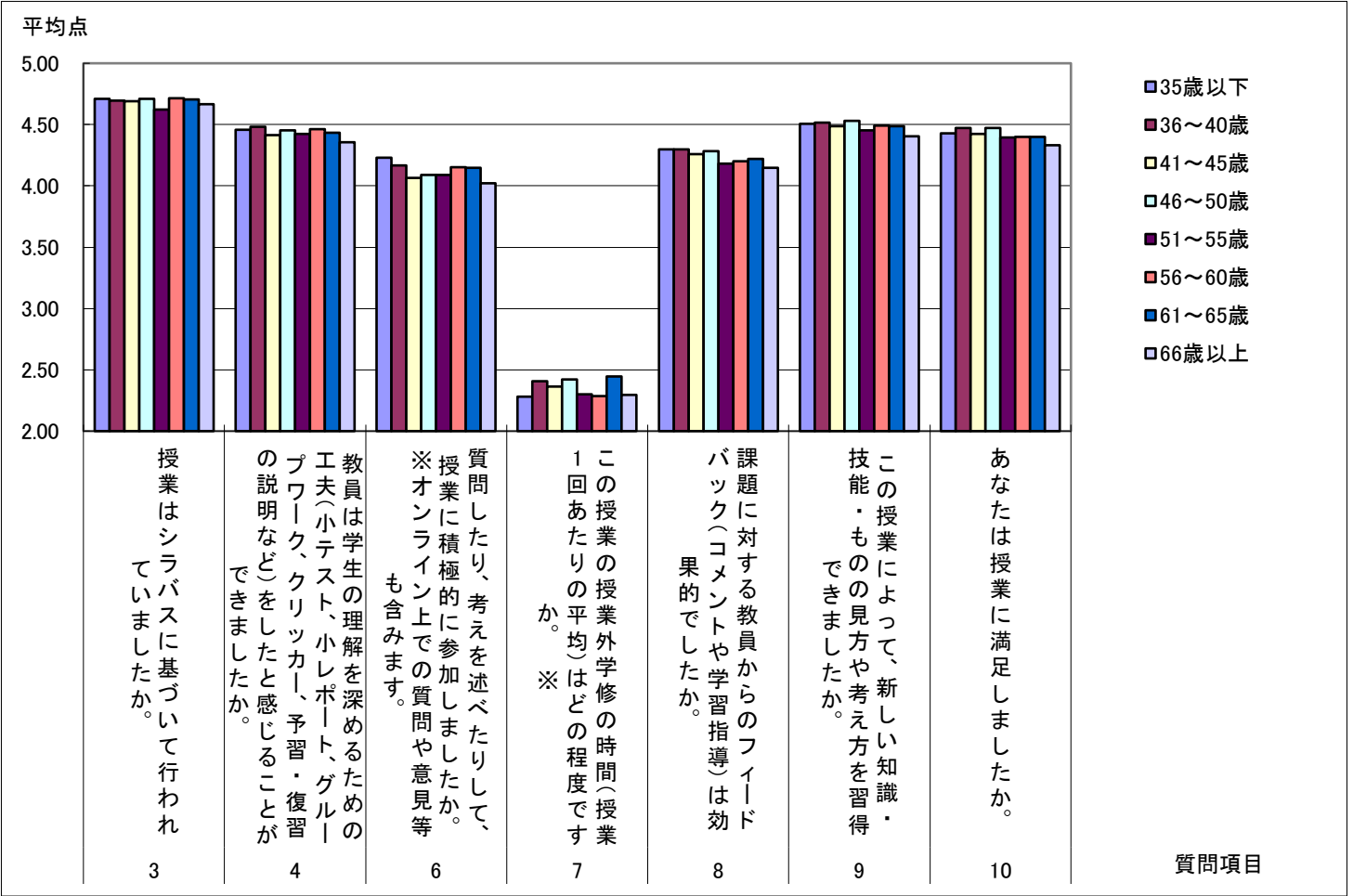


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,897	2,695	6,255	8,127	7,652	7,141	8,614	8,920
回答者数	661	959	2,200	2,774	2,595	2,549	2,991	3,259
回答率(%)	34.84	35.58	35.17	34.13	33.91	35.70	34.72	36.54

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.70	4.69	4.71	4.62	4.72	4.70	4.67
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.46	4.48	4.42	4.45	4.42	4.46	4.43	4.36
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.23	4.17	4.06	4.09	4.09	4.15	4.15	4.02
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.28	2.41	2.36	2.42	2.30	2.29	2.44	2.30
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.30	4.30	4.26	4.29	4.18	4.20	4.22	4.15
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.51	4.49	4.53	4.45	4.49	4.49	4.40
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.47	4.42	4.47	4.40	4.40	4.40	4.33

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

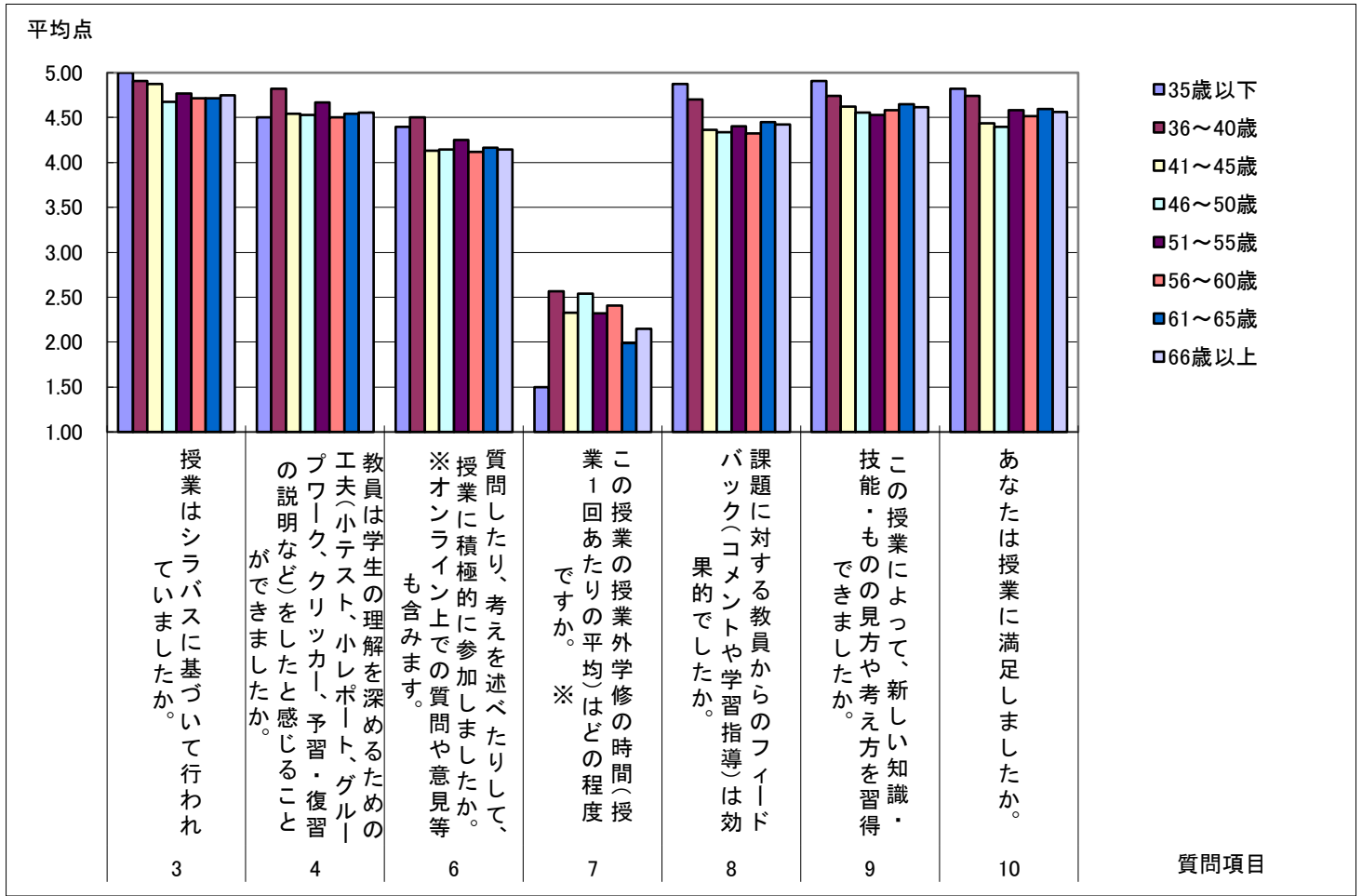


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	14	208	260	337	564	520	668	1,000
回答者数	11	87	98	218	302	303	385	570
回答率(%)	78.57	41.83	37.69	64.69	53.55	58.27	57.63	57.00

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	5.00	4.91	4.88	4.68	4.77	4.71	4.71	4.75
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.50	4.82	4.54	4.53	4.67	4.51	4.54	4.55
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.40	4.50	4.13	4.14	4.25	4.12	4.17	4.15
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	1.50	2.57	2.32	2.54	2.32	2.41	1.99	2.15
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.88	4.70	4.37	4.34	4.40	4.33	4.45	4.42
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.91	4.74	4.62	4.55	4.53	4.59	4.65	4.62
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.82	4.74	4.44	4.40	4.58	4.52	4.60	4.56

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

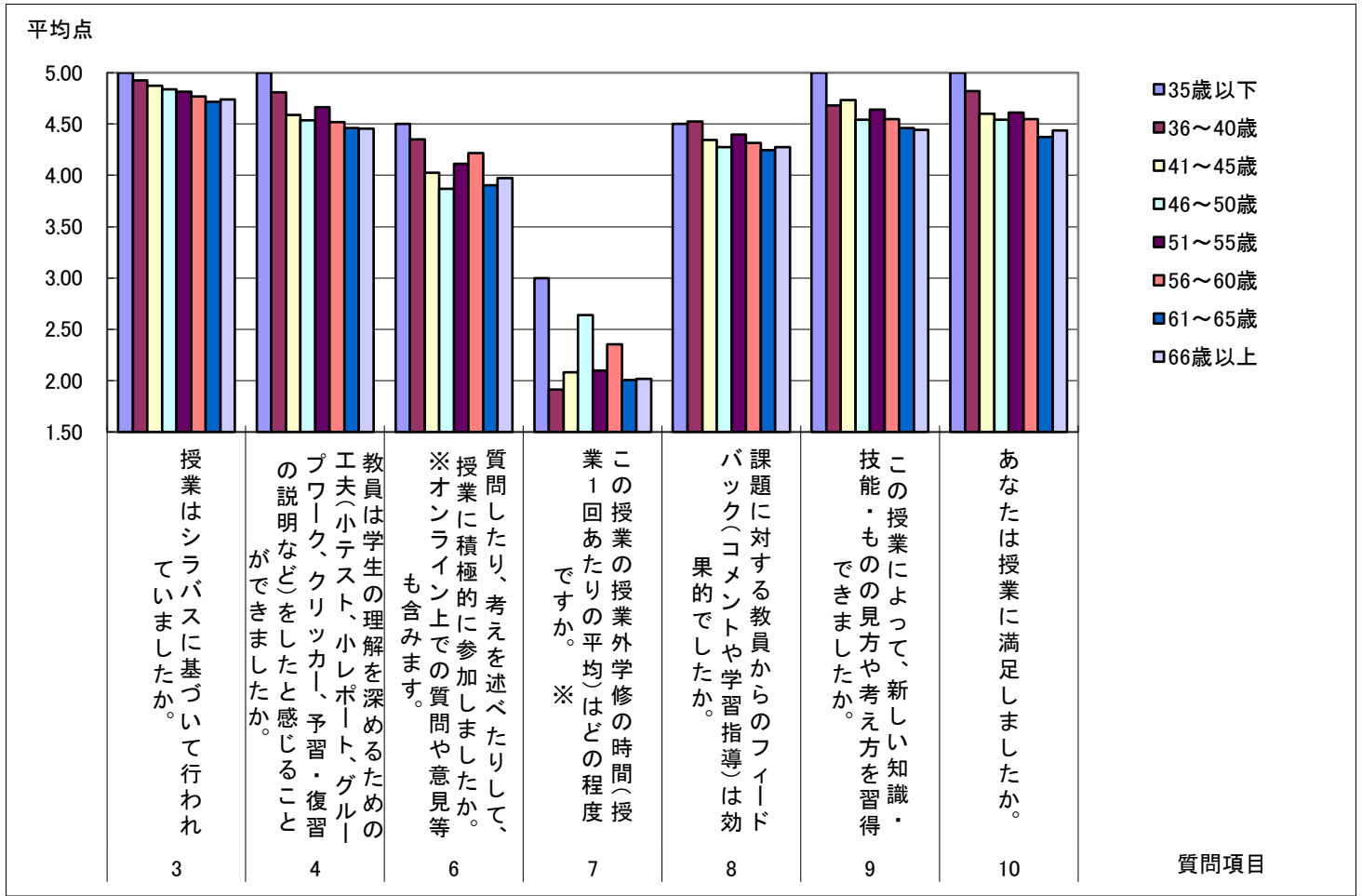


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	13	67	209	158	564	285	588	872
回答者数	3	28	90	83	290	144	314	474
回答率(%)	23.08	41.79	43.06	52.53	51.42	50.53	53.40	54.36

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	5.00	4.92	4.88	4.84	4.82	4.77	4.72	4.74
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	5.00	4.81	4.59	4.54	4.66	4.52	4.46	4.46
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.50	4.35	4.03	3.87	4.11	4.22	3.90	3.97
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	3.00	1.91	2.08	2.64	2.10	2.35	2.00	2.02
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.50	4.52	4.35	4.28	4.40	4.32	4.25	4.27
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	5.00	4.68	4.73	4.54	4.64	4.55	4.46	4.44
10 あなたは授業に満足しましたか。	5.00	4.82	4.60	4.54	4.61	4.55	4.37	4.44

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

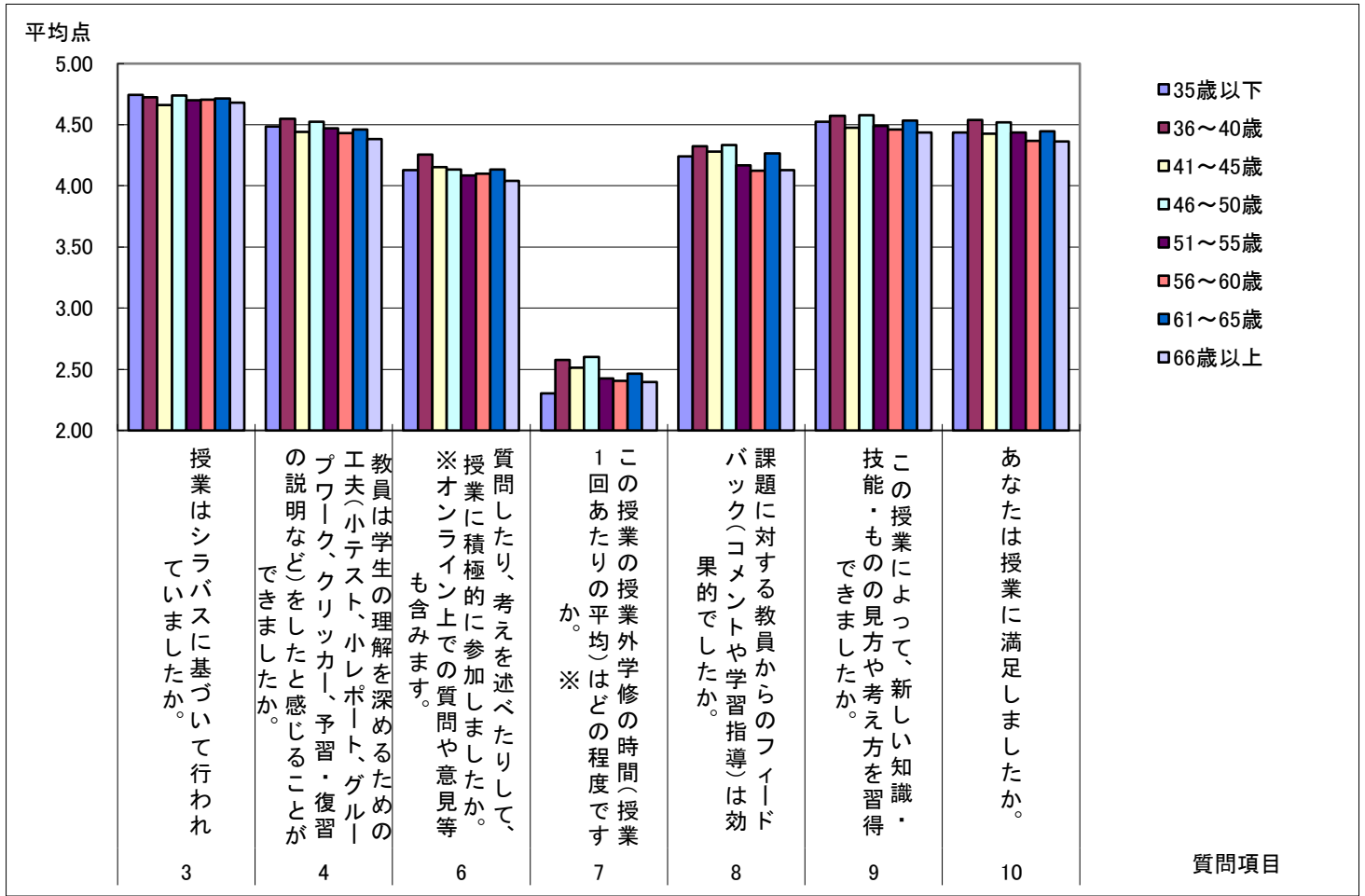


2023年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,840	2,502	6,136	8,323	8,732	8,498	10,236	11,955
回答者数	819	1,004	2,515	3,299	3,738	3,438	4,465	5,605
回答率(%)	44.51	40.13	40.99	39.64	42.81	40.46	43.62	46.88

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.75	4.73	4.66	4.74	4.70	4.71	4.72	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.49	4.55	4.44	4.53	4.47	4.43	4.46	4.39
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.13	4.25	4.16	4.14	4.09	4.10	4.13	4.04
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.31	2.58	2.51	2.60	2.43	2.41	2.47	2.39
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.24	4.33	4.28	4.33	4.17	4.13	4.27	4.13
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.52	4.57	4.48	4.58	4.49	4.46	4.54	4.44
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.44	4.54	4.43	4.52	4.44	4.37	4.45	4.37

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

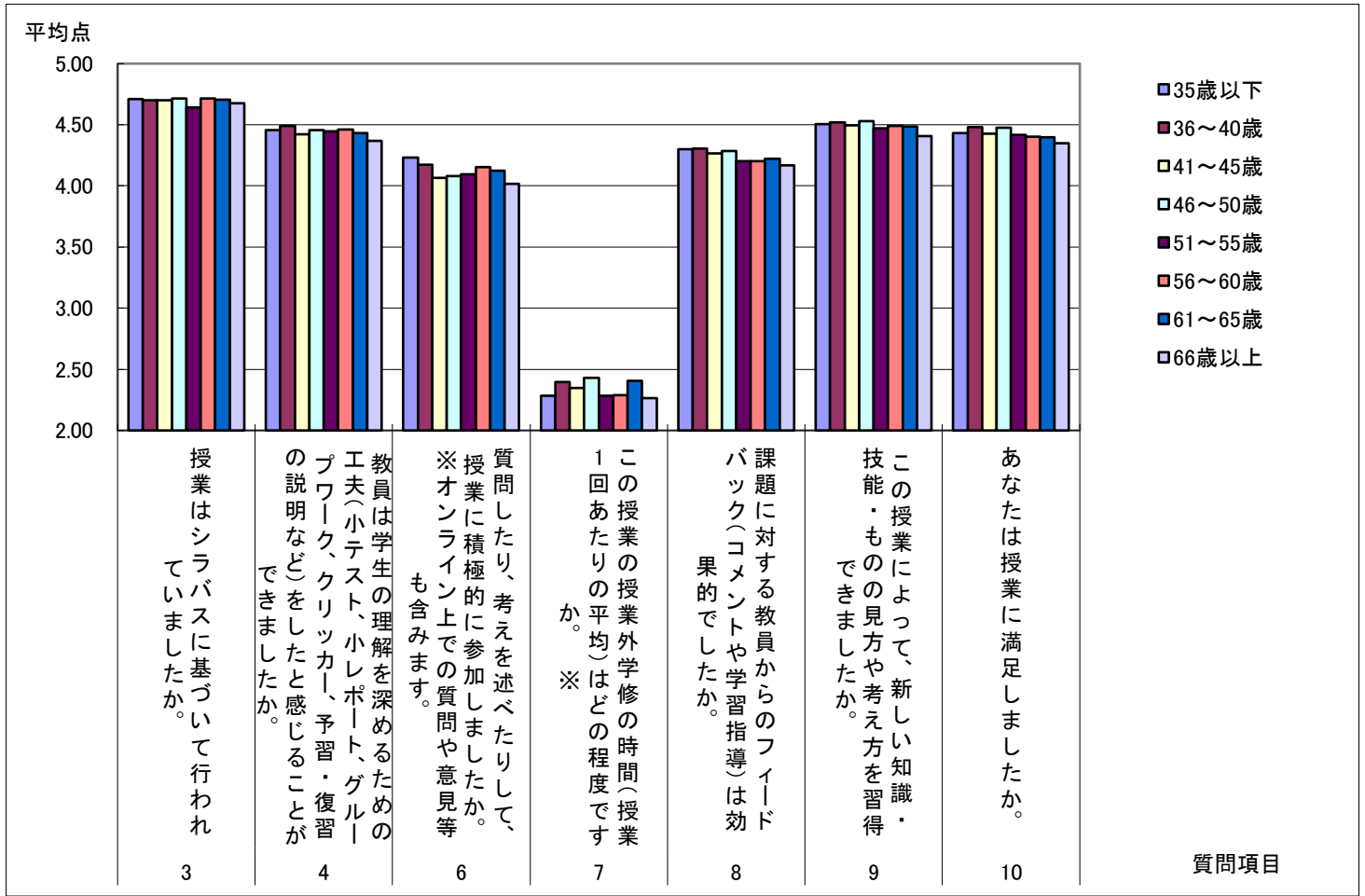


2023年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,910	2,762	6,419	8,265	8,216	7,305	9,177	9,726
回答者数	664	987	2,279	2,852	2,885	2,647	3,296	3,707
回答率(%)	34.76	35.73	35.50	34.51	35.11	36.24	35.92	38.11

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.70	4.70	4.71	4.64	4.72	4.70	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.46	4.49	4.42	4.46	4.45	4.46	4.43	4.37
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.23	4.17	4.07	4.08	4.09	4.15	4.12	4.02
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.28	2.39	2.35	2.43	2.28	2.29	2.41	2.27
8 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。	4.30	4.30	4.27	4.29	4.20	4.20	4.22	4.17
9 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.51	4.52	4.50	4.53	4.47	4.49	4.49	4.41
10 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.48	4.43	4.48	4.42	4.40	4.40	4.35

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2 各学部の令和5年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和5年度家政学部FD委員会構成

委員長：須藤良子（ライフデザイン学科）

委員：原木英一（被服学科） 岩瀬靖彦 玉木有子（食物学科） 矢野 博之（児童学科）
李憲（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：市川 博（家政学部長）

2. 授業改善のためのアンケート

令和5年度も、UNIPAを利用したWEB方式とし、コロナ禍の影響もにらんで、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全10問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和5年7月10日（月）から7月22日（土）までで実施。後期は令和5年12月11日（月）から12月23日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計結果等、概況を記す。

① 前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：12,369 名／29,230 名（回答率42.32%*昨年32.9%）

後期：10,104 名／28,898 名（回答率35.0% *昨年33.6%）

② 総評：家政学部全体として

「満足度」（Q10）の平均点は、前期4.45、後期4.40であった。前年度は前期4.44、後期4.40であったことから、前期は0.03ポイント上回り、後期昨年度同様の結果となった。また、「教員からのフィードバック」（Q8）は、今年度より追加した設問で、前期4.19、後期4.19で、ある程度効果的だったことがわかる。

③ 家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「食物学専攻専門科目」の後期では多くの項目で全体の平均点を下回っている。

Q7（授業外学修時間）を見てみると、専門科目では0.1ポイント以上上回る結果が多くみられた。Q10（満足度）を見てみると、0.1ポイント以上下回る結果はみられるが、上回る結果はなかった。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

④ 家政学部全体と授業形態別を比較して

「実技」「実験」「実習」が全体の平均点を上回る項目が多い結果であった。「実技」ではQ7（授業外学修時間）は全体の平均点を下回っている。Q6（授業への参加）を見てみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」では前後期ともに下回っている。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

⑤ 家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

例年同様に、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向である。Q6（授業への参加）を見てみると、「1～15名」と「16～30名」が前後期ともに0.1ポイント以上上回っており、「51～75名」と「101名以上」で0.1ポイント以上下回っている。Q8（教員からのフィードバック）を見てみると、「1～15名」「16～30名」が前後期ともに0.1ポイント以上上回っており、「101名以上」では0.1ポイント以上下回っている。

⑥ 家政学部全体と5学部所属学科専攻別を比較して

「環境情報学」が全体の平均点を上回る項目が多く、「食物学」、「管理栄養士」、「児童教育」、「コミュニケーション文化」が下回る項目が多い結果であった。Q8（教員からのフィードバック）を見てみると、「被服」では前後期、「食物学」と「管理栄養士」は後期が0.1ポイント以上下回り、「環境情報学」では前後期ともに0.1ポイント以上上回った。所属学科によって求めるフィードバックが異なっているのかもしれない。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

3. 学部専任教員によるFD報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和5年3月の年度末（3月18日受け取り期日）とし、下記のA～Dの項目について、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼し、各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、その後のコロナ禍等の諸対応の状況もにらみながら、令和5年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、昨年度と同等の設定問を設定した。

以下A～Dの4項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

項目A：今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

項目B：対面授業が復活しましたが、その利点および問題点を挙げてください。

項目C：対面授業が復活したことに伴い、成績評価の対応でどのような利点および問題点がありましたか？

項目D：アクティブ・ラーニングを実施した授業があれば、その効果や問題点を挙げてください。

4. 本年度の家政学部FD委員会による主な報告・審議事項

令和5年5月19日（金）令和4年度「家政学部FD活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF方式）

第1回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（5月23日（火））：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討、②家政学部内FD研修会の企画検討について

第2回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（令和6年2月14日（水））：UNIPAによる「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和5年度FD活動報告書作成に向けての確認

なお、令和5年度の活動報告の詳細については「2023年度家政学部FD報告書」を参照されたい。

「家政学部FD報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェアに外部委託し、令和5年2月14日（木）に発注、3月29日（金）に納品された。

5. 次年度への課題と引き継ぎ事項

- ・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（*コロナ対策の緩和が見えてきた上での、今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）
- ・令和6年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

(2) 文学部

2023 年度（令和 5 年度）の文学部 FD 活動は、前年度に引き続き、従来の活動予定を一部変更して実施した。例年、学科ごとに「授業担当者懇談会」、「保証人と教員の懇談会」、「公開授業」、「学会活動」等を実施するが、「保証人と教員の懇談会」と「公開授業」については実施を見送り、その点では規模を縮小しての活動内容であった。2021 年度（令和 3 年度）より開始した教員の学生との懇談会（以下、「文学部学生懇談会」とする）については、今年度は学科ごとの開催としたため、「4. 学科の FD 活動」に記載する。対面にて直接学生からの声を集約するという点で大きな意義のある活動であった。

1. 公開授業

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、今年度も公開授業の実施を見送った。ただし、文学部将来検討委員会からの案内に基づいて例年おこなわれる高大連携事業の公開授業は、今年度も実施されている。

2. 授業担当者懇談会

例年実施されている授業担当者懇談会については、今年度も予定通り 5 月に各学科にて実施された（日本文学科：5 月 13 日、英語英文学科：5 月 13 日、コミュニケーション文化学科：5 月 13 日）。学科ごとに実施スタイルは様々であるが、授業の進め方等を中心に常勤・非常勤教員との間で様々な情報提供、意見交換がなされた。

3. 保証人と教員の懇談会

千鳥会総会に併せて例年実施している保証人と教員の懇談会は、今年度も実施されなかった。

4. 学科の FD 活動

今年度は、文学部学生懇談会を学科ごとに実施した。本懇談会の目的は、文学部の教育環境、授業、学生生活全般に関して、授業評価アンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。以下では、各学科の実施状況について述べる。

日本文学科では、2023 年 11 月 16 日の昼休みに対面で学生懇談会を実施した。学部 FD 委員の 2 名が参加し、学生からは 3 年生 1 名、4 年生 3 名の参加があった。当日は欠席であったが、3 年生 1 名からは、別途意見を寄られた。

英語英文学科では、2023 年 12 月 21 日の昼休みに実施した。学部 FD 委員 2 名および英語英文学科学科長が参加した。参加した学生数は、3 年生が 3 名であった。

コミュニケーション文化学科では、2023 年 12 月 18 日の昼休みに実施した。学部 FD 委員 2 名およびコミュニケーション文化科学科長が参加した。参加した学生数は、3 年生が 1 名、2 年生が 2 名、1 年生が 4 名の合計 7 名であった。

事前の広報としては、学科ごとにポスターを作成し、学生が目にしやすい本館の各所に掲示した。また、manaba のコースニュースや授業時の案内を通じて学生への周知に努めた。学生の参加に当たっては事前の申し込みは不要とし、気軽な参加を促した。

学生との懇談は例年同様に自由討議形式とし、学生からの意見・要望等を集約することに徹した。授業履修、キャンパスライフ、留学等について多くの意見・要望が披露され、充実した懇談会となった。

懇談会を通じて学生から得られた意見・要望等は、「2023 年度 大妻女子大学文学部 FD 活動報告書」の一項目にまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。

その他、学科ごとに定例の学科会議や、臨時に開催される学科内の教員懇談会などの場において、授業の実施方法や学生への対応等について様々な情報の共有や意見交換がおこなわれた。

5. 学会活動

学会活動についても、引き続きコロナ禍の影響に配慮しつつ、新入生歓迎会、総会、講演会、例会、プレゼンテーション大会、レシテーションコンテスト、卒業論文発表会等、各学科学会にて様々な活動が実施された。

6. 授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の2回、前期は7月10日（月）から22日（土）、後期は12月11日（月）から23日（土）の期間に学内ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT にてオンラインで実施された。アンケートの実施対象としては、これまでの方針に従い、少人数履修者科目や特殊な実施形態の科目のような例外を除いて、原則として全ての授業を対象として実施された。

授業評価アンケートの資料「文学部全体」に示されたアンケート回答者数および回答者数の受講者数に占める割合（以下、回答率）は次の通りである。アンケート回答者数（括弧内は昨年度）は、前期 10,773 (8,891) 名、後期 8,909 (8,598) 名、前期と後期の回答者数を合算した総数は 19,682 (17,489) 名であり、昨年度より増加している。また、回答率（括弧内は昨年度）も、前期は 45.13 (36.51) %、後期は 38.25 (37.47) %、平均して 41.69 (36.99) %であり、これも昨年度と比べると増加している。今年度は学生へのアンケート周知回数が多く設定され、前期に7回（昨年度は2回）、後期に9回（昨年度は4回）行われたことが、回答者数と回答率の増加につながったと評価できよう。なお、今年度の全体回答率（前期：41.7%、後期：35.6%、平均：38.7%）と比較すれば、本学部の回答率はやや高くなっている。今後も、回答者数と回答率の増加傾向を維持すべく、学生のアンケートへの積極的な回答を促す方法を検討する必要がある。

なお、アンケート設問に対する回答結果としては、授業の進め方、授業成果、授業への満足度等について、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。

以上

(3) 社会情報学部

1. 令和5年度社会情報学部 FD 委員会構成

委員長 松本暢子（環境情報学専攻）、委員：山崎志郎（社会生活情報学専攻主任）、若林佳史（社会生活情報学専攻）、細谷夏実（環境情報学専攻主任）、市村哲（情報デザイン専攻主任）、宮崎美智子（情報デザイン専攻）、原田龍二（語学代表）、オブザーバー：関えいこ（学務助手：庶務・記録）。

2. 本年度の FD 活動の概要

今年度は社会情報学部が組織的な FD 活動を開始してから 22 年目にあたる。これまでの活動の成果を継承しつつ、教育現場に多大な影響をもたらすと思われる生成 AI についての研修会を行ったほか、コロナ禍で実施できなかった公開授業の再開など、FD 活動に取り組んだ。活動の企画や実施においては、定期的な委員会でのオンライン審議を中心に行った。また、Google Drive 上の共有フォルダの活用により、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。なお、活動の詳細については、『令和5年度大妻女子大学社会情報学部 FD 活動報告書』に報告している。

① 学生との意見交換会の開催

学生を交えた FD 活動が求められており、11 月 1 日の 5 限に教員と学生の意見交換の場を設け、オンラインで実施した。テーマは、昨年同様「入学当初の達成目的からみた社会情報学部の教育内容」とし、入学当初の目的と達成度からカリキュラムや教育内容について話し合った。

② FD 研修会および生成 AI に関する事前調査の実施

12 月 23 日に、FD 研修会「生成 AI と学部教育」を実施した。事前に専任教員を対象とした生成 AI に関する調査を行うとともに、藤村考教授による講演を行った。研修会はオンライン形式で行い、欠席者は録画視聴とした。

③ FD 研究会の実施

特定枠プロジェクト研究への助成を毎年行っており、小野茂教授による「PROG コンピテンシーテスト—2022 年度プロジェクト研究（特定枠）—」の報告があり、参加者からの質疑応答が行われた。

④ 特定枠プロジェクト研究の募集・実施

特定枠プロジェクト研究の助成対象を募集した結果、以下の研究に助成した。

研究テーマ：

「環境と情報の連結による学生の主体的学びと社会への情報発信への PBL プログラムの開発」

研究参加者：木下 勇（代表） 磯山直也

「本学におけるメタバース活用のノウハウ獲得」

研究参加者：市村 哲（代表） 中野希大

⑤ 入学時の学生生活調査アンケートの実施

新入生に対して 4 月に「入学時の学生生活調査アンケート」を実施した。アンケートは Google Forms を利用して匿名性を確保しつつ行った。

⑥ 卒業時の学生生活調査アンケートの実施

卒業時の学生生活調査アンケートを 12 月中旬～1 月末に Google Forms を利用して実施した。大学生活を振り返り、目的達成度や満足度をはかる調査であるが、回収率が芳しくなく、来年度は実施方法も含めた対応が必要である。

⑦ 「良い授業評価のために」への専攻別取組み

生活専攻ではゼミ（アンケート調査、および議論）、環境専攻では1年次配当必須科目「環境情報学基礎演習」、情報専攻では1年次必修科目「情報デザイン基礎演習」において、「授業改善のためのアンケート」の目的や位置づけ及びその意義、設問の意図などの解説を行った。

⑧ オフィスアワーの設定

大学 HP の教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される授業形態に応じた対応を行った。オフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員のアクセスを確保することとした。

⑨ 「授業改善のためのアンケート」に関する教員の意見書の提出

授業評価アンケートの結果に関する教員の意見書（前期、後期各 1 科目）の提出をまとめ、学部教員に配布した。来年度以降は、学部内での公開を WEB 化することを決めた。

⑩ 公開授業の実施

コロナ禍で 2020 年度以降、実施していなかった公開授業を再開した。公開する授業は本学部教員の担当する授業すべてとした。なお、オンライン授業における参観は除外した。今年度は、公開期間を後期の 1 か月間（10 月 17 日（月）～11 月 20 日（土））とし、FD 委員が中心となって参観した。

⑪ 休講の実態調査

例年通り、教員が提出した休講届をもとに、休講数及び補講状況を把握した。

3. その他

保護者懇談会を学部主催で文化祭に合わせて、10 月 22 日に開催した。保護者向けの就職状況の説明後、専攻別学年別に保護者と教員の懇談が行われた。多くの保護者の参加を得て盛会であった。

一方、FD 活動として行っている各種アンケート調査における回収率は、WEB 化以前と比較すると低下しており、調査結果の分析やその活用において由々しき状況となっている。とりわけ、今年度の卒業時の学生生活アンケート調査は回収率が低く、統計的分析には耐えないものとなっており、来年度への引継ぎ事項となっている。学生がこうした調査の意義を理解し、どのように対処すべきかを考えるために、「良い授業評価のために」として取り組んでいるが、こうした取り組みを含めた調査結果等の学生へのフィードバックについても検討していくことが必要となっている。

(4) 人間関係学部

1. 令和5年度人間関係学部FD委員会構成

齊藤豊（人間関係学部学部長） 福島哲夫（人間関係学科長） 上野優子（人間福祉学科長）
伊藤美登里（人間関係学科社会学専攻） 三好真（人間関係学科社会・臨床心理学専攻）
山本真知子（人間福祉学科：人間関係学部FD委員長）

2. 令和5年度人間関係学部FD活動一覧

- ・オフィスアワー 基本は対面ではあるが一部オンラインを組み合わせ実施
- ・授業担当者懇談会
（社会学専攻） 令和5年5月27日
（社会・臨床心理学専攻） 令和5年5月27日
（人間福祉学科） 令和5年5月27日
- ・人間関係学部FD研修会（人間関係学部FD委員会主催） 令和5年12月8日
- ・保護者懇談会 令和5年10月28日
- ・学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会 令和5年12月15日

3. 各FD活動の内容

1) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のUNIPAでこれを公開している。本年度は基本対面で一部オンラインの組み合わせにより実施した。

2) 授業担当者懇談会の実施

例年前期に実施している非常勤講師の先生との授業担当者懇談会を今年度も5月27日に実施した。教育懇談会の内容については、令和5年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

3) 人間関係学部FD研修会の実施

12月8日に「次世代の大学教育へのパラダイムシフト～人と技術の活用～」という全体のテーマのもと、3つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3つのテーマは「違う学年でのコミュニケーション～教員と学生の連携について～」 「授業の展開の方法～AIツールの活用など～」 「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」である。研修会の内容と参加者の意見については、令和5年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

4) 授業改善のためのアンケートの実施

令和5年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。授業改善のための改善アンケートも実施しており、令和5年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

5) 学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会の実施

教育の質の更なる向上に向けて、令和 5 年度においても、12 月 15 日に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和 5 年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

6) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教育学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

その他、より良い授業を目指すための環境やメディアに関する設備等に関して各事務部署と連携を取っている。

7) 各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。感染症対策が 5 類になった後に対面で行われた人間関係学部 FD 委員会主催の研修会では、他学科・他専攻の教員がそれぞれの研究や授業に対する内容を積極的に共有しており、引き続き今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

8) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和 5 年度人間関係学部 FD 報告書の中でも各教員が 1 年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

(5) 比較文化学部

本学部では主に、①授業改善のためのアンケートの実施、②授業担当者懇談会、③父母・教員懇談会、④オフィスアワーの実施に取り組んだ。

紙幅の関係で、以下では主に①について詳細に報告する。

①「授業改善のためのアンケート」実施について

a) アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

期間：令和5年7月10日(月)～7月22日(土)

方法：全ての対象科目において、学生はUNIPAからアンケート回答ができる。

授業担当者は該当科目の履修者に回答をうながす。

【後期】

期間：令和5年12月11日(月)～12月23日(土)

方法：前期と同様

昨年度と同様に、いずれも、UNIPAからアンケート実施期間開始が学生に通知され、学生はUNIPAにログインしてアンケートを実施した。

アンケートの質問数は、短時間で回答できるように原則選択式とし、設問も10問程度に絞られた。

前年度の設問に「8. 課題に対する教員からのフィードバック(コメントや学習指導)は効果的でしたか。」を加えた。

b) 実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部では、原則として演習授業(3年次必修の比較文化演習ならびに4年次必修の比較文化セミナー)を除く、すべての科目でアンケートを実施した。

c) 実施科目の受講者数と有効回答数

アンケート実施科目の累計受講者数は、前期20,536名、うち有効回答者数9,163名(回答率44.6%)であった。後期アンケート実施科目の累計受講者数は20,743名、うち有効回答者数7,625名(回答率36.8%)であった。

d) 集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは全体および各授業別の集計結果だけでなく、所属学科・学年・授業方法(演習・講義等)・職名(専任・兼任)・クラスサイズ・年齢・設問・授業区分(教養・専門)・言語(スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語・韓国語・中国語)別の集計結果を得た。

e) アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後に担当教員がUNIPAで直接確認することができる。アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPAを通じ、授業担当教員にその旨を告知した。

f) 教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員4名、非常勤教員3名の計7名から、後期は専任教員3名、非常勤教員3名の計6名から回答があった。

g) 一連のサイクル実施の報告

PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

h) 公開するアンケート集計結果について

アンケートの集計結果はそのまま本報告書に公開する。学生による意見・感想（設問 1）は、非常に示唆的なコメントが見られる一方で、ときとして感情的な発言も散見されるため、昨年度同様に掲載を見送る。教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答であるため、表記統一と誤字脱字の修正を除き、原則として編集せずに掲載した。

アンケートが Web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果について即座に確認することができるようになった。ただし、類似する他の授業—たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など—にも同様の集計結果が共通して得られるものかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、報告書には専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載している。

②授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 5 年 5 月 13 日（土）に対面で実施した。

③父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 5 年 11 月 11 日（土）に対面で実施した。

④オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。

その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

（６）短期大学部

１．令和５年度短期大学部 FD 委員会の構成と活動方針

短期大学部 FD 委員会は家政３専攻から各１名、国文科から１名、英文科から１名の計５名の専任教員によって構成されている。令和５年度委員会では、前年度に引き続き、おおむね以下の項目を中心にして、FD 活動の実施・検討を行った。

- （１）授業改善のためのアンケート（２）オフィス・アワー（３）ホームページ（４）保証人との懇談会
（５）授業公開（６）学習支援活動（７）FD 講演会、FD 研修会（８）満足度調査

２．令和５年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和５（２０２３）年度 FD 活動報告書第 21 号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

（１）「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、学内ポータルサイト「ユニバーサルパスポート（ユニバ）」を利用してオンラインで行い、設問数は全 10 問であった。アンケートの実施期間は、前期は令和５年 7 月 10 日（月）～7 月 22 日（土）、後期は令和５年 12 月 11 日（月）～12 月 23 日（土）で行った。アンケート期間終了後に各教員がユニバで回答結果を確認した。

（２）オフィス・アワーについて

専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度もコロナ禍対応中であるため、E メール等も活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

（３）ホームページについて

今年度は、短期大学部ホームページのリニューアルを行い、明るい基調のデザインに一新した。トップ部分にはカルーセル（スライドするバナー）が採用され、強調したい内容により注意を向けさせる機能が追加された。コンテンツの管理に関しては、各学科、専攻でのイベント案内、在学生インタビュー動画、教員の著書刊行などの学術・研究成果の公表などの情報掲載を行った。

リニューアルはしたもの、ホームページ閲覧のための入り口が学院ホームページからのリンク、日本短期大学協会からのリンクしかないため、より多くの閲覧を獲得するためには、より多くのエンタランスポイントが必要となる。より検索されやすくなるようサイトのキャッチフレーズに「東京の短大で栄養士になる／家政・ビジネスを学ぶ」といった文言を追加し SEO 対策を行った。他に考えられる方策としては、検索キーワードとの連動広告などがあげられる。これは短期大学部のみの問題ではないと考えられるので、全学的な調整が必要である。

（４）保証人との懇談会について

令和５年度は、家政科３専攻が保証人との懇談会を実施した。家政専攻では、学科専攻説明、クラス担任と保護者との懇談に加え、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容

をスライド、資料配布で紹介した。また、適宜、校舎内の見学が行われた。生活総合ビジネス専攻では、教職員の紹介、専攻・資格の説明、成績表の見方、編入について、就職についてなどをパワーポイントを用いて説明した。当日に開催した「卒業生からのアドバイス」を撮影した動画も流し、1年生の授業風景を楽しんでもらった。最後に専攻主任から令和7年度からの本専攻募集停止の報告を行った。食物栄養専攻では、2年生の保護者には教員との懇談会後に、学生による「校外実習報告会」を参観してもらった。1年生の保護者には、教員との懇談会後にコタカフェで「懇親会」を行った。保護者からいろいろな情報を得ることができ、良い交流の機会となった。

国文科、英文科は実施しなかった。

(5) 授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員16名が授業を公開し、国文科では専任教員1名が、英文科では専任教員1名が公開担当した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施した。参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、今後の授業の改善に繋げた。

(6) 学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施された。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

(7) 短期大学部主催FD講演会・FD研修会について

FD講演会は、「短大生のキャリア形成の現状」を令和5年11月9日（木）にオンライン（zoom）で開催した。講師は株式会社エービーシーエデュケーションの山本みどり氏である。短大生のキャリア自律について、企業を取り巻く環境を含め具体的にお話ししていただいた。短期大学部の全員の教員が参加し、「非常に参考になった」との感想が寄せられた。またFD研修会「授業改善を学生とともに考える」を令和6年2月13日（火）に対面で開催した。当日の参加者は、学生8名と、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、有志の教員の12名で、合計20名であった。あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、学科専攻ごとに分かれ議論した。学生からは活発な意見が寄せられ、直接学生の声を聴く貴重な機会となり、多くの示唆を得た研修会となった。

(8) 満足度調査について

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として実施しており、2024年1月15日～2月4日の期間にオンラインで行った。卒業年次生を対象として無記名で実施したところ、総回答数は93名であった。

「全体的にみて」の項目では、「満足」が58.0%（昨年は52.0%）で、「やや満足」の25.8%（昨年は26.0%）を加えると83.8%（昨年は78.0%）となり、概ね満足と答えている。「満足」と答えた者の割合は、2022年度よりも6.0%高くなり、全体的にみた学生の満足度は上昇した。

以上

3 人間文化研究科の令和5年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、令和4年度～6年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

I. 令和4年～6年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了時アンケート」
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。また、大学院生の就職支援体制の充実に努める。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動
社会人院生に対して制度の充実や環境整備を具体的にどのように推進していくか検討する。
- ⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動
専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。
大学院の組織の見直しを随時検討する。

- ⑫ その他の活動
大学院生室の有効活用の検討などを行う

Ⅱ. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①から③は、Google フォームによる WEB アンケートを利用している。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、10月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で10月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了時アンケート」

令和5年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に2月～3月にかけて実施した。その結果については、「Ⅴ. 大学院修了時アンケート（結果の概要）」として、本報告書に掲載した。

Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

Ⅲ-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、14年目を迎えた。本年度も「大学院 FD 活動実施計画」に基づき、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（Ⅳ.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施した。以下に両調査の結果の概要を提示する。

Ⅲ-2 進学意識に関する調査の目的と方法

「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

Ⅲ-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は、次の要領に基づいて実施した。

- (1) 調査の対象：令和5年度人間文化研究科各専攻修士1年生16名を対象とした。回答者は11名だった。
- (2) 調査の期間：令和5年10月13日（金）～10月31日（火）→11月14日（火）まで延長
- (3) 調査の方法：Google フォームによる WEB アンケート。
- (4) 回収の状況：平成29年度から今年度までの1年生の回答者数と回収率を表1に示した。期間中、5度、回答催促を行った。今年度の回収率は68.8%で、一昨年度および昨年度の59.2%と比較すると増加した。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成29年度 (H29)	平成30年度 (H30)	令和元年度 (R1)	令和2年度 (R2)	令和3年度 (R3)	令和4年度 (R4)	令和5年度 (R5)
新入学者	24	18	18	18	12	27	16
回答者	19	12	17	15	10	16	11
回答率(%)	79.2	66.7	94.4	83.3	83.3	59.2	68.8

Ⅲ-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る1～12項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	R4 (n=16)	R5 (n=11)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	3.9	2.9	3.4	2.8	3.2	3.6	3.8
2	専門分野の学位が取れること	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8	4.2	4.3
3	就職に有利になること	3.3	2.3	2.5	3.0	2.6	2.8	2.5
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	3.2	3.0	2.6	3.3	2.9	2.5	2.5
5	指導を受けたい教員がいること	4.4	3.8	4.0	4.5	3.9	4.0	4.2
6	大学のネームバリューがあること	2.5	2.2	1.8	2.5	2.0	2.6	1.8
7	就職を先に延ばせること	1.7	1.6	1.3	1.3	1.2	1.4	1.4
8	希望する就職先がなかったこと	1.4	1.2	0.6	1.4	1.3	0.7	1.7
9	奨学金を受給できること	2.3	1.6	1.8	1.3	0.6	0.9	1.4
10	専門の資格が取れること	3.8	3.1	2.6	2.0	3.1	3.6	3.2
11	研究したいことがあること	4.3	3.8	4.1	4.2	3.6	4.0	4.2
12	在学中の学費の支払いのこと	3.5	3.4	2.9	3.4	2.8	2.9	2.4

※表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「指導を受けたい教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」といった項目が上位を占める。一方、「将来、研究職・臨床職に就きたいこと」「専門の資格が取れること」も比較的上位にある。

Ⅲ-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)	R4 (n=16)	R5 (n=11)
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	2.8	1.7	2.4	2.0	1.6	2.2	2.3
2	大学院に行っている友人・知人からの情報	2.9	2.0	2.9	2.1	1.8	2.2	2.6
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.8	2.2	1.9	1.3	0.9	1.5	1.5
4	自分の配偶者の意見	0.6	1.1	0.8	0.2	1.3	0.7	0.1
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	2.1	1.2	1.1	0.9	0.8	1.9	0.4
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	2.9	2.6	2.6	2.3	1.4	3.4	3.1
7	学内の大学院進学説明会	3.6	2.9	1.8	2.6	2.1	3.3	2.8
8	学外の大学院進学説明会	1.4	0.8	0.8	0.2	1.4	1.8	1.3
9	本学のホームページの記事	2.6	2.0	2.9	2.5	1.3	2.9	2.5

10	指導教員になる教員との相談	3.9	4.2	4.2	4.5	3.6	3.6	3.6
11	学部時代お世話になった教員との相談	3.0	3.4	3.1	2.9	2.4	設問欄なし	設問欄なし
12	出身の大学の先生との相談	3.0	3.6	2.5	2.0	2.5	2.6	3.3
13	出身の高校の先生との相談	0.8	0.2	0.4	0.3	0	0.2	0.2
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追及していくうえで最適な場所と考えたから	3.8	3.6	3.9	3.9	3.1	3.3	3.4
15	他の大学院にはない独創的な文化資源（蔵書、マニュスクリプト、物的資料など）があると考えたから	2.1	1.8	1.9	2.4	1.6	2.4	1.5

※表中数値は平均値

「指導教員になる教員との相談」が高い得点であるのは、例年通りである。「学内の大学院進学説明会」「本学発行の大学院紹介パンフレット」が高い得点となったのは、新しい傾向であると考えられる。

Ⅲ-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」の質問に対しては、11名中9名が「いいえ」と答え、1名が未記入であった。他大学大学院受験生は1名であり、大学名の記載は未記入であった。

Ⅲ-7 大学院修了後の進路及びどのような大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どのように考えていますか」については、平成29年度からの推移を表4にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表4 大学院修了後の進路について（複数回答）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
1 博士後期課程に進学したい	26	42	35	13	0	37	36
2 外国に留学したい	16	17	6	0	10	6	9
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	21	25	12	13	0	6	18
4 専門社会調査士として就職したい	0	17	6	0	0	0	0
5 臨床心理士として就職したい	37	33	24	13	40	44	27
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	16	8	24	13	20	19	27
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	0	17	24	20	0	19	18
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	16	17	24	13	30	12	0
9 公務員として就職したい	11	17	12	20	0	25	18
10 大学教員として就職したい	16	8	29	13	0	12	27
11 まだ具体的に考えていない	5	8	18	27	60	19	27

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表4に関しては、「臨床心理士として就職したい」が、昨年44%から今年は27%に低下した。また、「博士後期課程に進学したい」が昨年37%から今年は36%と横這いとなった。

「どんな大学院生活を送りたいか」の質問に対しては、平成29年度からの推移を表5にまとめた。複数回答であるため、数字は回答率で示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	63	17	59	53	30	37	54
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	58	50	53	80	70	62	72
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	42	25	18	0	30	25	18
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	16	8	18	0	30	25	9
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	16	8	12	20	20	12	0
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	37	25	18	47	30	56	27
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	11	17	12	7	10	12	9
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	6	8	12	13	20	19	27
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	16	17	18	33	20	25	36
10 どうするか、まだはつきり考えていない			9	7	0	0	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

回答率が高い順に、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」72%、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」54%、「自由な時間をできるだけ楽しみたい」36%、「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」と「アルバイトや遊びも大いにやりたい」が27%という結果が得られた。

Ⅲ-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと」の質問に対しては、以下の4件の記載があった。

- ・学費や生活費、その他諸々の費用などの支払いと学業、研究生活と両立できるか。アルバイトをする時間はあるのか、修士課程に進んだ後、本当にやりたいことは見つかるのかなど。
- ・周囲に進学する人がいなかった為、少し心細かったと共に就職がしづらくなるかもしれないと先生方からお話をいただき少し悩みました。
- ・自分の性格が緊張しいため、発表などへの心配
- ・学費を自分で払うことができるかを悩んだことがある。

Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度から回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

（ア）調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生60名

（イ）回収の状況：45件の回答があった（回答率75%）。

結果の概要は以下の通りである。

Ⅳ-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表6の通りである。問1から問4までの各項目は5段階評価で概ね4点前後にあり、コロナ禍による制約が減じたことが、この高い数値をもたらしたもの

と思われる。

しかしながら、問5の学外研究・学外実習に関する項目は修士課程が3.8、博士後期課程が4.2と低く、全平均も3.8にとどまった。昨年度よりも若干回復したものの、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ完全には払拭されていないことがわかる。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
		シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった	学外研究・学外実習について希望通り実施することができた
修士課程	39	3.9	4.1	4.3	4.1	3.8
博士後期課程	6	4.2	4.2	4.3	4	4.2
全平均	45	3.9	4.1	4.3	4.1	3.8
最高点	45	5	5	5	5	5
最低点		1	3	3	1	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

事務手続きのシステム全般、およびガイダンスの日程や実施方法、図書館他学校の施設設備については4前後の評価が得られており、コロナ禍に対応した運用ができていたと考えられた。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
		システム全般の手続き方法について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している	院生自習室の利用方法について満足している
修士課程	39	3.7	3.8	3.7	4.3
博士後期課程	6	3.7	4.2	3.7	3.8
全平均	45	3.7	3.8	3.7	4.2
最高点	45	5	5	5	5
最低点		1	2	1	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11	問12	問14
		院生自習室の設備について満足している	事務職員の対応は適切であった	大学院の学費・奨学金は適切であった	授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた。
修士課程	39	3.9	4.2	3.8	4
博士後期課程	6	4.2	4.5	3.4	5
全平均	45	3.9	4.2	3.7	4.1
最高点	45	5	5	5	5
最低点		2	1	1	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

評価結果から、全体的には適切であったといえよう。しかしながら、**IV-2**にとりあげた自由記述欄の記載から、多摩キャンパスにおけるプリンタ関連の不満の声が顕著である。

IV-2 大学院の授業全般（問 1～5）、履修・研究環境（問 6～9）、教育・研究支援（問 10～12）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1.「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・自分の学びたいことを中心にしっかり学ぶことが出来た。
- ・先生がお忙しく、なかなかゆっくりご相談しにくい雰囲気がある
- ・論文指導のみで授業は受けていない。

問2.「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・大学4年間学んだことは基礎に過ぎず、ここからようやく学んでいくのだという感覚があり手応えがある。
- ・公認心理師等の試験対策にもなってよかった
- ・論文指導のみで授業は受けていない。

問3.「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・先生方が私の研究関心に沿いながら授業内で説明を加えてくれたので。
- ・幅広い知識を習得することができた
- ・開催が少ない授業や極端に時間の短いがあった。それ以外は勉強になった。
- ・社会調査の授業が非常に役立った
- ・論文指導のみで授業は受けていない。

問4.「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・いつも丁寧に指導してくださっている。担当の指導教員以外にも、副指導教員、また学部、修士課程で指導教員だった先生も、引き続きご指導にあたってくれている。
その上で、どの先生も私が「わからない」「知らない」ことを馬鹿にしたりせずに、丁寧に説明してくれたり、参考文献等を紹介してくれる。
- ・コロナ禍で大学4年間の間あまり発表資料を作る機会がなかったため、院生研究発表会で発表をする機会があることでたくさんの学びがあった。まだ論文については定まっていないが引き続き教授に指導していただきつつ進めていきたい。
- ・わからないことと、再度確認すべきことを丁寧に考える時間と共に、わかりやすく解説もしていただけたことで知識が増えたと思う。
- ・時間外であっても対応していただき、研究に真摯に取り組むことができた
- ・先生がお忙しく、なかなかゆっくりご相談しにくい雰囲気がある

問5.「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・希望を考慮していただき、沢山の経験を積むことができた。
- ・学外研究等をおこなっていないため

問 6.「システム全般（UNIPA での履修登録、研究助成）の手続き方法について分かりやすかった。」

- ・ユニパのシステムが大きく変わったが、ガイダンスがほとんどない修士2年以上にはその点アナウンスが杜撰だった。

- ・学部生の時と変わらないためよくわからない。
- ・使いこなせない部分もあった。
- ・履修登録の際に、取りたい授業の登録がされていなかったりと、何かとトラブルが多く、その度に事務に行かなければならなかったのは不便でした。
- ・前のほうがわかりやすく、新しくなって少しわかりにくくなりました

問7.「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

- ・日程の通達がきたのがかなり急だった。もう少し余裕を持って知りたい。
- ・いつも通りであったが、普段と同じように少し無理を感じる日程だった。

問8.「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・あまり使わないため
- ・購買や図書館がもう少し近いと嬉しい
- ・専門書や論文を増やして欲しい。授業で必要な文献を探して、学内の図書館で手に入ることがほとんどない状況である。
- ・図書館の空調が春の暑い日に暖房しか付けてもらえないのをどうにかしてほしいです。
- ・新しい本が少ないように思った。もっと希望図書を含めて蔵書を増やしていただきたい。
- ・心理学専攻は多摩キャンパス所属ですが、心理系の本が千代田のキャンパスに多いのは少し不便を感じました。
- ・土曜日でも平日通りに利用したい

問9.「大学院生室・大学院生自習室の利用方法（利用時間も含む）について満足している。」

- ・非常に助かっている。活用させてもらっている。
- ・出来れば日曜日でも空けて欲しい。空けているのかもしれないが、いつ空いているのかどこを見てもわからない。
- ・場所が遠い。
- ・院生室に泊まれるようにしてほしいです。夜遅くに帰宅して朝早く登校するのは非効率的だと感じたのと、帰宅時には身の危険を感じたこともあるので、できれば実験などで夜遅くまで学校に残らなければならない日は院生室への宿泊も可としてほしいと思いました。
- ・千代田の方に入室記録を書かずに利用している男性の方がおり、その方の所属がわからず怖い。男性だから、というわけではなく、職員の方なのか、学生なのかわからず緊張する。
- ・統計ソフトが最新バージョンでないためできない作業があります。最新バージョンですとありがたいです。
- ・最大 22 時まで使わせていただけることがありがたいです。

問 10.「大学院生室・大学院生自習室の設備（PC・プリンタなどの設置機器、辞書・参考文献などの資料、室内レイアウト）について満足している。」

- ・文系に必要な事典や全集などが、ちらほらと多摩キャンパスにあり、千代田キャンパスに移してほしいと思っている。
- ・プリンタの調子が悪い。
- ・プリンタの不具合が多いため。
- ・男性がいても安心して仮眠できるスペースが欲しいです。
- ・コピー機の調子が悪いものや、使えない物が多い（多摩）
- ・数は充実していますが、最近コピー機やWi-Fi が不調で利用できない時が多々あります。院生室は快適です。
- ・プリンタの故障が多かった。
また、インク代を院生が負担する環境であり、節約が必要であった。

- ・PC 関連に詳しい先生方のお力もお借りしたが、プリンタが古かったりでつながらないことが多く、印刷ができないことが多い。
- ・プリンターが新しいのが欲しい
- ・院生室にコピー機はありますが、用紙代やインク代が院生持ちな為、印刷を減らす努力、節約しなければという気持ちになるのが辛いです。図書館等の自習室に行く手段もありますが、7 号館から遠く、往復の時間も惜しいです。院生はアルバイトをしている人も少なく、院生が用紙代、インク代を負担しなければいけないことが、かなり苦しいです。研究助成金から捻出していることになっていますが、研究助成金は他の用途で無くなってしまいます。院生室のインク代だけでも補助金等、支援いただけますと幸いです。よろしくお願いします。
- ・中間スペースも飲み物は可にしてほしい。

問 11. 「事務職員の対応は適切であった。」

- ・職員によって対応に差がありすぎる。特に学生支援の男性職員陣。
- ・いつも丁寧に対応していただいております。

問 12. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・親の年収があっても、学費に回してもらえないわけではないので、親の年収が考慮されない制度があると嬉しいです。
- ・博士課程の学生が奨学金を得られる仕組みが不足している。学部から修士課程、博士課程とストレートで進学している学生は、社会人入学の院生と違い金銭的に学費や生活費の確保が難しい。にも関わらず、大妻女子大学独自の奨学金は、家庭の世帯主の収入を提出するため、学生本人が働いていたとしてもその収入で学内独自奨学金に申請することができない。また、学部生と同じ枠の中で審査があるため、数千人の応募の中から一般的な家庭に世帯主収入で申請が通ることはまずない。

院生と仕事を両立して生活費と学費を捻出している院生がいるという状況を知っていただきたい。

修士課程からさらに進学し、博士課程に在学する学生は、在学中に年齢が 25～28 歳になる。学生本人の年齢的にも、家庭の世帯主収入で生活費と学費を出すことはできない。自分の収入で生活費・学費・研究にかかる費用を捻出する必要があるのである。ニーズは少ないかもしれないが、修士課程から進学しより専門的に研究を進め、大妻女子大学の中で研究に邁進している学生を支援する制度を、厳しい審査があっても良いので是非つくっていただきたい。

私は卒業まで残り少ないが、将来的に、大妻で学んだ学生が、進学し研究に携わるという選択肢を持つことができるよう、是非検討願いたい。

- ・給付型を増やして欲しい。
- ・大学院の学費は自分で払っているため、奨学金を利用したいが、家族の世帯収入が基準より少し上回っているという理由で利用できない。

IV-3 ハラスメントについて

ハラスメントに関する平成 29 年度からの調査結果を図 1 に示した。令和 5 年度は「経験がある」が 1 名、「答えたくない」が 3 名であった。自由記述欄には 3 名が次のような意見を述べている。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

- ・学外研修中に当方が不利益を被った際、教員の体裁を優先され、無かったことにされた。(尚、指導教諭ではない)
- ・指導教員の対応について悩み、周囲の先生方や学生相談室には昨年度から何度も相談してい

ました。対応していただいた先生方には、本当に感謝しております。大学院生は、非常に弱い立場です。論文を執筆するには指導教員との関係性は重要であり、もし指導教員の対応で違和感を覚えたことや困ることがあったとしても、関係性を崩したくないため、直接伝えることは難しいです。また、他の先生方に現状の悩みを訴えて、他の先生方を通じて指導教員に伝えてもらうにしても、学生である私が指導を不服に思っていることは伝わってしまい、その後の指導に影響が出る可能性が高いです。この経験から、このような問題は個別に対応するのではなく、大学組織全体で対応する必要性を感じました。

- ・過去にそう感じることもあり、ご相談して解決しました。

これまでもアンケート結果から、ハラスメントあるいはそれに近い状況がいまだに存在していることが推測されたが、今回のアンケートにより、アカデミックハラスメントを疑う案件が発生していることがわかった。指導教員と学生が1対1になる大学院は、ハラスメントが起りやすい環境であるとはいえ、ハラスメントは本来一件もあってはならないことである。ハラスメントは一過性の行為ではなく繰り返して行われることが多く、ハラスメントの認識がないケースもある。そのことから、本学では学生が副指導教員を含めた複数の教員から指導を受けられる体制を整え、学生の SOS 信号をできる限り早いうちに見つけ出すしくみを確立しているが、このような案件に対しては柔軟な指導教員の変更も可能にしている。

今後も次に記すハラスメント防止対策を徹底する。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。
事案にはFD委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
- ② ハラスメントに関する回答のFD報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
- ③ 代議員会、専攻会議等でFD報告書を説明する際、ハラスメントに関するアンケート結果を必ず報告し、注意喚起を行う。

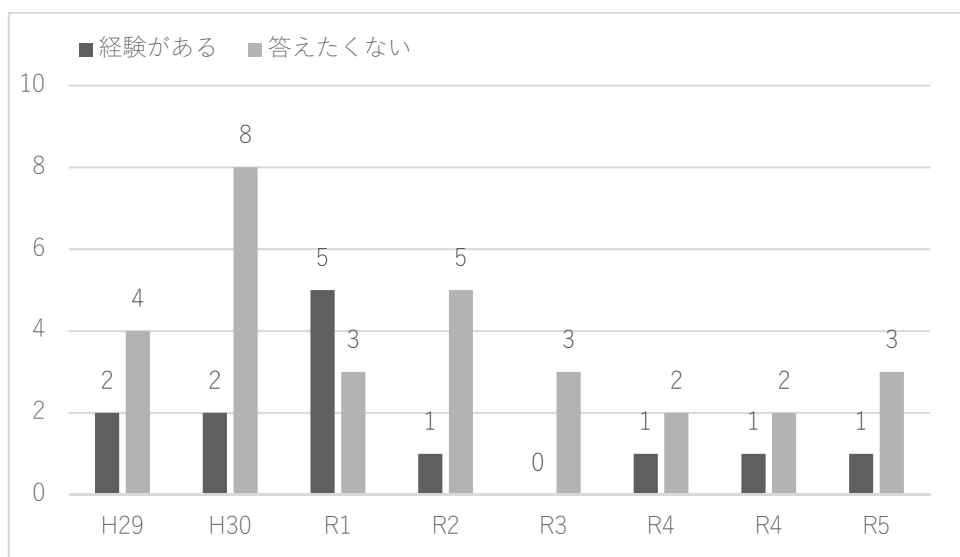


図1 ハラスメントについて

IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは17名から回答を得た。82%が「5 非常にそう思う」か「4 そう思う」のいずれかであった。

社会人入学者の自由記述は1件あった。

- ・就業中の社会人の受け入れは望ましいことであり、評価している。半面、どうしても夜間の時間帯に履修することになるのは、zoomを使用した夜間大学の様な気がしないでもない。zoomと対面とは同じとは言えないと感じる。社会人枠は近年、リタイアした人や主婦もいると思うし、教員にも負担がかかっているのではないかな。

IV-5 その他意見・希望について

この質問に対する自由記述欄には以下のような記述があった。

- ・社会人選抜ではないのですが、授業時間の変更（2限→5限）があった際、事前の案内がないまま、社会人の方など他の方に合わせて変更になったことが少し残念でした。
- ・事務関係のデータ不備が多かったように感じます。改善するようお願いしています。

V. 大学院修了時アンケート（結果の概要）

V-1 大学院修了時アンケートの目的

このアンケートは、令和6年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に在学期間中の学修環境や体験・修得した能力について把握し、また自由記述による意見を集約することで、教育・研究環境改善につなげることを目的として、令和3年度より新たに実施した。

V-2 調査対象・方法・期間・回収状況

- (1) 調査対象：大学院修士課程及び博士後期課程修了予定者（満期退学含む）34名
- (2) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
- (3) 調査期間：令和6年2月24日～3月16日
- (4) 回収状況：回答数28件、回答率82.4%

	博士後期課程 人間生活科学 専攻	博士後期課程 言語文化学 専攻	修士課程 人間生活科学 専攻	修士課程 言語文化学 専攻	修士課程 現代社会研究 専攻	修士課程 臨床心理学 専攻
回答数	3	0	8	5	0	12

結果の概要は以下の通りである。

V-3 学修環境等についての評価

評価は表9の通りである。問1から問6までの各項目は4段階評価で「そう思う」4点、「ある程度そう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として平均点を算出した。

表9 研究・授業、進路、学生生活についての評価

	回答数	問1	問2	問3	問4	問5	問6
		本学大学院在学中は研究・学業に意欲的に取り組みましたか	開講科目の数や種類は十分でしたか。	授業内容は、全体として満足していますか。	研究指導や論文指導について指導教員から十分な指導を受けることができましたか。	修了後の進路は希望に沿ったものになりましたか	大学院での学生生活に満足していますか。
全平均	28	3.7	3.5	3.5	3.4	3.3	3.6
最高点		4	4	4	4	4	4
最低点		3	2	3	1	2	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

問 1 から問 6 までの平均値は 3.3～3.7 の範囲内であった。それぞれの質問項目間における顕著な差異は、伺われない。

V-4 大学院在学中に体験・修得した能力

知識や能力の向上に大きく役立ったことを表 1 0 に、在学中に修得した能力について表 1 1 にまとめた。

表 1 0 知識や能力の向上に大きく役立ったことについて（複数回答）

	R3	R4	R5
1 大学院での授業全般	70	50	78.6
2 指導教員による指導	90	75	64.3
3 研究活動	90	50	75
4 論文執筆	70	25	78.6
5 論文発表、最終試験	50	25	57.1
6 資格取得	0	12.5	25
7 院生時代に築いた人脈	50	50	53.6
8 その他	0	12.5	7.1
9 特に役立っているものはない	0	12.5	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

表 1 0 からは、次のことを読み取ることができる。知識や能力の向上に大きく役立ったこととしては、昨年度と比較し、概して向上している。とりわけ「論文執筆」は、昨年の 25%から 78.6%へと大きく向上している。もっとも一昨年度が 70%であるから、旧に復したというべきかもしれない。他方指導教員による指導が、75%から 64.3%に低落していることが気にかかる。次の表 1 1 をみると、多くの項目で、昨年から大きく数値が低下しているものが目立つ。「肯定的な意味で批判的に考える力」が 37.5%から 17.9%へ、「自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」が、75%から 32.1%へ、「人間関係を築いたり調整する力」に至っては 87.5%から 32.1%まで低落している。充実した研究生生活を送ることはできたが、討論や人間関係の中から学ぶ力を身につけることはできなかったということだろうか。解釈に苦しむ数字ではある。

「英語の運用力」「情報技術の運用力」に関しては、共に 0%であった昨年一昨年より向上しているが、それぞれ 3.6%、17.9%と低い数値にとどまっている。もちろん領域による必要性の際があるとはいえ、研究を行う上で必須のスキルである両項目におけるこの数字にはいささかお寒い者を感じる。

表 1 1 在学中に修得した能力について（複数回答）回答率（%）で表示

	R3	R4	R5
1 教養	30	12.5	35.7
2 ものごとを分析する力	90	50	64.3
3 問題を論理的に考える力	80	50	57.1
4 特定の専門分野に関する理解力	70	75	75
5 肯定的な意味で批判的に考える力	30	37.5	17.9
6 自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	60	75	32.1
7 リーダーシップ	0	12.5	7.1
8 人間関係を築いたり調整する力	30	87.5	32.1
9 地域社会が抱える問題への関心や理解力	20	37.5	14.3
10 明快かつ簡潔に話す力	20	25	28.6
11 表現すべき内容の文章を書く力	50	62.5	46.4
12 英語以外の外国語の運用力	0	0	3.6
13 プレゼンテーションを準備し発表する力	60	50	53.6

14	学術的な文献の読解力	40	62.5	39.3
15	情報技術（ICT）の運用力	10	0	17.9
16	国際的な諸問題に対する関心や理解力	0	0	3.6
17	英語の運用力	0	0	3.6
18	ものごとの本質をみて判断しようとする力	50	37.5	28.6
19	自分を律して行動する力	40	37.5	25
20	得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	60	50	21.4
21	これらの項目については特に伸びていない	0	0	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

V-5 教育全般についての自由記述

教育全般について、以下のような自由記述があった。

- ・Wi-Fi環境を整えていただきたいです。空気清浄機も感染症予防にいただきたいです。
- ・学部卒業後、修士・博士後期課程と連続して所属することとなりました。残念ながら、M2～新型コロナの流行が始まり、実験を行いたい時に行えなかった等、如何ともしがたい状況下にはありましたが、オンラインでの授業や発表会等、研究はまずまず行えたのではないかと思います。個人的には、栄養学等の実学的内容は、自らの実務経験を下に、大学院に戻って研究につなげやすいのではないかと考えております。コロナの流行によって、大学院に進学しようと考えた人も少なからずいると思います。そのため、今後も社会人の入学希望者は増えるのではないかと思いますので、ぜひそういった方々への柔軟な対応を行っていただければと思います。
- ・大学院での卒業必要単位はもう少し少ない方が、より早めに研究に注力できると思いました。
- ・大学院生室の水道が後期途中から使用できなくなり、また、全体発表会終了後すぐに使用できなくなってしまう事に非常に不自由を感じました。大学へ行っても集中して作業をする場所がなくて困っているので、せめて卒業式までは使用できるように考慮していただきたいかったです。
- ・授業に関してとても勉強になりました。しかし、大学院1年時の後期は学内外の実習が始まる中で授業数が非常に多く、学部と異なり学生主体の授業であるため、授業準備に要する時間の捻出が困難でした。結果として睡眠時間を削ることになり、同期の多くが体調を崩していました。ご存じかもしれませんが、睡眠時間を削り体調に支障が生じるほど忙しい現状を認識いただければ幸いです。ありがとうございました。
- ・大学院生と指導教員の関係は権力勾配が非常に明確で、閉鎖性が高い環境にあります。指導教員が認めなければ、助成金を申請することも、論文を投稿することも、学位審査を受けることも含め、あらゆる研究活動ができないので、大学院生は非常に弱い立場です。このような条件はハラスメントが起こりやすい環境であり、指導にあたる先生方ひとりひとりの研究倫理観や教育倫理観に依存する部分が大きいと感じました。私は、今回の件で周囲の先生や学生相談室、そしてハラスメント協会と頼れる資源にはすべて頼りました。皆さまが善意を尽くしてくださったおかげで、修了に至れたと思います。どの研究室に所属したとしても、院生ひとりひとりが安心して研究できる環境が得られるよう、学院全体の課題として取り組んでいただきたいと、強く願っております。

VI. 院 生 ・ 教 員 懇 談 会 の 実 施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	令和6年2月16日(金)に対面方式で専修内修士論文発表会を実施し、その後に修士、博士課程の学生と教員の懇親会を実施した(健康・栄養)。 本年度は1月中旬に大学で院生各自にお菓子を配布した(保育・教育学)
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	令和6年2月16日(金)に対面方式で専修内修士論文発表会を実施し、その後に修士、博士課程の学生と教員の懇親会を実施しました。
(生活環境学専修)	所属学生3名を一堂に会しての懇談会は、開催しなかった。代わりに、前後期各1回開催の研究指導会等において学生より出された意見・感想を、適宜指導教員より聴取した。
(保育・教育学専修)	6月と2月の専修内発表会の時に院生と教員の交流を促すとともに、発表会にはオンライン参加の社会人院生も少なくないため、本年度は1月中旬に大学で院生各自にお菓子を配布した。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和5年7月20日(木)に開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。また、担当教員が学生からの意見や要望を普段から受け付け、適宜対処した。
(国際文化専修)	2023年5月29日(月)昼休みに大学院生および主指導教員が昼食会をおこない、院生・教員懇談会とした。
現代社会研究専攻 (臨床社会学専修)	本年度は在籍した院生が一人は社会人、一人は遠隔の茨城におり、しかも修士論文の執筆で繁忙を極めていたので、懇談会を行うことができなかった。しかし日々の授業の中で、様々な希望をくみ取る努力は続けられていた
臨床心理学専攻	2023年前期と後期の2回、大学院授業、実習、院生室の環境や学生生活等について、意見や要望、質問等を出してもらうように依頼した。その後、書面で提出された意見等(心理相談センターの利用方法について、院生室の空調の暖房の効きの悪さ、来年度入学の新M1の人数について)に関し、院生と大学院担当教員とで質疑応答と意見交換の時間を設けた。 その他、2024年2月24日(土)には非常勤講師(スーパーヴァイザー)と院生の顔合わせと交流を目的とした懇談会/情報交換会を行うなど、昨年と同様に定期的なFD活動を行い、その結果を大学院教育と院生生活の整備に還元している。

VII. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、IXに記載する。

専攻	活動類型	件数	内容
人間生活科学専攻 博士後期課程	学会参加	6 件	【健康・栄養科学専修】 日本栄養・食料学会大会、第 32 回日本バイオイメージング学会学術集会 【保育・教育学専修】 日本保育学会 第 76 回大会、第 62 回 大学美術教育学会香川大会、SSTA 埼玉支部 研究待機、理科授業研究会
言語文化学専攻 博士後期課程	学会参加	2 件	【日本文学専修】 日本近代文学会春季大会、昭和文学会 春季大会
人間生活科学専攻 修士課程	学会参加	20 件	【健康・栄養科学専修】 日本抗加齢医学会総会、腸内細菌学会、日本食糧・栄養学会関東支部シンポジウム、東京都栄養士大会、日本栄養改善学会学術総会、第 82 回日本公衆衛生学会総会、第 111 回日本栄養・食糧学会関東支部シンポジウム、第 27 回日本病態栄養学会年次学術集会、第 37 回日本糖尿病・肥満動物学会 【保育・教育学専修】 第 13 回学童保育学会研究大会、第 61 回教育科学研究会全国大会、第 58 回全国学童保育研究集会、社会調査協会シンポジウム 【生活環境学】 海洋教育実践研究発表交流会、国際海洋環境デザイン会議 Side: Education、比較環境思想研究会、日本家政学会被服心理学部会・令和 5 年度公開春季セミナー、日本衣服学会・第 47 回(令和 5 年度)年次大会、2023 年度被服学専攻 修士論文発表会、日本デザイン学会ファッション・デザイン部会
言語文化学専攻 修士課程	学会参加	4 件	【日本文学専修】 日本語学会 2023 年度春季大会 【国際文化専修】 中国文化学会大会、共同研究プロジェクト「近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係」(研究代表者:松村茂樹)基調講演、中国文化学会 「新科目『言語文化』とこれからの漢文教育—対話的で主体的な学びの進展のために—」
臨床心理学専攻 修士課程	学会参加	7 件	心理臨床学会、学校心理学会、発達心理学会、動物介在教育・療学会第 16 回学術大会、日本心理臨床学会第 42 回大会、日本心理学会第 87 回大会、日本生理心理学会若手会

Ⅷ. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和 5 年度大学院要覧」11 頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第 8 番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和 6 年 2 月 24 日に実施した。総勢 30 名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

令和5年度 修士論文発表プログラム
(オンラインによる開催)

日時 令和6年2月24日(土)9時00分開始(ミーティングへの入室は8時40分から可)

開会の挨拶
午前の部司会 田中 直子 人間文化研究科長

ルーム1の司会(午後の部) 伊東 武彦 言語文化学専攻主任

ルーム2の司会 青江 誠一郎 教務委員長(人間生活科学専攻主任)

ルーム	開始予定時刻	発表順	発表者
①	9:00		青江 誠一郎 教務委員長プログラム説明
①	9:05		田中直子 研究科長あいさつ
①	9:10	1	臨床心理学専攻
①	9:27	2	臨床心理学専攻
①	9:44	3	臨床心理学専攻
①	10:01	4	臨床心理学専攻
①	10:18	5	臨床心理学専攻
①	10:35	6	臨床心理学専攻
①	10:52	7	臨床心理学専攻
①	11:09～11:14		休憩・接続確認
①	11:14	8	臨床心理学専攻
①	11:31	9	臨床心理学専攻
①	11:48	10	臨床心理学専攻
①	12:05	11	臨床心理学専攻
①	12:22	12	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
①	12:39	13	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
①	13:56～13:43		昼食休憩・接続確認
昼食休憩後2ルームに分かれて実施(人間生活科学専攻の発表順14～20の方はルーム2で接続確認を行ってから休憩に入る)			
①	13:43	14	言語文化学専攻 日本文学専修
①	14:00	15	言語文化学専攻 日本文学専修
①	14:17	16	言語文化学専攻 日本文学専修
①	14:34	17	言語文化学専攻 日本文学専修
①	14:51	18	言語文化学専攻 国際文化専修
①	15:08	19	言語文化学専攻 国際文化専修
①	15:25	20	言語文化学専攻 国際文化専修
②	13:56～13:43		休憩・接続確認
②	13:43	15	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	14:00	16	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	14:17	17	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	14:34	18	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	14:51	19	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	15:08	20	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
②	15:25～15:35		休憩・接続確認
②	15:35	21	人間生活科学専攻 生活環境学専修
②	15:52	22	人間生活科学専攻 生活環境学専修
②	16:09	23	人間生活科学専攻 保育・教育学専修
②	16:26	24	人間生活科学専攻 保育・教育学専修

ルーム 1

ルーム 2

・持ち時間1人17分(発表12分、質疑応答・交代5分)です。発表開始から12分経過時、17分経過時が分かるよう、Zoom上でお知らせします。

・発表開始時間は進行状況により前後する場合があります。また、通信の不具合やその他の都合により発表が開始されない場合は、発表順を変更する場合があります。

【オンライン実施上の注意】

・Zoomを利用して開催します。**なお、今年度は昼食休憩後にZoomの部屋を2つに分けて行います。**

※ルーム1、ルーム2共にどの専攻でも入室可

ミーティングのURLは、別途送信するメール本文でご確認ください。

・Zoomの個人表示名は自身の氏名にしてください。発表者は氏名の前に「発表」の文字を入れてください。

(例: 発表 大妻花子)

・発表時、Zoomを接続している場所の周囲の環境音や、紙をめくる音などが雑音としてマイクに入ることがありますので、極力静かな環境で参加してください。

・入室時はマイクをミュートにし、発表順になったらミュートを解除してください。発表の2分前にはマイク・カメラを用意し、パワーポイント画面共有の準備をしておいてください。

・ご自身の発表時以外はマイクをミュートにしてください。カメラはオン・オフどちらでもかまいません。

なお、発表者への質疑時に発言する際は、マイク及びカメラを必ずオンにしてください。

・自分の発表以外は録音や録画をしないでください。

67

IX. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和5年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.34 2024”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

専攻	発表形式	題目
人間生活科学専攻 博士後期課程	論文発表	Oleic acid activates mitochondrial energy metabolism and reduces oxidative stress resistance in the pancreatic β -cell line INS-1.
	ポスター発表	オレイン酸が膵臓 β 細胞の機能に与える影響:網羅的解析による検討
	論文発表	The Association Between Eating Quickly and Excessive Gestational Weight Gain.
	ポスター発表	日本人における妊娠中体重増加量と産後の体重の関連
	口頭発表	心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節プロセスモデル構築と実証的検討
	論文発表	心理療法におけるポジティブ感情の相互的感情調節についての質的研究
	口頭発表	padlet を活用したプロジェクト活動における記録の検討 - 学科特別行事を通して -
	口頭発表	カタマリと向き合う(展示発表)
	口頭発表	保育者養成校における科目「造形表現」の検討～保育学生の苦手意識に着目して～
	口頭発表	白い塊 - White Mass - (作品発表)
	ポスター発表	アイディアを形にする
	論文発表	端材×造形(産学連携レポート)
	論文発表	素材をミクロにマクロにみる(実践報告)
	論文発表	ストーリーメイキングの原点—乳幼児におけるパネルシアターの体験の観察をもとに—
	口頭発表	
	論文発表	THE RELATIONSHIP BETWEEN PANEL THEATER AND SUSTAINABILITY OF CONCENTRATION - FOCUSING ON CHILDREN
	論文発表	マスク着用保育において視覚的表現を意図的に取り入れる意味の検討
	口頭発表	幼児期における科学概念の萌芽に関する研究 - 保育者の実践に関する言葉から -

	口頭発表	保育者の「実践知」における暗黙的な側面を探る
言語文化学専攻 博士後期課程	口頭発表	花袋と師松浦辰男—紀行文における「詠歌十訓」—
	口頭発表	田山花袋の「平面描写」—「悲劇？」を手掛かりに—
人間生活科学専攻 修士課程	ポスター発表	単身生活による青年の食生活変化に関する検討
	ポスター発表	AQP3 スプライシングバリエントの培地交換後の発現量の変化
	口頭発表	裁ち目なしきものの課題と対処
	ポスター発表	里海を活用した小学生対象の海洋教育事例 ～能登半島の小学校における海育の取り組み～
言語文化学専攻 修士課程	口頭発表	村岡花子の「家庭」
	口頭発表	「少年」から「悪女」へ—谷崎潤一郎が描く娼婦的ヒロイン像—
	口頭発表	「日韓の若者とヘイトスピーチ ～日本の学生として～」
	口頭発表	朝鮮半島の非核化と安全保障のジレンマ
	口頭発表	ムン政権とユン政権の徴用工問題への対応
	口頭発表	平和の少女像と水曜デモ
	口頭発表	邑楽町における隠れキリタンからみる地域共生の考察
	論文発表	近現代アジア太平洋地域における文化の諸相に見る相関関係—キース・ヴィンセント氏による基調講演会を受けてのシンポジウム記録—(共著)
	口頭発表	
	口頭発表	呉昌碩早期における文人的思考の考察
臨床心理学専攻 修士課程	ポスター発表	消防職員のワーク・エンゲイジメントを高める資源構造に関する研究 —レジリエンスと人間関係に注目して—
	ポスター発表	身体感覚に注目したマインドフルネストレーニングの効果
	ポスター発表	個人特性がマインドフルネスワークの適性に及ぼす影響

X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和5年度大学院要覧」28頁を参照されたい。

XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	就職	・アズワン株式会社 ・東京聖栄大学 ・公益財団法人東京都歴史文化財団
言語文化学	就職	・C-United株式会社 ・千葉市役所 ・千葉県教育委員会 ・陸奥テックコンサルタント株式会社 ・城南信用金庫
	進学	・大妻女子大学大学院 人間文化研究科 博士後期課程 国際文化専修
臨床心理学	就職	・独立行政法人国立病院機構 ・株式会社富士キメラ総研 ・医療法人財団明理会 鶴川サナトリウム病院 ・川崎市教育委員会 ・沖縄県中央児童相談所 ・葛飾区役所 ・足立区役所 ・相模原市立青少年相談センター ・横浜市役所
	進学	・桜美林大学大学院 国際学術研究 学位プログラム 心理学研究領域 博士後期課程

XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成23年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

所属・学年等	担当授業科目					
	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地
人間生活科学専攻 (博士課程) 3 年	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	高波 嘉一 明渡 陽子	前期	金曜 3、4 限	千代田校
人間生活科学専攻 (修士課程) 2 年	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	実践統計学	清原 康介	後期	水曜 3 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜 3、4 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	情報処理実習A	鈴木 優志	前期	木曜 3、4 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 情報デザイン専攻	情報処理実習A	矢口 哲郎	前期	金曜 1、2 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 情報デザイン専攻	情報処理実習A	矢口 哲郎	前期	金曜 3、4 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻	情報処理実習B	矢口 哲郎	後期	水曜 3、4 限	千代田校
人間生活科学専攻 (修士課程) 1 年	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜 3、4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	月曜 3、4 限	千代田校

現代社会研究専攻 (修士課程) 2 年	社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻	量の調査演習	池田 緑	前期	金曜 3 限	千代田校
臨床心理学専攻 (修士課程) 1 年	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	八城 薫	前期	水曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	本田 周二	後期	木曜 1 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	キャリア心理学セミナー	八城 薫 三好 真 高丸 理香	前期	水曜 4 限	多摩校
臨床心理学専攻 (修士課程) 2 年	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	高橋 幸子	前期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	伊藤 尚枝	後期	火曜 3 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	社会・臨床心理学基礎 セミナー	八城 薫 三好 真 吉澤 良美	前期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法基礎	堀 洋元	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法基礎	伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学統計法	堀 洋元	後期	火曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学統計法	八城 薫	後期	火曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	社会心理学実験研究法 (心理学実験)	堀 洋元 伊藤 尚枝	前期	火曜 3、4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	キャリア心理学セミナー	八城 薫 三好 真 高丸 理香	前期	水曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法	高橋 幸子 三好 真	前期	火曜 1、2 限	多摩校

臨床心理学専攻 (修士課程) 2年	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学研究法	田中 優 大久保 暢俊	前期	木曜 1、2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会学専攻	コンピュータ基礎A	西川 徹	前期	月曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	コンピュータ基礎A	小幡 正子	前期	水曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	コンピュータ基礎A	加藤 浩治	前期	木曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会学専攻	コンピュータ基礎B	西川 徹	後期	月曜 4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	コンピュータ基礎B	小幡 正子	後期	水曜 2 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	コンピュータ基礎B	加藤 浩治	後期	木曜 2 限	多摩校
	人間関係学部	コンピュータ応用	加藤 浩治	後期	木曜 3 限	多摩校

XV. おわりに

今回は、「大学院進学意識に関するアンケート」「大学院の研究・教育に関するアンケート」「大学院修了時アンケート」の3種類のアンケートを実施した。評価を点数化し経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。

2020年度から始まったコロナ禍も、2023年5月の感染症法上の5類への移行に伴い、一応の終息をみた。その結果対面での授業も増え、授業や研究指導の面での満足度の向上がみられた一方で、大学の外に出て研究や教育の活動を行うことへの躊躇いが残っていることが、データから読み取れた。

自由記述への回答をみると、学費への不満が大きいことがわかる。進学ネックとなっているのが高額な学費であり、奨学金等は充実しているとはいえ、給付のものは少ない。奨学金や学費の減免には所得制限が設けられているが、所得は親の所得であり、大学を卒業した者が親のお金で大学院教育を受ける前提が存在することに違和感を覚える回答もあった。働いている社会人学生は奨学金支給の対象とならないが、これも改善の余地はあるだろう。本学だけではどうにもならない面があるが、この金銭面の問題が解決されれば、さらなる進学者の増加も期待できるのではないかと。

やはり自由記述の回答のなかから浮かび上がってきたのが、院生室の問題である。プリンターのインクや、印刷に使う紙が自弁という現状は改善の余地があるのではないかと。院生の数を考えれば、大学がこれらを提供したとしても大きな財政的負担になるとは思えない。安心し

て研究のできる環境を整えるために早急にこれを実現していただきたい。

また研究室の問題に関連して、千代田と多摩の格差という問題も浮かび上がっている。院生室の充実度が、千代田より劣っている、千代田にある図書が多摩にはない、という意見がのべられていた。言うほどの格差はないのかもしれない。しかし、圧倒的な規模の差を背景に、「多摩は千代田に比べて冷遇されている」という感覚は学部生にも広くみられる。全学的に一考すべき問題である。

最後にハラスメントの問題であるが、これは極めてデリケートな問題であって、こうしたアンケートでその全容が明らかになる性質のものではない。しかしデータを見る限り、ハラスメントが皆無であるとは言い切れないだろう。教員と院生の間に大きな力関係の隔たりがあり、しかも極めて緊密な人間関係のなかで行われる大学院の教育研究活動においては、教員の側にとってはまったく善意の指導であっても、院生の側にはハラスメントと受け止められないリスクは避けがたい。大学院生の日常が、授業や研究の負担が大変大きく、アルバイトや就活もせざるを得ないために非常にストレスフルなものになっていることは全国的にも指摘されている。大学院生のメンタルヘルスの維持にわれわれ教員も心を配るべきであろう。

以 上

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

(1) FD 講演会：「アフターコロナの ICT 教育」

－respon を活用して全学生参加型の双方向授業をつくる－

講師：株式会社レスポ 代表取締役社長 森田 真基 氏

大妻女子大学 人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 八城 薫 教授

人間関係学部 人間福祉学科 山本 真知子 准教授

社会情報学部 情報デザイン専攻 宮崎 美智子 准教授

文学部 コミュニケーション文化学科 竹部 成崇 専任講師

日時：令和5年7月28日（金）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催



主催：大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

令和5年度前期 F D 講演会

アフターコロナの ICT教育

－respon を活用して
全学生参加型の双方向授業をつくる－

開催方法
Zoom

令和4年度以降、本学の対面授業は全体の8割まで戻っていますが、コロナ禍のオンライン授業期間中に使用していたアクティブ・ラーニングツールは、対面授業においてどのように活用できるでしょうか。本学の教育支援ツールのうち、リアルタイムアンケート・出席確認・チャットの機能を持つresponに焦点を当て、双方向性のある**【全学生参加型授業】**に変えるための機能および授業活用事例を紹介します。

【responとは】
授業中に活用できる教育支援ツールで、本学ではmanabaと連携しています。教員からの質問に対して、学生がスマホを使って回答や意見を送信することで、リアルタイムに回答結果や他学生の意見などを閲覧できます。各機能は、日時を指定することにより、授業時間外の質問受付や、オンデマンド授業での活用等も可能です。

日時 7月28日 (金) 16:30～18:00

講師 respon 機能の狙いと最新情報
森田真基氏(株式会社レスポ 代表取締役社長)

本学授業での活用事例

八城 薫先生(人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 教授)
山本 真知子先生(人間関係学部 人間福祉学科 准教授)
宮崎 美智子先生(社会情報学部 情報デザイン専攻 准教授)
竹部 成崇先生(文学部 コミュニケーション文化学科 専任講師)

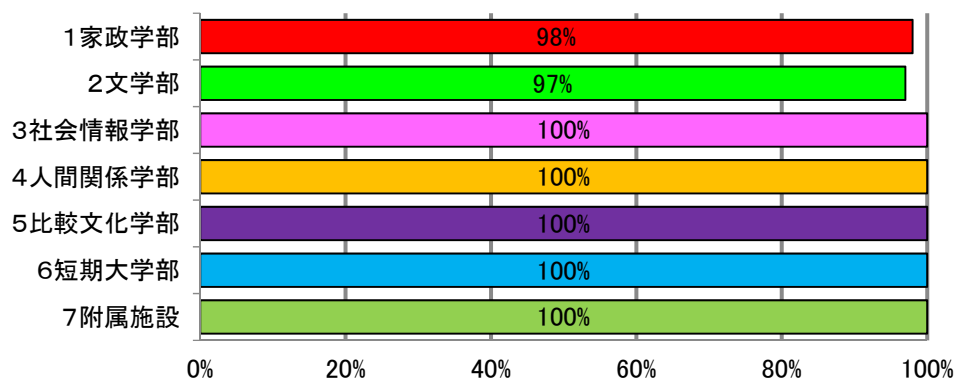
FD 講演会アンケート集計結果

- ＜ テ ー マ ＞ アフターコロナの ICT 教育
 ーrespon を活用して全学生参加型の双方向授業をつくるー
- ＜ 講 師 ＞ 前半: 本学授業での活用事例
 八城 薫先生(人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 教授)
 山本 真知子先生(人間関係学部 人間福祉学科 准教授)
 宮崎 美智子先生(社会情報学部 情報デザイン専攻 准教授)
 竹部 成崇先生(文学部 コミュニケーション文化学科 専任講師)
 後半: respon 機能の狙いと最新情報
 森田 真基氏(株式会社レスポ 代表取締役社長)
- ＜開催方法＞ Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
- ＜開催日時＞ 令和5年7月28日(金) 16:30～18:00
- ＜録画配信＞ 令和5年8月2日(水)～公開中
- ＜回答期間＞ ①令和5年7月28日(金)～9月11日(月) 23:59
 ②令和5年9月19日(火)～9月25日(月) 23:59 (専任教員未回答者対象)
- ＜未回答者＞ (専任教員) 家政学部 1 人
 (研 修 等 除 く)

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	23 人	42 人	65 人	66 人
2 文学部	10 人	27 人	37 人	38 人
3 社会情報学部	18 人	18 人	36 人	36 人
4 人間関係学部	22 人	12 人	34 人	34 人
5 比較文化学部	12 人	9 人	21 人	21 人
6 短期大学部	13 人	11 人	24 人	24 人
7 附属施設	4 人	15 人	19 人	19 人
8 非常勤講師	12 人	78 人	90 人	
9 助手	3 人	13 人	16 人	
10 事務職員	1 人	1 人	2 人	
合 計	118 人	226 人	344 人	

【所属別参加率】(専任教員)

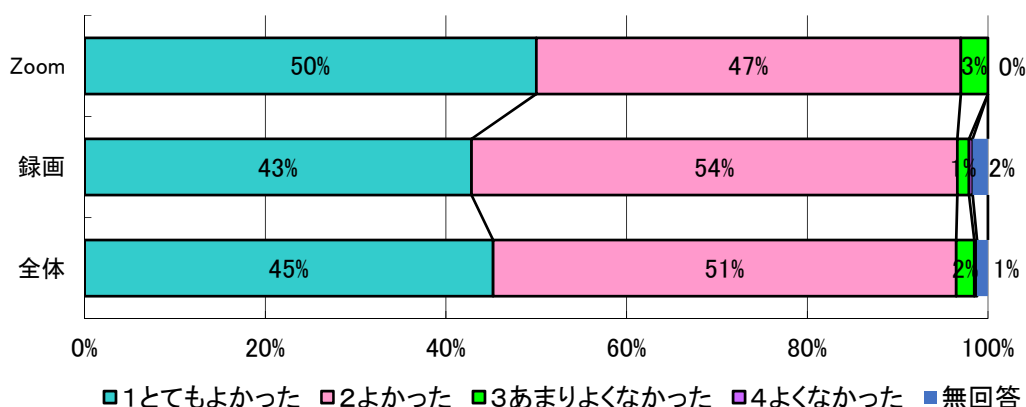


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 344 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

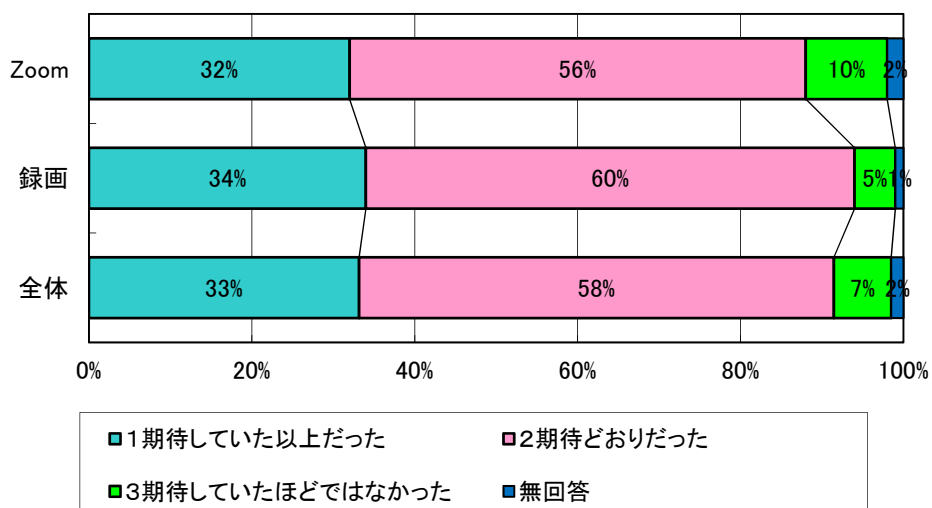
（１）講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	59 (50%)	97 (43%)	156 (45%)
2 よかった	55 (47%)	121 (54%)	176 (51%)
3 あまりよくなかった	4 (3%)	3 (1%)	7 (2%)
4 よくなかった	0 (0%)	1 (0%)	1 (0%)
無回答	0 (0%)	4 (2%)	4 (1%)



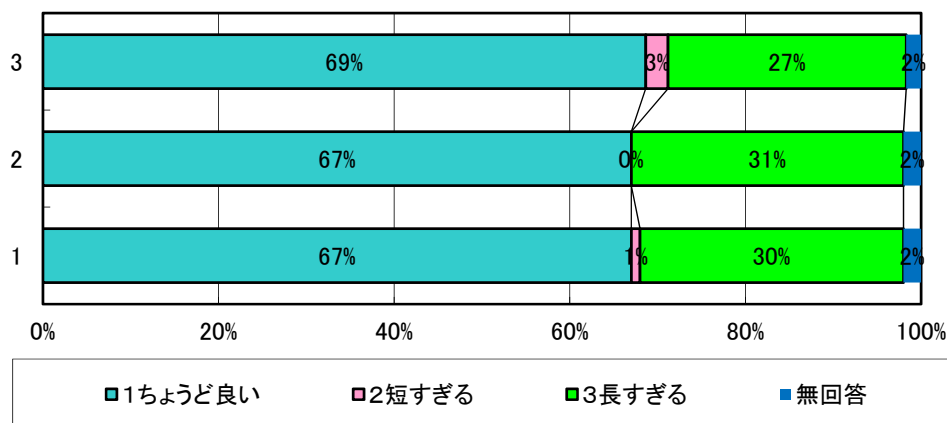
（２）内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	38 (32%)	76 (34%)	114 (33%)
2 期待どおりだった	66 (56%)	135 (60%)	201 (58%)
3 期待していたほどではなかった	12 (10%)	12 (5%)	24 (7%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
無回答	2 (2%)	3 (1%)	5 (2%)



(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	81 (69%)	151 (67%)	232 (67%)
2 短すぎる	3 (3%)	1 (0%)	4 (1%)
3 長すぎる	32 (27%)	70 (31%)	102 (30%)
無回答	2 (2%)	4 (2%)	6 (2%)



(4) 今後希望される講演テーマについて (複数選択可)

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	72 (21%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	86 (25%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	100 (29%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	133 (39%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	84 (24%)
6 初年次学生の教育支援	70 (20%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	129 (38%)
8 キャリア教育・進路指導	72 (21%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・manaba についても聞いてみたくまりました。
- ・今後も提供いただける情報を参考にしながら授業内容を見直していきたいと思います。
- ・今回のように授業や学生指導に効果的なことを教えていただく機会があると大変参考になります。
- ・ICT の活用として、respon のドロップアウト通知機能は非常に有益だと感じた。一方で、UNIPA での情報や respon など連携できたり、教員の方で出席状況・参加に関してだけでもよいので、できるだけ横断的に確認できるようになると、非常にありがたいです。教育支援・学事 G と教員との連携の在り方や教員（特に担任・ゼミ担当）の学生の学業情報（出席や参加率）に関するアクセスのしやすさなど、より包括的有機的な展開のしやすさなどに関する研修・事例の紹介があると非常にありがたいです。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。
- ・学生達がこれまでの期間で何を学び、何を知っているのかを把握し難く、授業内容に無駄が多くなってしまいう傾向があると感じています。関連する授業の内容を把握することができると、効率良く要点を絞って授業運営ができるのではないかと思います。シラバスだけでは把握し難いので、例えば授業見学（オンデマンドを視聴）等の可否もご検討いただけると幸いです。

[国の高等教育・教育改革の動向、本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・これからの少子化時代にあたり教育改革、改組等迫られると思いますが、大学設置基準、補助金のしくみなど教職員が理解しておくことは重要かと思ひます。
- ・国の高等教育・教育改革の動向に、本学の教育体制・教育改善をどのように対応させるのか（本学の特徴）を考えておくことが急務かと思われる。

- ・学科などでどのような教育方針なのか、就職支援に力を入れたいなど方針がわかるような講義やディスカッションができる場を設けてほしい。
- ・今回のように授業や学生指導に効果的なことを教えていただく機会があると大変参考になります。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。
- ・少子化による学生数の確保が難しい現代において、本学の教育体制やカリキュラムの大幅な見直しが喫緊の課題だと思います。受講生の非常に少ない授業の見直しなど、学生にとって求められる授業のあり方を検討していくことが必要と思っています。
- ・教育体制とも関係すると思いますが、オンライン授業の有効性について個人差が非常に大きいように感じています。どのように効果的に活用していくか、大学としての動向に関する情報を期待します。

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・CahtGPT について
- ・生成 AI で語学教育が大きく変わるといいますので、今後の語学教育のありかたについて
- ・学部を超える授業（科目）の可能性について。
- ・卒業論文指導について。大妻では、すべての学科で卒論は必修だと思われます。最近、一部の教員から卒論を選択制にしてはどうかとの意見が出ています。理由は、教員の負担が過重だからです。私たちは、自学科の指導しか知りません。他学科ではどのような指導をしているのか。教員の負担軽減を図りつつも、優れた指導事例があったら、そこから学ばせていただきたいと思います。
- ・学生主体の授業が求められています。これは技術的な問題というより、教員の意識の問題になるのではないのでしょうか。アメリカの大学は、この意識転換に成功して復活しました。この問題にいつかは取り組まねばならないかと思っています。
- ・授業や学生指導に直接役立つ内容のほか、本学の改革に貢献するための情報も得られると有意義だと思います。
- ・企業、工場見学、博物館など学外施設を利用した授業補助の事例紹介
- ・他の先生方の授業開発やアイデア、そして工夫なども参考になるといいます。

[初年次学生の教育支援]

- ・高校の教育内容や進路指導
- ・偏差値を高める入試問題作成のあり方。FD とは直接関係しませんが、質の良い授業は質の高い学生の確保が必要と思われます。
- ・学生の自立や成長を見守る方法を模索しております。
- ・現在の大学生を中心とする「Z 世代」の特性。5 年前の学生とは気質が異なり、指導に難しさを感じているため。 どのような点に注意すべきか、専門家の意見を聞いてみたい。 上記と関連して、SNS 世代の学生の対面コミュニケーション能力を向上させるにはどうすれば良いかも、日々悩みの種である。
- ・1 年ゼミや2 年ゼミで何をすべきなのか、いまひとつよくわからないので事例紹介をしてほしいです。個人的な希望ですが、私が所属する学科は教員の専門性が多様で、学科共通の「基礎として学習すべきこと」がないせいで余計に困っているので、そういった「ごった煮」の学科の先生の事例をお伺いしたいです。
- ・受講態度や学習姿勢に問題のある学生に対する指導・支援のあり方
- ・学生の自立や成長を見守る方法を模索しております。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・海外での例なども含めて、多様な対応事例を聞いてみたい。
- ・AI の自動生成の課題利用をどのように指導するか
- ・配慮の分野も多岐にわたり、対応に迷うときもあります。真摯に公平に学生さんに接するためにもぜひ勉強したいと存じます。よろしくお願いします。
- ・今後、増加してくると考えられる配慮が必要な学生について、例えば本学の相談室のカウンセラーの先生方から具体例などをお示しいただきながらアドバイスをいただきたい。
- ・実習講義のため、配慮が必要な学生を受け入れることが難しいと感じております。どのような判断基準で成績を判定されたり、履修を支援しているのか知りたいと思っています。
- ・受講態度や学習姿勢に問題のある学生に対する指導・支援のあり方

[キャリア教育・進路指導]

- ・キャリア教育の動向 学生の将来への志向を高める大学におけるキャリア教育の在り方
- ・(オンデマンド授業でしたので、授業内容のほかに、近況などのコメントを respon で共有していました) そのとき、学生のコメントで多いのが、就職活動への不安でしたので、テーマに選びます。

【その他】

- ・学生の実態に即した教育方法の工夫・開発に関する講座 ・かつての大学生とは様変わりした学生の動向（学習意欲、学びへのきっかけ、出席・単位について価値観、読書や仲間との議論などキャンパス外での学びの状況など）を理解するための講座 ・適度なアカデミックプレスを組織として加えていくための工夫についての講座 ・同一学科の中でも所属学生の基礎学力に大きな差があることを前提に、教員はどのように対応することが公平であるかを考えさせる講座 ・この学力格差は3年次にも変わっていないというALCSの結果を覆すための工夫のヒントとなるような講座
- ・一授業で使える映像の著作権関連（ネットフリックスはダメかどうか）―大妻女子大学で使える教室の類型（口字の教室の有無）や機材の類型
- ・選択肢にあるテーマとも関連しますが、ダイバーシティが重視されるなか、トランスジェンダー（MtF）学生への対応を取り上げてみてはいかがでしょうか。たとえば、お茶の水女子や奈良女子、宮城学院女子、東京女子、日本女子、津田塾等はトランスジェンダー学生の受入れを開始あるいは受入れ方針を決定しています。こうした流れはSDGsの理念「誰一人取り残さない、持続可能な社会」と重なります。ただし、アドミッションポリシーとの関係もありますので、取り上げるにはハードルが高いかもしれません。また、在学生のなかにも一定数の割合でFtMの学生がいると推察されますので、人権保障の観点から、どのような対応とコミュニケーションが求められるかについてコンセンサスを得ることも重要と思われます。
- ・そろそろ対面でも実施可能なのかなと思いますので、学部や部署をこえて教職員が「これ、どうしてますか？うちではこうしているんですが…」という話というワークショップっぽいものができるといいなと思っています。あるいは、カリキュラム改定のあおりか何か分かりませんが、所謂「静かな退職」っぽいスタッフが少なからず見受けられるので、教職員それぞれに学生に対してサービスを提供しているという意識が高まるような企画もありがたいです。
- ・本件とは関係ありませんが、YouTubeの再生時にCMが流れます（動画冒頭）。YouTubeチャンネルの設定でCMが流れないようにしたほうがよいと思います。

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・respon を使っておられる先生のお話を聴かしていただきましたが、学生が楽しみながら興味を持って受講でき、尚且リアルタイムで他者のいろいろな意見に触れることができる授業展開に、正直驚いております。私も少しずつresponの使い方を学生を惹きつけられる授業について考えていきたいです。
- ・教員と学生とが双方向の授業を進めるうえで参考になりました。取り入れることで寝る学生はいないかと感じました。
- ・responの効果をよく理解できました。是非様々な場面で使用し、学生の授業参加意識を高めていきたいと思います。
- ・これまで、出席機能のようなものとぼんやり考えていたresponの活用法を知ることができ、そのまま後期の授業に反映することができています。来年度からオンデマンドから対面に切り替わる授業が増えるため、このタイミングでの事例紹介はとてもありがたかったです。
- ・森田社長の講演内容が、ICT教育の面、特に双方向からの参加型という面で、今後の教育活動に役立ちました。今回は、家政学部以外の分野のお話がたっぷりと拝聴出来たので、良かったと思います。このような機会を計画していただきまして有り難うございます。今後とも興味深いご計画をお願いします。
- ・森田真基氏の話し方が柔らかく、聴きやすいと思いました。
- ・この機能は、教員、学生共にメリットがあり双方向のコミュニケーションを行うには大変有効であると感じました。
- ・responの機能を色々御紹介頂き有難うございました。何らかの形でこちらの授業に活かされればと思います。
- ・responの使用事例について、沢山の学びがありました。
- ・responを今まで使用したことがなかったが、使用例を聞き、使用してみようと思った。
- ・これまでレスポンス機能を活用していませんでしたが、ぜひ使用したいと思いました。
- ・ルームの機能をまだ使ったことがなかったので、今後使ってみたいと思いました。
- ・responは普段からある程度は使用していますが、具体的な事例説明が多かったので、参考になりました。
- ・後期の授業にむけて、大変、参考になった。
- ・今後のレスポンスの利用に関してある程度参考になった。
- ・responやその他のサービスの活用法のみならず、学生のニーズとそれに対応するための工夫や注意点について、詳しく知ることができ、大変勉強になりました。
- ・レスポンスについて、3名の教員の対面授業での使用と、1名のオンデマンド授業での使用の報告で、多面的な使い方の詳細が良く理解できた。また森田氏の懇切な機能紹介も、開発者の話を聴く機会として貴重で、思わずメモを取り再度（3回見直した場面もあり）映像を確認するなどして収穫があった。
- ・これまでresponの機能を使用することがなかったが、使用例を知ることができ、試してみようと思った。manabaよりも即時性が高い点が学生にとっても有効と思う。対面授業ではライブ感が重要と感じているので、後期の授業での使用を検討したいと思った。多くの使用例を知ることが、興味深く、有効であった。

- ・先生方のご発表では、具体的な事例を拝見し、このような授業を実施すると、きっと学生は授業に引きつけられるであろうという感想を抱いた。respon の森田社長のプレゼンも、入力画面を示して実際の操作を再現するなど、わかりやすい説明でありがたかった。一方で、最後の山倉先生のコメントにもつながるが、慣れている（若い）先生や学生には非常に魅力的なツールではあるが、慣れない教員にとっては事前の準備や現場での操作など、時間的、精神的な負担があると感じる。少人数での実地の講習会など、活用に向けたさらなる機会をいただければ、とも思っている（話を聞くのと、実際にやってみるのとは違うので・・・）。
- ・実際の授業で使われている視覚的な教材なども示されていて、自分の授業とあわせて身近なものとして参考になりました。
- ・授業で respon を使っており、ある程度の知識はあるつもりでしたが、自分が思いつかなかった使用方法も出てきて、よかったです。
- ・存在は知っていたものの、なかなか活用できていなかった respon 等のメリットについて事例から非常によくわかった。自分の講義でも積極的に活用していきたいと強く思った。
- ・対面授業が再開される前にこのような機会があれば、なお良かったと思いました。
- ・これまで使用したことのない機能について、実際の例を挙げてご説明くださったので、分かりやすかった。また、基本的な使い方についても知ることができた。manaba の機能との違いについて、授業内でリアルタイムに学生に作業させたり、情報を共有できたりすることなのかと認識したものの、理解したことが実践できるほど自分の中で定着してはいない。練習用コースを使いながら、どのような場合に使用できるのか、manaba との使い分けについて考えてみたい。
- ・これまであまり利用してこなかった機能を今後活用していきたい。
- ・respon は、出席の確認、アンケート、小テストなどで使用していたが、他にも多くの機能があることを知った。少しずつ、今回紹介されていた機能を試してみたいと考えている。
- ・講演会のトピックで、対面講義とオンライン講義とのハイブリッドに言及されていた点に可能性を感じた。
- ・今まで、出席の確認・アンケートに respon を使用し、アンケート結果をライブでグラフ化して生徒に紹介するといった機能は使用していましたが、今回の講演会でルーム機能の双方向型授業への有効性やダッシュボードの使用による多教員との共有について知ることができました。対面授業の再開、出席確認方法の変更などにより、respon を前期はほとんど使用していませんでしたが、今回の講演会を参考にして授業に取り入れていきたいと思います。
- ・何となく使ってきた respon について、使いこなしなかった点、未発見の使い方、応用の広さをはじめとして細かい紹介をいただき、色々と得るものが多かったです。今後の活用に生かしていければと思っております。
- ・動画時間は若干長い気がしたが、respon というツールの概略が分かってよかった（名前だけはよく見ていたが）。自分の授業での respon の活用についての検討はこれからだが、特によいと思ったのは次の点。respon で学生に何かを問いつけたとき、とりあえずは回答が匿名ででき、他の人たちがどう答え・考えたかも見られること、また、教員側でも、誰がどういうコメントをしたかをあとで確認できること。質問の内容やクラスの規模にもよるかもしれないが、最初は匿名で、のちには記名で構わない人は記名で、という風にも使えそうな気がした。発表者の方々の、respon を使用した（およその）授業展開そのものに参考になることが多々あり、興味深く閲覧した。「リアルタイムでの学び」の重要性について、あらためて考えさせられる。
- ・活用事例をお話くださった 4 名の先生方のお話しをもっと聞きたかったです。質問がしたかったので残念でした。
 - ①対面授業の中で、大中小規模いずれも配慮願いの学生に対してどのように対応されているでしょうか。一斉に打ち込むことにプレッシャーを感じる。クジが当たるのが怖い。体調などの側面でお手洗い等に立つと、respon が頻繁にあると応えることができず、成績や学ぶ姿勢への影響、先生への失礼に当たるとのプレッシャーになる。このようなことはあると思います。留意されていることを伺いたいです。
 - ②大人数の場合の活用例、参考になりました。respon で出た結果を基に、学生のディスカッションができるなど、大人数での工夫ができそうです。1 回の授業でどの程度(回数や内容等)活用されるのでしょうか。
 - ③少人数のゼミ等の場合、10 名規模であると、ライブで質疑応答する楽しさはあると思うので、ゲーム感覚としては、面白いと思いますが、10 名が一斉に打つ込み無言になるなど、緊張感も生れるように思いました。チームビルディングなどに活用される際に工夫されている点はあるのでしょうか？アンケート項目や卒論へのコメント等、少人数での活用法について参考になりました。
 - ④中規模の授業で活用される場合、ディベートなどに活用されているのは面白かったです。一方で教員の大変さも思いました。中には学生同士で評価しあうと感じる者もいると思うのですが、学生の学習意欲への結びつけや、ストレングスのフィードバック等、先生が心がけておられることや留意点を教えて頂きたかったです。 よろしくお願ひ致します
- ・使ったことのない機能について知ることができた。新しい機能についての説明がもう少しして欲しかった。
- ・今まで manaba の小テストやアンケートを多用していましたが、後期に respon を活用してみようと思いました。
- ・respon を対面やリアルタイムおよびオンデマンドで活用するためには、それぞれの授業形態に応じた方法と授業内容を工夫して準備しなければならず、非常に時間を労力がかかると思います。講師の先生方のお取り組みに頭が下がります。
- ・ゲーム感覚での対面授業における各種ツールの導入の必要性和難しさを感じました。
- ・「respon」を使用していなかったため、とても参考になりました。今後の授業に活かしていきたいです。ありがとうございました。
- ・respon は双方向授業にとって良いツールだと思った。
- ・Respon は使用したことはなかったが、使ってみようと思った。先生方の事例報告があった後、それに答える形で制作側からの説明があるという形式は良かったと思う。

- ・プレイヤーなど、全員での即時共有性は発表を伴う授業ではかなり活用できそうだ。他方で、リアルタイムでの理解確認、質問、他の学生の反応の認識は、試験の合格を目指す、もしくはテストでチェックできそうな知識蓄積型の授業では重宝しそうであるが、正解のない課題について学生に深く考えさせることが必要な場合は、manaba のアンケート機能の方がよいと思われる。あるいは後者の場合でも respon の有効活用方法はあるのだろうか。
- ・先生方の実践は大変参考になった。色々工夫されて授業に取り組んでいることが理解された。講師についてはそれなりに参考となった。しかしながらテクノロジーがどんどん発展していく中、私は基本的な動作についてもう少し身近に教えていただければとても助かると思う。難しいことではないのかもしれないがデジタルに対して苦手意識が強く、講演ではなく手ほどきみたいな形で教えてもらえる場があったら嬉しい。
- ・スムーズな授業の進行の為に仲間つくり>に respon の機能を利用するのが印象に残りました。特に、アンケート機能の応用がすごく勉強になりました。
- ・従来、紙でやってきた出席カードやリアクションペーパー、アンケート調査、短い小テストなどのデジタル版で、リアルタイムで集計・共有できるソフトであることが理解できた。ただ、科目特性によっては、リアルタイムで学生たちの反応を確認し、共有したほうが良いケースもあるだろうが、manaba のアンケートやコメント、個別指導、掲示板などの双方向での対応ができる諸機能を利用してじっくり取り組んだほうが良い場合もある。出席の当たりによる発表も出席簿の順番による発表のほうがもれなくチェックできるという点では特に魅力的とは言えない。また、小テストの場合、スマホに表示された単語や文章は簡単に翻訳できてしまうので、語学ではデジタル機器を利用した小テストは使いにくい面がある。即応性のあるリアクションペーパーやアンケート集計機能はいいと思う。今後活用していきたいと考えている。
- ・来年度は4年ぶりの対面授業になる予定ですが、respon を使ってみようと思いました。例年100人程度の履修者がいますので、出席管理からまずは導入して、余裕が出てきたら、アンケート機能や即時反応、当たり機能など使っていければと思っています。出席管理に関しては不正を防ぐのにどうしようかと考えましたが、ビデオ内で位置情報が紐づけられるということをおっしゃっていましたので、抑止になると思い安心しました。要望としては、本動画を消さずに（来年度も）、いつでも閲覧できるようにしておいていただきたいです。
- ・コロナ禍でのリモート授業対応で疲弊してしまい、(GoogleDrive 使用の理解 音声付きパワーポイント作成 動画作成 YouTube 投稿 manaba の各種設定 レポート回収等々) 対面授業再開後はコースニュース、個別指導コレクション、レポート機能など manaba を通して最低限のやり取りを行うに留まっていた。respon 機能についてはその名前は知っていましたし、使っている先生からは便利だということも伺っていましたが、なかなか手を出せずにおりました。今回の講演会で若手の先生が積極的に活用され、また工夫されていることに接し大変刺激を受け、自分の授業（対面スポーツ実技）で、どの様に導入できるか考え始めています。運動実技授業という特性から参加者の顔色や表情の観察と併せて、出席確認は点呼により行っていますが、事例紹介にありました、自ら授業アンケート 授業終了後にその日の実技について感想を聞く仲間作りの一環で自己紹介アンケートなどシンプルな機能からでしたら導入出来そうです。私にとりましてはタイムリーな内容の講習会を実施頂きありがとうございました。
- ・respon の多様な使い方、広がり、深まりについて、具体的に学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・respon のルーム機能の説明がよかった。今後活用を検討したい。
- ・respon の使い方を再確認でき、新しい可能性をさがることができました。
- ・知らなかった機能もあり、またさまざまな使い方のアイデアを膨らませながら拝聴しました。若い先生方が上手な使い方をしてるので、manaba や生成 AI への授業対応などについても、今回のように何人かの若手の先生に事例をしていただけるとよいと思いました。ありがとうございました。
- ・オンデマンド授業でも respon が使えることがわかりました。
- ・respon の活用方法について、理解できた。
- ・オンライン授業での Respom 活用は、大変参考になりました。
- ・respon を取り入れてみようと思いました。
- ・少人数の授業では使用していなかったもので、さまざまな活用事例を知ることができたのが貴重でした。まだまだ未使用の機能が多と感じたので、夏休みに少し動画を見て勉強したいと思います。
- ・respon が UNIPA の不正出席登録の防止手段として使えるというのは、新たな発見だった。また、大勢の人の前で口頭で発言するのは気が引けるという学生も、respon を使えば発言しやすくなるのではないかと気づいた。さらに、学生がチャット GTP に問題文を投げ込むことを防止する機能も備わっていることを知ったことも収穫であった。
- ・自分の授業で使っていたので、ある程度 Respom に慣れた状態で話を聞くことができて良かった。活用事例があったので、自分の知らなかった使い方を知ることができた。他の先生もおっしゃられていた、発行したカードの修正と同一番号の使いまわしができるようにして欲しいと思います。これらが可能になるとかなり便利になると思います。使われた資料を共有できるようにして欲しい。
- ・これまで比較的人数が多い講義での導入部分での使用にとどまっていたのですが、具体的な活用方法がわかり、すべての授業において、継続的に使用が可能なのことがわかり有意義でした。ありがとうございました。
- ・学生が「knowledge」を習得することが要求される科目についてはかなり利用が制限されると想定していたが、room については学生の質問集約に非常に効果的であると感じた
- ・まず、緩い方法で respon を使ってみようと思う。

- ・今回、さっそく respon を使用したく、講演会終了直後に直接 respon 社に問い合わせたところ、講演会終了1時間以内に respon 社の滝口取締役からお電話をいただき、前向きに検討することになった。このような素晴らしいビジネスパートナーを本学が有していることは誇りである。
- ・respon の機能は使用したことがなかったので、まずは習うより慣れろかと思った。併せて学生がどのように見えるかを示してくださったのはわかりやすかった。森田氏が後半紹介してくださった事例のレジュメがあればありがたいです。
- ・後期から respon を使用したいと思っていましたが、マニュアルを見ると慣れるまで大変そうだ・・・と思って少し憂鬱でした。ですが今日の研修を受け、楽しみにになりました。
- ・2020 年度より Respon を講義科目で使用しておりますが、これまでの復習とさらなる発展的な使い方について学ぶことができ、とても有意義でした。対面授業における活用法として、学生さんが意見を出しやすいという側面についてはなるほどと思いました。respon はクイズのようでとても面白いなと私個人は感じているので（即座に意見をシェアできるのがとても良いです）オンライン授業に特化することなく、これからも活用方法を模索したいと思います。ありがとうございました。
- ・宮崎先生のご報告にあった学生にスマホや端末を使わせた時の充電問題、なるほどと思いました。他の履修者の回答を見ることに意味があるケースでは respon は使えるかなと思いましたが、コメントのやり取りの場合、manaba の掲示板（スレッド）やプロジェクトと respon とで何が違うのか？（なぜ manaba の機能ではなく respon を選択したのか？）が分かってなおよかったです。あと、respon を用いてテキストベースで学生相互にレビューするのは便利ですが、レビューを受けた本人は全てを読むのだろうか？と関心をもちました。潜在的にコメントを取捨選択をしていると成長できなくなりそうですし、対面で口頭でレビューを受けた方が成長するのではないかと（率直にコメントしそれを率直に受け止める力+その場に出さない／出せないことはないものとするは社会では大事ではないか？）と感じたので、そのへんの考察もいただけたとありがたかったです。また、respon を使うと学生の反応（アンケート回答）がよいということはいいいことだと思いますが、学問的な理解度や最終的な成績に好影響があったのかを知りたかったです。
- ・ほとんど使ったことがなかったので、どのような機能をどのように使えばよいのか、とても参考になりました。実際に使っている先生方の事例は、とても分かりやすく参考になりました。
- ・お世話になります。つい自分の授業のサイズでの使いこなしに注力してしまいましたが、クラス編成によって用法用途が異なり大変勉強になりました。秋学期に早速取り入れようと考えております。貴重な機会をありがとうございます。
- ・森田社長のご講義の中で、教員の画面と学生の画面の両方を見ることができたので分かりやすかったです。
- ・森田様の講演では respon は履修登録外の学生でも参加できるというお話でしたが、respon に学外者のゲスト利用、一日だけの限定利用などの機能やサービスはありますか。オープンキャンパスに参加する高校生、親御さんにも試用していただけると体験授業や学科・専攻ガイダンスで有効活用できると思いました。
- ・複数の先生方の授業での活用方法について、話が聞けたので参考になった。
- ・「び逃げ」の対策として当たりくじ付きカードが有効であること。質問：カードの提出をブラウザを不可にしてアプリのみに設定することができると述べていたと思いますが、この設定方法がわかりませんでした。
- ・複数の事例紹介が大変有意義でした。
- ・個人発表の際に respon を併用してコメントを文章で残し、その後のディスカッションのきっかけにするのはとても良いと思いました。また「当たりくじ」も緊張感があってぜひ利用してみたいと思います。
- ・respon の会社の方の使い方のレクチャーがとても参考になりました。機会が苦手で一度聞いただけでは習得できませんので、随時、講習会があったり、動画付きの説明が随時配信されたりするとありがたいと思いました。
- ・respon の森田社長のお話は大変ためになりました。今後ももっと対面授業で活用したいと思います。特に授業時間のほとんどを課題に費やす講義や、テストと即時採点&回答共有、授業途中アンケート、得点計算を活用した使い方は興味深く拝聴しました。respon を対面授業で有効活用するためには、学生がスマートフォンを常に使用できる環境が必要なので、午前中の授業は充電してくることが必須だとしても、充電禁止は解いてあげる必要があるかもしれないと思いました。
- ・respon は出席機能しか活用したことがありませんでしたが、今回の FD 研修を受け様々な授業の活用事例や機能を知れたことで可能性が広がりました。また、履修人数の異なる事例や、オンデマンド授業での活用事例を通して、具体的なイメージを持つことができました。講師の先生方、短い時間でわかりやすい説明をありがとうございました。
- ・通常 manaba のレポート機能や小テスト機能を使っているが、ライブで参加するという意味では respon の方が効果が高いと考えられる。後期から、respon を使って双方向授業のやり方を工夫したいと考えた。
- ・今後 respon の利用を検討していましたので、大変参考になりました。オンデマンド授業での利用は難しいのかと思っていましたが、様々な使い方があり興味を持ちました。
- ・他の受講生の意見をその場で共有し、学びを深めるためのツールとして、ぜひ採り入れてみたいと思いました。
- ・respon の活用について、いくつかのヒントが得られてよかったです。
- ・リアルタイムな学びの場が重要であり、そのツールとして respon の活用は非常に効果があると改めて感じました。
- ・すでに改善されているのかどうか分かりませんが、学生によると PC などのブラウザ上ではルームに入れないとのこと。たしかにフリック入力早いですが、PC を持ち込んで受講している学生もいます。ブラウザでもルームに入れるようにしていただければと思います。またリアルタイムの相互閲覧は、フリーライドも助長するので使い方次第だと思いました。

- ・ほかの先生の授業例や、respon の森田社長の説明を聞いてよかったです。「ルーム」機能はまだ使ったことがなかったので、学生さんの様子を見て、今度試してみたいと思います。
- ・RESPON の良さに気付かされ、授業で活用したいと思いました。自分の意見を述べるのに匿名性を求める学生の姿に、近年の SNS 等での中傷などもそのような流れの中で起きているのではないかな等も感じてしまいました。やはり最終的には自分の意見を表明してそれに向き合い、責任をとれる人材を育てていきたいとも痛感しました。
- ・コロナ禍以降、対面授業において授業中に携帯（スマホ）を操作しながら受講している学生が散見されるようになりました。ながら受講（聞き流し受講）の癖がついたように思います。携帯（スマホ）を活用しながら授業を行う方が、かえって教員のストレスが緩和されるのかなと思う講演でした。
- ・90 分の講義を、その内容（？）により適宜区切り、その都度、受講生がそれを確認できる仕組みを作ることもまた学習効果を高める一つの方法、のようです。
- ・最終的に manaba と respon とどちらが成績評価に適しているのか検討していきたいと思います。・学生が respon で一度答えてしまったものに対して、加筆・修正はできるのでしょうか。respon の性質上、「その場で」というのがメリットだと思うのですが、森田社長様ご紹介くださったプレゼンへのコメントは一回送信（再送なし）で問題はでなかったのか興味があります。・学生に他の学生のコメントを見せたいのですが、学生が自分のグループだけのコメントを見られるような設定はできますか。ちなみに、自分のグループへのコメントは自分ではしません。他のグループへの評価をするだけです。そしてフィードバックするために閲覧したいのは自分のグループのみです。そのほか、今まで manaba でやっていたことが、すべて respon でできて、どうもこちらの方が学生は楽しめ、教員は少し楽になるような気がしました。後期はシフトしてやってみたいと思います。4) 講演前の質問に、他の学生の回答を見られるか、とお尋ねしておりましたが、先生方のご紹介を拝聴し、可能なことが分かりました。今回の講演は、まさにどうしたらいいかと悩んでいたことへの回答となるような講演でした。ありがとうございました。
- ・使っていなかった機能を知ることができて良かったです。今後の授業で活用したいです。
- ・各先生方の respon の使い方が魅力的で、自分の授業でも取り入れようと思います。
- ・他の先生方の授業の方法ももちろんですが、respon の機能や使い方などを知ることができてとても参考になりました。ゼミや少人数クラスで今度使用したいと思います。卒論のフィードバックなども効果的であると感じました。また、森田社長のお話の中で、ダッシュボードの共有の方法や星マークの活用の方法、ルームの具体的な活用方法などを知ることができて今後の授業の展開に役立てたいと思います。respon が編集できるようになると非常に便利なのでお願いしたいです。とても参考になる FD 講演会でした。ありがとうございました。
- ・自身の授業でも respon を活用できそう、活用してみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・respon は使用したことがなかったため非常に参考になりました。有益な情報をありがとうございました。
- ・学生は、個人のスマートフォンの他に、PC やタブレットが自由に使える環境にあるのでしょうか？ PC やタブレットも学生個人の負担で用意しているのでしょうか？ 大学が PC やタブレットを入学時に学生に貸与しているなどをしていのでしょうか？ 非常勤講師なので、貴学の事情が分からないために疑問に思いました。
- ・正に、授業中のリアルタイムアンケートの応返、使ってみたいと強く思いました。ありがとうございました。ところが、何せ、機械（PC）音痴。私の PC 持ち込みで、出勤時に、少々の手ほどきを希望します。私、実は「respon 機能」が、どこにあるかも知らないで、後期開始までに探してみたいと思います。今まで、類似の内容は、マナバ（アンケート）でやっているつもりだったのですが、徐々に、「respon」に移行されるのでしょうか？
- ・授業内で学生と教員の双方向の意見を集約できること、学生に集計結果をその場で見せられること、質問にも答えられ共有できることがわかりました。
- ・まだ respon を使用していませんでしたが、前期のエコロジー I（千代田校 70 名）で出席のコード入力ができない学生が必ず 10 名以上出たので、respon を使用すればそれも解決できたかと思いましたし、後期のオンデマンドでの講義でも使えると便利だと思いました。取り入れていきたいと考えております。
- ・今回の講演を聴いて、respon の利用を検討してみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・これまで respon を使っていなかったもので、使ってみたいと思います。
- ・学生のより積極的な授業参加を、当たりくじ付き機能などの respon の機能をさらに有効に活用することで、高めることができそうであると感じました。ありがとうございました。
- ・respon に関する具体的な情報を知らずにおり、イメージできておりませんでしたので、具体例等も含めご紹介いただき、参考になりました。ただし、実際に自分の授業に取り入れる場合の手続き等がまだよくわかっていないところもあり、改めて確認してみようと思います。respon を使う場合、障害のある学生への配慮や支援ツールなど、他にあるのか、なども知りたいと思いました。（現在こちらで担当している学生には該当者はいませんが、他大での授業で、画面を見続けることの苦勞や、視覚障害の学生への対応など、その場で示されるものをどのように共有できるのか、なども気になりました。個別に工夫するほかないのかもしれませんが。）
- ・respon をこれまで使用したことがなかったのですが、respon は、学生さんの解答内容を瞬時に学生さんと共有できるところが、有用で素晴らしい機能だと思いました。
- ・有用にもかかわらず、利用していない機能が沢山あることがわかりました。担当している科目にどれだけ使えるかはまだわかりませんが、チャレンジしてみます。とてもよい機会を与えていただき、講師の皆様には感謝申し上げます。
- ・授業中に respon を活用することで、学生の授業への参加度向上に期待できることがわかりました。

- ・本日は有意義な研修をありがとうございました。まだ **respon** を活用していませんでしたが、イメージが湧き、不安要素が少なくなりました。具体的な授業活用事例が多く、デメリットも明確に示してくださったため、活用の判断が深まりました。後期講義でどう活用していくか考えます。
- ・本学教員の事例紹介と開発企業側の講演のバランスが良く、大変参考になりました。
- ・**respon** をうまく使いこなしている事例としてとても参考になったが、もともとの仕様としての **respon** の機能の少なさや使いづらさ（特にその場での柔軟な変更への対応）が目立つという面もあったと思う。
- ・リアルタイムでアンケートやクイズ、集計ができるので、オンラインや対面授業内で活用していくと良いと思いました。
- ・具体的な操作方法や事例を挙げてくださったので、自分の授業でどのように活用したらよいかイメージを持つことができました。
- ・ネットが不安定な場合の対応や、一部アプリの利用に困難を感じる学生への対応について言及されている先生方がいらっしゃり印象に残った。前者については、**respon** ではないが普段学生から上手く出席登録できないと相談されることが多く、難しい問題だと感じていた。また、アプリの利用に困難を感じる学生については、若者だから皆使いこなせるだろうという思い込みを持たないように注意したいと思った。森田氏のご説明がとても分かりやすく、学生の画面を見ることもでき大変勉強になった。
- ・講師の方々から、様々なノウハウをうかがうことが出来て、大変勉強になりました。
- ・講義形式の授業で、**respon** は以前少し使っていたのですが、最近紙の **respon** スカードを使用していました。改めて **respon** の使い方を見て、授業で取り入れたら便利だと感じました。後期に試してみたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・担当する授業科目の性質上、対面による対話が重要であるため、**respon** を使用することがありませんでしたが、使い方によっては学生の授業への積極的な参加のモチベーションを維持できる可能性があることが分かりました。
- ・視聴しながら **respon** を操作することで、理解が進みました。授業の中では是非取り入れたいと準備を進めていく予定です。
- ・**manaba** を使った双方向授業は行なっているが、**respon** を使うことでリアルタイム双方向になるのが魅力的だと感じた。一方で、授業準備が大変な点や、学生の **respon** スに対して、こちらもリアルタイムで対応しなければならない問題点があると感じた。現在は **manaba** で授業の感想や質問を集めているが、それを集計して代表的な質問や感想には翌週の授業で回答している。回答するためには教員も改めて調べたりする必要があり、なかなかリアルタイム性を求めるのは難しいと感じている。
- ・**respon** の使い方、いままで使っていなかった方法を思いついたのが良かったです。UNIPA での出席登録と **respon** の出席登録が被っているのも、どう使い分けるかが悩みどころになっています。また、今日の話でもありましたが、代返対策で効果的な使い方があれば、共有いただけると幸いです。
- ・大人数の授業の場合であっても学生が主体的に学べ、双方向性の授業を可能にすることができるツールとして有効だと思いました。
- ・**respon** は授業の出席機能だけしか利用しておりませんでした。今回、アンケートやクリッカーの機能を活用した授業をご紹介いただき、学生の積極的な授業参加を促せると理解しました。発表された先生に感謝申し上げます。
- ・4名の先生方による **respon** の活用事例はたいへん有益でした。人数規模別による対面授業のケースとオンデマンド授業のケースが紹介されましたが、自身が担当する授業形式がオンデマンドのため、竹部先生の活用事例はぜひ参考にさせていただきます。これまで、**respon** の機能はアンケートと出席確認のイメージが強かったのですが、小テストやレポートなど、様々な活用方法があることを理解しました。オンデマンドの場合、学生は孤独な学びに陥りやすいため、**respon** を活用することで相互の意見や考えをリアルタイムで共有し合い、ともに受講している感覚を持たせることは重要であると考えます。さらにルームや当たりくじ付き出席、ChatGPT など AI 対策ができる点も参考になりました。**respon** は全員参加型の双方向授業をデザインする 1 つのツールとして、最大限活用したいと思います。
- ・**respon** について何も知らなかったのも、使い方や活用方法を知ることができて良かった。思った以上に簡単に使えることがわかった。
- ・**respon** の出欠を取る以外の利用法が具体的にわかり、とても有益でした。ありがとうございました。
- ・大人数の授業の仕方と少人数によって、**respon** の良さの活かし方が変化すると感じました。大人数の集約には非常に有効である一方で、本来の対面での対話に関するハードルが高くなってしまう事を助長してしまわないか、匿名なら、文字表記なら大丈夫。でも、発話はダメ・・・でとどまってしまうようにする教育の工夫が非常に大切だと思いました。コースグループの設定は、同じ教室で実施されている授業であるにも関わらず管理上の問題でコースが分かれている場合、それらをコースとしてグループ化できます・・・これは、同一の教員が管理しているものなのか、複数の教員で割り当てられている別個の授業を統合運用（複数教員で一元管理）できるという仕様なのか、設定の仕方と仕組みを詳しく教えていただきたいです。例えば、同一教員の場合は、3・4年生の合同ゼミを実施する際などがこれにあたります。複数教員の場合は、同一科目・同一時間の授業を複数の教員が別々に管理している場合です。
- ・普段は **manaba** を使用しているが、**respon** との併用について考える良い機会となった。
- ・**respon** を活用することのメリットは、アンケート機能等を活用するなかで実感しておりますが、授業内で費やすことになる時間と効果とのバランスも重要になることを再確認できました。準備にかかる時間については、次年度への繰り越し機能などの改善点の指摘がありましたが、負担軽減策として期待できると感じました。
- ・**respon** の機能および活用事例が大変参考になりました。

- ・匿名で自由に意見が出せること、他の学生の皆さんの意見をすぐに見られること、対面式講義の場合でもひとりで講義を受けたい学生の気持ちを尊重できることなど、respon のメリットを具体的に知ることができて非常に有難かったです。
- ・manaba を活用することはあったが、respon を活用したことはなかった。リアルタイムで共有できる機能に興味を持てた。
- ・新しい機能の紹介は大変参考になりました。マニュアルをみただけではなかなかやってみようという感じにならないことも多いですが、実際の活用事例を確認できたことによって、より授業での活用がイメージでき、使ってみたいと思いました。また、学生からみた画面なども見れて、よかったです。学生から使い方やうまくいかない場合などを質問されたときに、画面が違っていてわからないことも多いので、参考になりました。後期から授業の中で、さっそく試行錯誤しながらよりよい使い方を考えていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・respon の機能を学ぶことができて、活用を検討できる気がした。
- ・既に使っている機能もあったが、respon の詳しい使い方について例示されていたのは大変参考になった。
- ・後半あったような respon の基本的な仕組みや使用方法にフォーカスした時間をもっと充実しても良かったと思う。実績のない者からすると、使ってみたいが実際どうしたら良いのか、最初のきっかけが難しい。デモ環境で試してみることができると、取り組みやすいと思った。
- ・respon 機能をこれまで全く使っていなかったのですが、問題を出してその場で回答が集められるというのは非常に便利だなと思いました。また、オンラインで出席をとったあとに教室から出て行ってしまう学生がいるという問題への解決策にもなるなと思いました。積極的に使っていきたいという気持ちになりました。また、これは本題ではありませんが、respon の実際の使用例として、各先生方が自分の授業の話をしてくださるので、普段なかなか人の授業を見る機会というのがないため、その点でも非常に興味深いと感じました。
- ・respon は前任校でも活用しておりました。その時点で、ずいぶんと情報を提供してもらいましたが、今回の研修では、それらの情報を再確認することができました。ありがとうございました。
- ・後期の講義で実際に使ってみたい
- ・respon は、manaba と連動して使用できるように画面上設定されていることが分かりました。操作方法が不確かでしたので講師の方の説明は有意義でした。教員が設定したアンケートに学生が授業内で回答すると即座に集計結果が得られる機能は、早速、後期の授業で活用したいと考えております。しかし、respon 導入前からすでにある UNIPA や manaba の機能にも、講義資料の配付、レポート提出管理、小テスト、アンケート、出席管理なども含まれており、機能が混在しているように思われます。
- ・動画だけではなくマニュアルなどをどこかにアップしていただけると活用しやすい。
- ・大変勉強になりました。双方向授業、アクティブラーニングをどのように進めるか。いつも腐心をしています。学生さんの「おねんね」は授業に対する無言のメッセージかなと思っています。でもどこまで私が活用できるか？心配でもあります。
- ・私の授業は実習が多いのですがすぐには難しそうでしたが社長の説明を聞き面白いツールだと思いました。ありがとうございました。
- ・ICT活用は対面型でも十分に活用できることを確認できました。レスポンスなど新しいアプリを活用してみようと思います。一方で、ダウンロードの仕方からよく調べないと分からない自分の現状があります。
- ・respon の活用方法について具体的な事例を聞いたことが参考になりました（特に情報リテラシーの先生のお話し）現状、manaba を中心に課題提出等を行っておりますが、アフターコロナの授業形態として respon も組み入れていくようなことができないか、担当講義の中でいい活用方法を考えるきっかけ、動機になりました。この講演会については後日見たこともあり、YouTube なので広告が途中で流れるのは若干見づらくも感じました（仕様上どうしようもないかもしれませんが）
- ・It was a very good and informative workshop learned a lot.
- ・新しいツールとして活用できる機能だと思いました。実際に使用している先生方のお話をお聞きすることができ、また、活用方法についても丁寧に説明いただき、参考になりました。
- ・授業内で双方向のやり取りが促進されることは、教育上とても良いと感じました。リアルタイムで交流がしやすく、学生さんの様子も記録として残るため、今後も積極的に ICT を活用していく形が良いように思いました。また多くの先生方が respon を活用していますので、今後はこうした ICT を活用した教育による「効果」をきちんと検証する機会などがあれば、より良い教育につながっていくものと感じました。
- ・respon は一度も使ったことがなかったのですがとても参考になりました。特に学生の発表の際の意見を求める際にぜひ使ってみてほしいと思いました。ありがとうございました。
- ・実際に使い込んでいないと分からない内容をご教示いただき、感謝申し上げます。ChatGPT などの生成 AI が一般的になる中で口頭試問は学習の成果を測るのに有効な方法かと思います。口頭試問を大人数に実施するのは現実的ではありませんが、respon を使用することにより可能になるかと思います。いまでも多少は使用しておりましたが、より使用頻度を増やしてみたいと思いました。
- ・respon について、全く知識がなかったのですが、事例を教えて頂き大変参考になりました。短時間で効率よく学べる反面、調べる、考える、考えをまとめる機会が減る可能性も感じたため、教科に合った使い方を探りながら、効果的に活用したく思いました。
- ・授業形態に合わせた活用法を知ることができた点が良かった。

- ・「respon」と言う情報教育機能について、まったく知らなかった。出席管理やリアルタイムアンケート、チャットシステムなどを利用することで、学生がより積極的に授業に参加できることのであった。対面授業では、一方向の授業になり易く、いかに学生と授業を共有できるかが常に課題となっている。少しずつ、いろいろな情報教育機能を学び、授業に取り入れたいと考えさせられる講演でした。
- ・少人数授業での使い方に関して、学びが多かったです。ゼミナールなどにも活かしたいと思います。
- ・これまで使用した経験がなく、敷居が高かったが、社長さんの説明が大変分かりやすく、後期から少しずつでも取り入れていこうという気持ちになった。また、先生方の事例紹介を拝聴し、respon の活用だけでなく、授業展開の点からも大変参考になった。ありがとうございました。
- ・今春、初めて manaba、respon に触れ、どんな活用方法があるのか知りたと思っておりました。授業中に学生の意見を聞きたいときに口頭で尋ねると、回答しない（できない？）学生も少なからずいます。この respon のアンケート機能は、匿名であるため学生が意見を述べやすいことや学生の意見を集約しやすいこと、またその意見をすぐに学生間で共有できる仕組みがあることをこの FD 講演会で学びました。次年度は担当する科目でぜひ使用してみたいと思います。
- ・大変貴重な機会をありがとうございました。今年から貴学にお世話になっております。まずはシステムの理解と基本的な活用から始めたいと思いますが、4 人の先生方の創意工夫や、森田社長の有効な実例を盛り込んだ講演が大変わかりやすく、参考になりました。
- ・respon は多用していますが、具体的な tips を更にいただくことができました。今後、実装を望む機能は 4 つです。1. アンケートの指示文に改行を入れられるようにしていただきたいです（なお現在、回答には改行を入れられるが表示されない）。2. 採点機能の改善。現状では、たとえば「B, D」が正解の場合、「D, B」は不正解と採点されるため、逐一やり直す必要があります。3. 出席点・遅刻点がデフォルトでそれぞれ 10, 5 になっていますが、デフォルトを教員が変更できるようにしていただきたいです。たとえば 0 とか 1 とか。アンケートで小テストをする場合、設問の点数との比率を考慮する必要がありますし、アンケートでは遅延提出は採点されない（※）ので、遅刻点の設定は意味をなしていないように感じます。（※遅延提出が採点されない仕様は、そのままでいいと思います。〆切後、答え合わせが終わってから提出する不正が、けっこうありますので）4. 提出前・提出後の表示は、英語でなく日本語で、わかりやすく表示した方がいいです。「入力・記入はしたが submit した／しない」をめぐるトラブルになることがままあるので。
- ・小さなクラスであっても、学生はお互いに言葉を交わし意見を述べることをかたくなに拒みます。それを解くために 1 年かかる。respon を使えば匿名で学生の言葉を聞くことができるようだが、それで喜ぶ気にはなれない。これほどの仕掛けがないと学生と学生、教員と学生は言葉のやり取りをできないのだろうか。顔と顔を合わせて言葉を交わすスタイルはこれから廃れるのだろうか。
- ・respon は便利な機能で、使いたいとは思いますが、一点気になるところがありました。それは、対面授業で使うと、学生も教員もスマホやパソコンの画面を見る時間が多くなり、せっかくの対面なのに、face to face で直接対話する機会をわざわざ減らしていると思われる点です。少なくとも少人数の対面授業で使うことは検討の余地があるように思いました。・事前に提出したアンケート項目に関して、講演者からの回答がない。
- ・双方向性をめざすという意味では、良いシステムであると思います。ただ、科目によって適合性がかなり違うのではと感じました。データ集積に終始してしまう恐れもあり、じっくり思考させる授業には不向きではないかと思いました。設定していた終了時刻は、できるだけ守ってほしいと思います。
- ・実際に respon を使用している学部内の教員に疑問に感じたことを聞いてきたいと思います。特にスマホを授業中使わせることが、教員の指示以外のことでスマホを使うという事態を誘発しないのか気になりました。
- ・学生の情報は参考になった。匿名でない意見が言えない学生が殆どであることに驚くとともに、個人的な実感とも整合しており、納得した部分でもある。一方、respon により授業内容の理解度がどのように変わったのかについて興味がある。機会があれば、理解度・到達度の違いについての紹介を期待する。US West Point's の実験で電子機器使用の有無と理解度・達成度との関係を評価した研究がある。本学との違いに興味がある。また、別件だが、数式や図形入力のできない manaba や respon は数学系の授業に適用するのは難しいと感じていたが、そもそも設計思想にそのような科目に対応することが入っていないことを知り、適用限界への意識を新にした。
- ・利用したいですが、授業が多すぎてとても準備ができません。前期は週に 12 コマありました。根本的な授業負担の改善を求めます。
- ・先生方の使用事例は大変参考になりました。事業者の説明は、マニュアルを読めば分かる内容で、研修会講師としては工夫が足りなかったと思います。
- ・ICT 時代に適した大変便利なツールで、学生のほうが使用に長けている中、逆に情報社会でより一層求められるであろう対人コミュニケーション能力や自己管理能力の向上に注力しており、現時点では使用しておりません。本年度に入り、出席システムへの一斉アクセスで授業時のネット環境が不安定になっているため、使用の場合には、大人数で一斉アクセスを前提としたネット環境が求められると思いました。
- ・既に respon を使用しているので、新しい使い方等の情報は期待ほどではなかった。
- ・オンデマンド授業において respon を利用する利点あまり感じられなかった。コロナ禍によるオンデマンド授業がすでに 4 年目に入り、manaba と UNIPA を使った授業もある程度慣れてきたが、さらに respon を使うとなると少しハードルが高い気がした。

- ・社長さんの講演が大幅に時間を超過してしまいました。もう少し講演慣れされている方を講師にお招きいただきたいです。 本学の先生方の講演は参考になりました。
- ・前半の先生方の使用事例は大変参考になりました。後半のソフトウェアの説明は、機能をたくさん説明していただきましたが、まだ使ったことがない人にとってみるとわからないまま話がすすんでいたのではないかと懸念します。
- ・メーカーによる利用方法の解説が冗長であった。
- ・最後の方がもう少しコンパクトでもよいように感じました。
- ・respon の社長に質問をしたかった点があるが、質問時間がとれなかったのは残念でした。
- ・自分の授業では、「あなたの場合どうですか」的な身近の事柄の質問を組み込むことが難しい。
- ・とくに後半からは「学問とは何なのか」ということについて考えてしまった。わたしにはよくわからなかった。
- ・主にレスポンスを利用したコミュニケーションの事例を紹介いただいたが、担当授業の性質、目的からして、労多くして効少なし、と感じられる。大半の担当授業が対面化しているため、二次的効果、付随的、末節的サービスを授業時間外に提供することを、美談とする雰囲気を作るのでは、と危惧する。
- ・授業時間内に飽きさせないという努力はわかるが、単位計算の定義には授業時間外の学修時間も含まれる。いったん教室から離れて、時間をおいて振り返り、自主的に勉強することも重要。じっくり考え続けるという習慣をつけさせる工夫も必要ではないか。
- ・講演者の人数が多すぎて、講演内容にまとまりがないように感じた。講演者に気の毒。
- ・学生の規模別に活用方法が示されており、大変参考になった。活用事例の紹介と respon 自体の説明の順序は逆のほうで理解しやすいのではないかと感じた。今後の講義で活用してみようと思える内容だった。ありがとうございました。
- ・respon の機能や活用について具体的な例から想像することが出来たので、マニュアルだけ参照しているよりも理解が進んで良かったと思います。事務職員なので授業での活用機会はないのですが、ガイダンス等で活用が出来るのではないかと考えました。
- ・respon を知らなかったなので、勉強になった。アンケート 6 は、学務助手の立場では答えられません。

以 上

(2) FD 講演会：「ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～」

講師：株式会社野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室
室長 塩崎 潤一 氏

日時：令和5年12月15日（金）16:30～18:00 Zoomによるオンライン開催



令和5年度後期 全学FD講演会

ChatGPTと ビジネス・大学教育研究 ～AIの発展に伴う課題と対応～

12/15
金曜日
16:30～18:00
Zoom開催

近年、ChatGPTなどの生成系AIがビジネスや教育の現場で活用され始めていますが、活用の具体策やリスク対策など不十分な点も多いのが現状です。本講演では、生成系AIの特徴や仕組み、生成AIで変わる社会の動向、大学の教育研究に与える影響を学び、今後、生成系AI技術の進展がさらに進む場合、大学教育界にどのような変革が求められるかを考えていきます。

講師 塩崎 潤一氏
株式会社 野村総合研究所
未来創発センター 生活DX・データ研究室 室長

略歴 筑波大学社会工学類卒業。野村総合研究所入社。専門分野はマーケティング戦略、数理解析・数理モデル、生活者の価値観など。同社にてデータサイエンスを活用した新規事業の立ち上げに責任者として関与。マーケティングサイエンスコンサルティング部長などを経て、2021年にデータサイエンスラボの初代ラボ長就任。主な著書に「変わりゆく日本人」、「第三の消費スタイル」、「大衆化するIT消費」、「データサイエンティスト入門」、「まるわかりChatGPT & 生成AI」など。（社）データサイエンティスト協会・理事、広島大学・非常勤講師（2019年～）、統計数理研究所 統計思考院・運営委員（2019年～2020年）。

主催 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

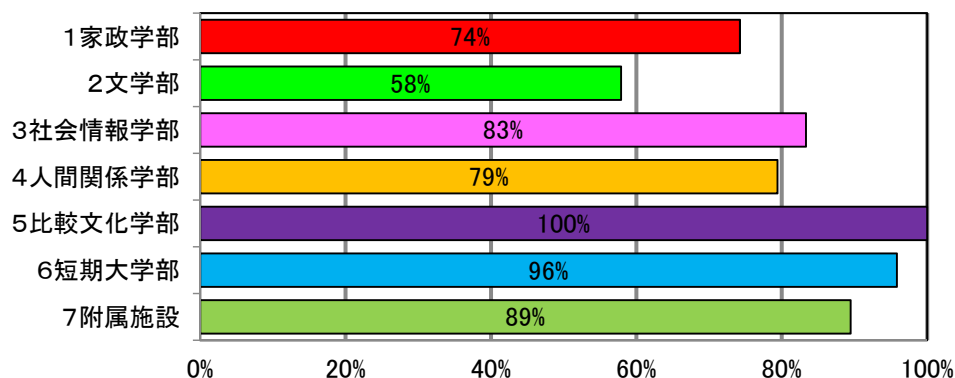
FD 講演会アンケート集計結果

- < テーマ > ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～
 < 講師 > 塩崎 潤一氏
 (株式会社 野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室 室長)
 < 開催方法 > Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
 < 開催日時 > 令和5年12月15日(金) 16:30～18:00
 < 録画配信 > 令和5年12月19日(火)～公開中
 < 回答期間 > 令和5年12月15日(金)～令和6年1月31日(水) 23:59
 < 未回答者 > [専任教員]家政学部16人、文学部15人、社会情報学部6人、人間関係学部7人、
 (研修等除く) 比較文化学部0人、短期大学部1人、附属施設2人

【参加者(アンケート回答者)の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	専任教員数
1 家政学部	16 人	33 人	49 人	66 人
2 文学部	5 人	17 人	22 人	38 人
3 社会情報学部	10 人	20 人	30 人	36 人
4 人間関係学部	22 人	5 人	27 人	34 人
5 比較文化学部	12 人	9 人	21 人	21 人
6 短期大学部	13 人	10 人	23 人	24 人
7 附属施設	3 人	14 人	17 人	19 人
8 非常勤講師	13 人	81 人	94 人	
9 助手	1 人	29 人	30 人	
10 事務職員	1 人	0 人	1 人	
合 計	96 人	218 人	314 人	

【所属別参加率】(専任教員)

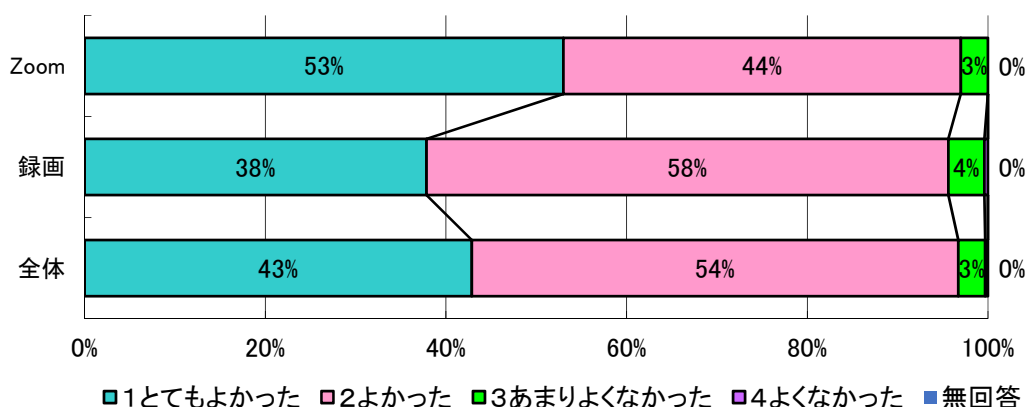


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数 312 人分を対象）

問 1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

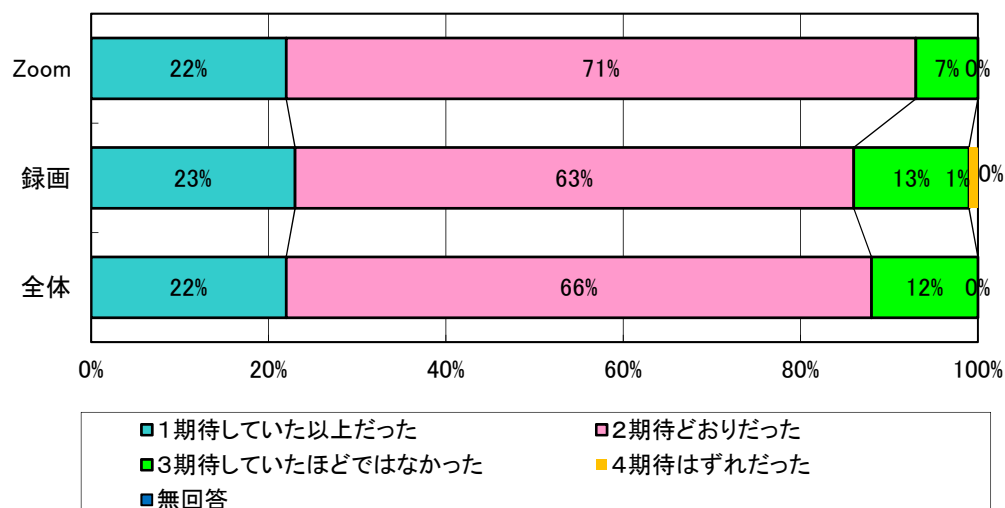
（１）講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	51 (53%)	83 (38%)	134 (43%)
2 よかった	42 (44%)	127 (58%)	169 (54%)
3 あまりよくなかった	3 (3%)	8 (4%)	11 (3%)
4 よくなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



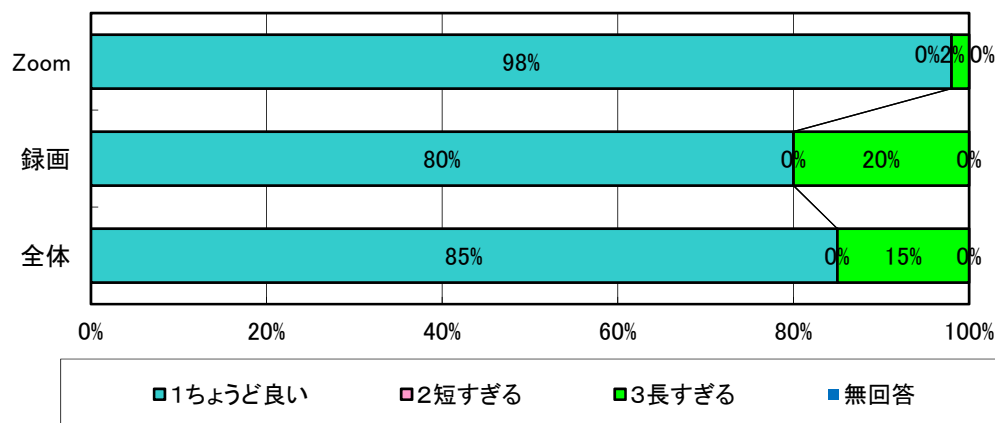
（２）内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	21 (22%)	49 (22%)	70 (22%)
2 期待どおりだった	68 (71%)	139 (64%)	207 (66%)
3 期待していたほどではなかった	7 (7%)	29 (13%)	36 (12%)
4 期待はずれだった	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



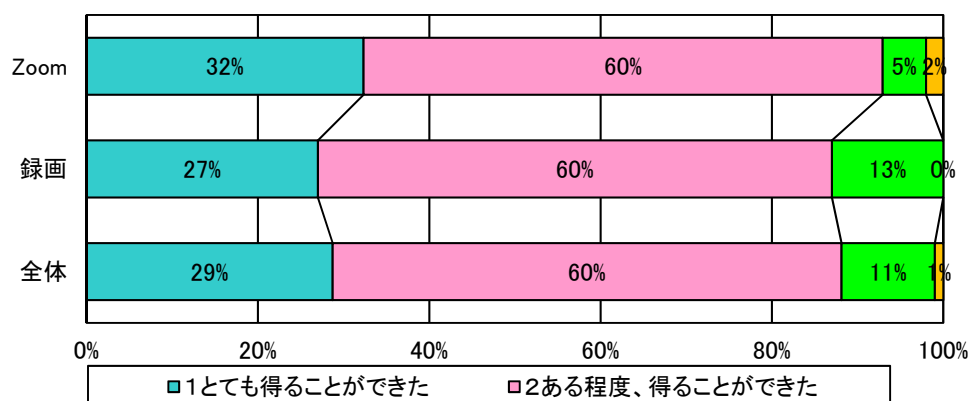
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	94 (98%)	174 (80%)	268 (85%)
2 短すぎる	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
3 長すぎる	2 (2%)	44 (20%)	46 (15%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



(4) 自身の授業内容および方法の参考となる情報・知見について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とても得ることができた	31 (32%)	59 (27%)	90 (29%)
2 ある程度、得ることができた	58 (60%)	130 (60%)	188 (60%)
3 あまり得られなかった	5 (5%)	28 (13%)	33 (11%)
4 まったく得られなかった	2 (2%)	1 (0%)	3 (1%)
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



(4) 今後希望される講演テーマについて（複数選択可）

選択肢	全体
1 今回の講演テーマ関連	121 (39%)
2 国の高等教育・教育改革の動向	90 (29%)
3 本学の教育体制・教育改善の動向	88 (28%)
4 授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介	88 (28%)
5 成績評価と効果的なフィードバック方法	53 (17%)
6 初年次学生の教育支援	51 (17%)
7 配慮が必要な学生の修学支援	97 (31%)
8 キャリア教育・進路指導	60 (19%)

[今回の講演テーマ関連]

- ・生成についてさらに別の観点から。あるいは同じ講師で最新の状況について。
- ・今回の講演テーマ関連を、もう少し社会に浸透するか進歩して、教育に生かせる時がきたら、事例などを含めて、もう一度開催してほしい。
- ・今回の講演は概論であったので、次回は各論として、特に生成 AI の活用あるいは乱用の大学教育への影響について、より具体的な話を聞いてみたいです。
- ・データサイエンス学部ができることで、全員が知っておくべき事柄については、率先して教えていただきたい。
- ・今回のテーマの関連項目をさらにお伺いしたいと存じます。よろしくお願いします。
- ・生成系 AI については、もう一度講演を望みます。今回は総論的な内容でしたので、使用方法や事例を詳細に紹介していただきたいと思います。AI 技術は、あらゆる産業で急速に発展しています。今回のような否定的な質疑内容のまま終わってしまうと、本学は取り残されてしまうように感じました。今後のデータサイエンス学部の受容や発展についても関係してきそうです。
- ・Chat GPT の使用例として、分野ごとの例を講義していただきたいと思いました。例えば、ある課題に対して学生がどのように Chat GPT を使って作文するのか、語学の授業の将来（翻訳の授業に未来があるのか）など
- ・このような機会はありがたく思います。非常勤講師で参加できる研修が多くなることを期待しています。
- ・ChatGPT というテーマにとっても興味があります。授業や研究に関連した、実践的かつ具体的な使い方の話を聞けたら嬉しいです。
- ・問7でのコメントに記したことから、ChatGPT の授業での適用例などの紹介があるとためになると思われる。
- ・実際に、AI 技術を大学教職員が遊んでみる、手で動かしてみるなどの WS があるとありがたい。既に使いこなしている方も学内でいっしょやるかと思いますが、全く不慣れな者を対象に、参加しやすい WS を企画してもらえるとありがたい。
- ・今後、学ぶという形式が大きく変化する気がしましたので これからも今回のテーマの制度あげて、教育現場での実用的な使用や事例などを紹介して欲しいです。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・タイムリーなテーマを、有り難うございました。
- ・今回の講演者の方は、生成 AI について前向きにとらえていらっしゃるが、それについては賛同しますが、実際生成 AI で出されるコメントやレポートといった、生成 AI の負の影響に対して、教員がどのように対応できるのか、教育系の講師の方から聞ける機会があるとうれしいです。
- ・今回の資料をいただけませんか。せめて、アンケートに回答したら資料をいただけるなどにしてもらえるとありがたいです。ご検討をお願いします。⇒12/19 に録画版と併せて資料を配信しました。

[国の高等教育・教育改革の動向、本学の教育体制・教育改善の動向]

- ・教育改革の方向性 我が国の教育の立ち位置 大学における初年次教育の在り方 その方策 手だて 評価について
- ・直近で希望する者はありませんが、日本における高等教育の将来像や、日本で進めるべき高等教育の長期的な方向性を考えることができるテーマも必要かと考えています。
- ・学習指導要領が変更になったり、コロナ禍で中学校を過ごしてきた学生が入学してきたりと今までの対応では十分でなくなっていることが多いと思うので、これからの学生募集や教育に活用できる現在の国の中学校の動向を含めた内容が知りたい。
- ・就活生に成績表を提出させる企業が少しずつ増えているようですが、まだまだ社会は学生が大学で何を学んできたかについて特に関心はなく、一部の有識者も大学の存在価値を声高に否定しているようです。それに耳を傾ける賢い若者が増えてくる前に、社会から求められる大学が何をどう教える必要があるのか、アカデミズムより重要な何かを考えるヒントになるようなテーマを希望します。
- ・地域における大学の在り方（市民とのかかわり）

[授業やゼミ・教材開発に関する事例紹介]

- ・卒業論文の指導方法について。他学部、他学科の指導の仕方を参考にしたいです。

[初年次学生の教育支援]

- ・情報化・データ化が進む社会の中で、科学的・数学的リテラシーは、どのような分野を学ぶ場合でも、ある程度必要になると考えられます。一方、学生をみると、高校で文系というくくりに入って、そのようなリテラシーはほとんど身につけないまま本学（大学）に入学しているケースが多いのが現状です。しかし、それらの学生は、科学的・数学的リテラシーを学んでもできない（苦手である）のではなく、単に（きちんと）学んできていないというケースが多いとも感じています。そのため、初年次教育、あるいは課外教育等の形で、大学においても、数学、自然科学などの補習の場、機会を設定するのが望ましいのではないのでしょうか。以前、金沢工大が高校の退職教員などを活用してそのような課外教育をしているという話を聞きました。他大学の取り組み例、あるいは本学での対応の可能性を共有・検討するような場があればよいと考えています。

[配慮が必要な学生の修学支援]

- ・配慮が必要な学生だけでなく、学生全般に対する対応について学びたい。
- ・修学支援：近年、ふたをあけてみたら中学・高校時代から具合が悪かったと申告するケースが散見される。だとすると、高校とのリエゾンが必要になるだろうと思うが、そうしたことに既に取り組んでいる先例はあるのだろうか？キャリア教育・進路指導：学部学科ごとに異なるべきだろうか？また、ある学科で何年か学んだあと「このキャリアではない」と悟った学生が進路変更できるパスを学内でつくらなくてよいのだろうか？ということについて、先例や先駆事例があれば学んでみたい。

[その他]

- ・様々な学部で、例えばデザイン思考などを取り入れた場合、アイデアに対してプロトタイプを制作していくことが今後増えるのではないのでしょうか。狭いスペースの中でそのような場所を確保していく方策や、その実際について知りたいです。
- ・アドミッションポリシー。大学全入化の中で「どのような学生をどのように採るのか」この先進事例を知りたいです。
- ・本学の研究体制・支援のあり方
- ・高校の教育および進路指導の動向
- ・今回のように、2024年度に時宜を得た別のテーマにつき、外部専門家の講演がよい

問2 今回の講演会で、お気づきの点、記憶に残った点、ご意見などございましたらご入力ください。

- ・私は生成AIについて十分理解していないので、教職員に求められる項目の中にもあったが「AIに対する理解と適用能力」を今後身に着けて活用したいと考える。
- ・具体的に示していただけたことで理解が深まりました。
- ・各スライドが分かりやすく、発声もしっかりされていて論点が良くわかりました。最後の「覚悟」と「わくわく」に非常に共感しました。その通りだと思います。本日のテーマではありませんが、AGIにはさらなる興味を持っています。昨今の事態の進み具合を見ていると「シンギュラリティ」と「わくわく」がダブルで押し付けてくることも、そう遠いことではないような気がします。そして、『自分は何者であるか』と『人間としてその時代を知りたい』の2点をわきまえていれば、そのような時代も乗り越えられる気がしています。本日の内容は今後の学生教育・指導にも役立たせていただきます。どうもありがとうございました。
- ・Chat GPTについて、話題になってはいましたがよく知らなかったので、大変有意義な研修でございました。本学の学生が東大生に比して優秀ではないので使いこなせないという御意見がございましたが、塩崎先生がおっしゃるように、そこは先生方の御教育次第ではと存じますので、学生のために御尽力願えればと存じました。また、AI革命という分岐点にいる事について、ぼんやりとした自覚はありましたが、実際言葉として伺ったインパクトは大きかったです。今後世の中の流れについていくべく、自分自身も使わない、使えないと切り捨てるのではなく、良い点は取り入れて、将来的に使いこなせるように学習していかなければと考えさせられました。このような最先端の技術について、平易な言葉で御説明くださり、講師の塩崎先生にも感謝申し上げます。
- ・生成AIのメリットとデメリットについて再認識しました。ChatGPTはこれからますます情報量が加算され、精度が高くなると思います。これに伴った生成AIも精度が高く、より人の考え方に近づくと考えます。よりよく便利に使用したいと思います。一方、フェイクには十分に気を付ける必要がこれからますます増えていくと思います。
- ・AIについて、「覚悟が必要」とのことばが印象に残りました。
- ・AI、生成AI、ChatGPTなど耳にするが、違いが判らなかったが、本日の講演会で違いが見えてきました。しかし、まだ分からないところもあるので、録画映像も再度視聴したいと思います。

- ・生成 AI についての基本的な知識を得ることができた。実践的なプロンプトエンジニアリングの必要性など、検索エンジンの利用方法と通じるものがあつたが、生成 AI を使用時に気をつける点として記憶に残った。また、ハルシネーションについて、実際使ってみると多々遭遇するののもであり、学生にも注意を促したい。大学としてのガイドラインの今後について、より検討していく必要を感じた。
- ・Chat GPT に関する最新の知見、たいへん興味深かった。講師の専門性から教育分野における活用は業務の効率化という視点が中心であったが、ChatGPT 使用と学生の思考力や創造性との関連性についてのテーマのFD講演会を今後期待したい。
- ・生成 AI についての基礎的な知識を得ることができ、大変感謝しております。大学教育という点では、全学共通科目ではほぼすべての学生が学んでおいた方がよい知識や技能であると思いました。必修にすると、その単位を取得できず卒業できないという学生が出てきそうな気がしますので、学生に「強く勧める」程度が現実的かとは思いますが。
- ・生成 AI の凄さ（今回の例でいうと文書精製能力の高さ）や知らないことに対しては知らないと言わず嘘をつく（幻覚）といった課題等、漠然としか知らなかったものをしっかり認識することができた。未来においても、人が得意な事、AI が得意な分野をしっかり認識して共存していくことが大事だという点。
- ・この領域については全く予備知識がなかったが、分かりやすい説明だった。今後、自分で使うことはないであろうことは、明確になった。
- ・授業での活用を考えたいと思います。
- ・生成 AI についての詳しい知識がなかったので、その概要等についてよく理解することができました。ただ、文系学部の教員としては、生成 AI の能力と可能性と同時に、限界と教育現場における不安と疑問の方を改めて強く感じてしまいました。御講演の中で AI の要約、論文執筆、翻訳能力が挙げられていました。これらは本学で課しているレポート、卒論等に使用できるものです。私が担当している語学の授業は原文を日本語に翻訳する事が主な内容ですので、AI を使用すれば、簡単に翻訳文を作成することができてしまいます。つまり、自分の頭で考えなくても、一定にレベルのレポート、論文、翻訳文を完成させることができます。その対策として大学の指針・ガイドラインの作成が考えられますが、それをすべての学生が遵守すること、教員側がすべてをチェックするという事は不可能だと思います。ということで、AI は画期的な技術革新であるということは、おそらくそうであり、そうなるのではないかと思います。正に両刃の剣ではないでしょうか。学生達への倫理教育をどのように浸透・強化していくことができるかということ、それでも考えていかなければならないと思います。
- ・生成 AI の現状について、その概要を理解するためには役に立つ講演だったと思います。
- ・AI 革命への期待と教育側の適応・対応がどのようになって行くかが楽しみであること。
- ・生成 AI も個人に特化させれば、教育の場面でもそれなりに使えるのではないかと考えている（家庭教師のようなイメージ）。このようなツールは貧富の格差を軽減させる方向にも適用されることを望む。
- ・内部の教員の公演であった点、論点が明確である点、大変興味をそそられました。日本は例外的に AI への警戒、拒絶感、規制がない国です。遠からず、教育、労働、趣味、芸術領域でのインパクトがハッキリする地域になるでしょう。
- ・全然知らない分野について、わかりやすい言葉で、理解を促進してくださいました。とりあえず大まかな全体図を理解させていただいた気がします。ただ自分が使いこなせれば大変大きな武器になることを理解しました。最後に倫理面については黒白つけることが困難で、今後問題が増えるのではないかと思います。
- ・とても勉強になりました。
- ・生成 AI について、総合的にわかりやすくなる講演だった。これから急激に発展する領域なので、定期的に動向や利用方法を知りたい。
- ・今、話題の生成 AI について丁寧な説明や問題点、そして今後の使い道や課題まで学ぶことができました。語学とは関係が遠い世界だと思いましたがいろいろ考えることも多くてすごく役に立ちました。ありがとうございます。
- ・業務の 25% が生成 AI によって効率化できるということ。
- ・今後、授業の中で「生成 AI」をどのように活用できるか、分野別に具体的な活用方法や事例があれば聞きたいと思います。
- ・調査や分析上のパートナーとして生成 AI の活用を検討したいと思いました。有益な情報提供、ありがとうございました。
- ・今後の大学教育においては、避けて通れない課題だと認識しています。生成 AI の現在地と未来予想について大変参考になりました。
- ・生成 AI の利用率の向上 入力工夫という考え方
- ・私なりに不透明な点に、問題を整理するの役に立ちました。
- ・興味はあるけどなかなか実体の分からない大規模言語モデルについていろいろな知見が得られ参考になりました。その使用について大学のガイドラインができましたらまた教えていただきたく存じます。
- ・他の AI 関連の講演などと比較して、歴史的な変遷から注意すべき点に至るまで網羅的に準備されていて完成度の高さを感じました。
- ・生成 AI について、よくわかりました。教育への適用ということについて、さらに知りたいと思います。

- ・ちょうど今はシラバスを作成途中なので、学生たちはどういう風に懸命に ChatGPT を使えるように書かなければなりません。ありがとうございました。
- ・生成 AI について分かりやすい説明をして頂き、さらに大学で活用する際に何が求められるのか、何が課題となるのかを示唆して頂き、本当にありがとうございました。少しずつ、IT スキルを磨いて行こうと思いました。
- ・今後は恐らく何らかの使用規制がかかってくると予想しましたので、その前に今年度初めから、試みに画像生成 AI を使用した卒業研究へ取り組んでみました。当初、学生たちは四苦八苦していましたが、そのうち特に初期段階のアイデア発想をサポートするクリエイティブパートナーという位置づけで AI を使うことが有効であることを見出しました。指導教員としては、これまで本学の学生が不得手としていたデザインスキルを AI が補い、更にスキルアップしていく様子を実感することが出来ました。次年度以降は講演の際にキーワードとして挙げて頂いた、プロンプトエンジニアリングスキルの向上を図りつつ、更に多くの授業課題へ画像生成 AI (Stable Diffusion) を取り入れていこうと思っています。大変、心強い内容のレクチャーを有難うございました。
- ・ChatGPT について気になっていましたので、今回、最前線の講演者の先生から体系的に学ぶ機会が持てて良かったです。全学的な FD 活動は時期的にも時間や内容的にも定着してきた感じがあるので、運営方法等について特に気付いた点や意見などはございません。記憶に残った点といえば、最後の質疑応答で本学の社会学の先生と講演者の先生とのやり取りが記憶に残りました。
- ・生成 AI について今まで利用したことが無く、正直興味もほとんどありませんでした。今回の FD で生成 AI についてある程度理解できた。
- ・生成系 AI は使う方の技量や能力に大きく依存するということが改めて理解できました。少しずつ自分で勉強しながら日々の業務に役立てていきたいと思いました。
- ・12/23 社会情報学部 FD 研究会でも生成 AI のリスクや規制について検討する予定であり、開発・推進サイドの話は大変参考になりました。
- ・講演者の方にまずはお礼申し上げます。普段は単に質問するだけの利用なので、個人的には画像生成やデータ分析、その他、想定外の使用法の具体的な生成結果が知りたかったです。
- ・生成 AI について一般的な内容であったが、整理されわかりやすかった。
- ・生成 AI は「高度な道具」であるので、普及してくることは間違いなく、しっかりと「長所と短所を具体的に経験させる必要がある」と感じました。 便利な自動車が作られたことにより、歩くことが減って体が弱るように、生成 AI を使うことで「自分で調べ、考え、経験することが身に付かない、衰える」ことは当然です。「現在の学生は自分の頭で考えず、調べず、経験することが身につけていない」ため、生成 AI に頼り、振り回されるようになる可能性が高いと感じます。現在の「大学では自分で調べ、考え、経験させることをうまく育てられているとは言えない」ため、この点に力を入れて改善していく必要があると感じました。
- ・AI、生成 AI、ChatGPT などまさに「今」の解説をしていただきよくわかりました。時代の進みが非常に早い昨今、このような話題を取り上げていただくことはありがたいです。
- ・AI の本来の仕組みを確認したうえで、従来 AI と生成 AI の違いが明確に整理されていたので、全体的にとっても理解しやすかったです。昨年話題になったときは、自分自身の生活圏から少し離れたところで祭りが自然発生しているような印象でとらえておりましたが、実はそれぞれの生活に非常に近いところで高速で発展を遂げている印象へと、ここ数ヶ月で変化したように思います。本日の講演をおききしたことで、より身近に感じられたように思いました。学問もそうですが、やはり人間が感じる「ワクワク感」は大切ですね。そのうえで、人間が現実的に吟味していく段階に入っているのだなと思いました。学生が、そして我々教員も使うことを前提としつつ、今後教育者として彼らとこの体験をどう分かち合い、どのように教育に役立てていくのか、チャレンジしてみたいと思います。ありがとうございました。
- ・ChatGpt とどう折り合いをつけるのが、今後の大きな課題になるようだ。特に卒論などの重要な局面で ChatGpt 悪用をどう抑制するべきかをよく考えなければならない。
- ・いつもお世話になっております。避けては通れない AI の対応ですが、黎明期に学習に取り入れるのはなかなか敷居を高く感じています。 いい使い道に、学生の助けになるように積極的に利用できればと思います。
- ・本学では専門科目を担当していますが、他校では語学科目を担当しています。雇用形態は非常勤ですので、余計に気になるのですが、将来、生成 AI のために職を失う可能性があるのではないかと心配です。それについて、どのような見解をお持ちでしょうか。たとえば、先日テレビで生成 AI のために、コピーライターの方が職を失っていました。
- ・自分が行っている授業の実施に直接役立つかといえば、そうではなかった。とはいえ、大学で行われる講演としてはとてもふさわしい講演であったと感謝している。講演では、そもそもの成り立ちや仕組み等についての説明がとてもしっかりとしていたので、ChatGPT とは何かといった基本についてしっかりと学ぶことができた。講演内容をどのように自らの授業に役立たせていくかは、個々の教員によって異なるだろうから、これについては改めて「授業の場で」といった回を設けていただくととてもありがたい。
- ・ビジネス現場や一般論の話として勉強になったが、教育業界としてももう少し踏み込んだ事例や使い方を示してもらえると良かったと思った。
- ・ChatGPT の現状について理解できていない点が多々ありましたので、良い機会となりました。

- ・企業での活用と、教育現場や研究での活用というのは少し状況が異なるようにも思いますが、何ができて何ができないのか、とても分かりやすく解説してくれていたのもので勉強になりました。私が見落としただけなのかもしれませんが、ミーティング情報のお知らせと一緒に、ご講演のレジュメ等配布資料の有無の情報を記載いただけるよいなと思いました。⇒次回以降、配布資料についても事前にお知らせいたします。
- ・仕組から始まり、具体性のあるご講義で大変わかりやすかったです。
- ・非常に専門的な内容であったが、理解することができた。今後、授業でも導入していきたいと、思わせるきっかけとなった。
- ・教職員に求められることは、高度な知識ではなく、AIを理解し業務に適用する能力。①データリテラシー、②AIに対する理解と適用能力、③リスクの把握と周知、④エンジニアリング能力、⑤継続的なキャッチアップ。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・個人情報などのリスク管理については、SNSと同じく、個人情報などの漏洩に気を付けるべきであるという点がわかった。学生たちも、個人情報には敏感なので、使うことを禁止するのではなく、使ううえでの注意点を共有すべきだと感じた。
- ・今回のFDで生成AIをテーマとしたことは時宜にかなったもので、門外漢の私には大変有益でした。生成AIの利用にあたっては、その「能力」と「限界」を理解する必要があるというご指摘が納得して理解できる内容になっていました。有難うございました。
- ・生成AIを敬遠していましたが、利用する必要性を痛感しました。著作権に触れてしまうかのチェックが難しいのでは、と感じました。
- ・生成AIはもはやインターネットのような当たり前のものである、学生にワクワク感を伝える、といった点は自分の中になかったもので、記憶に残りました。また考えさせられました。
- ・とてもわかりやすく、最近の状況が理解できました。
- ・ChatGPTに関してまとまった話を聞く機会が今までありませんでしたが、この講演を拝聴して新しい時代がまさに到来しつつあることを実感しました。ちょうどPCが一般的になって、身の回りに「パソコン」が増えていった40年ほど前を思い出すかのようです。人間と教育に関して新しい課題が突きつけられていると思いました。
- ・教材の活用等で視点を得るのに役立ちそうかと思われた。ただ、学生の使用についてはやはりまだ検討すべきことが多そうな印象だった。
- ・特に、スライド35ページに生成AIが使える場面、つかえない場面が整理されていて興味深かった
- ・生成AIについて、もっと関心をもって考えていくべきであると感じた。
- ・学生対応により、入室が30分遅れてしまいました。できたら後日、改めて視聴させていただきたいです。
- ・生成AIとの付き合い方として、他学の声明、方針が紹介されましたが、参考になりました。どのようにして付き合うかの方向性積極的な利用方法を見出すこと、ということが重要とおもいます。実際に利用していますが、利用しなければ付き合い方もわからないのは、人との付き合い方を見出すことと同じ、とあらためておもいました。
- ・今まで、自分のアカウントを作ることが怖かったのですが、今回の講習会を受けて、作る決心ができました。おかげで、些細なことを試してみることができました。また、想定できる学生のChatGPTの使用、我々が使えるだろうと思われる例を伺い、大学の教育内での使用は、教員側がある特定の能力を使えるか否かによって来るのだということが分かった。もしかしたら、学生が大いにChatGPTを使ってしまえる環境は、教員の出題力に拠るのではないかと思った。
- ・国際的な比較から日本のAIの活用が今後発展していく可能性が考えられた。またリスクなども改めて理解することができた。実際に各学部や学科などでどのようにAIに対応していくか、現在の小学生以降のAIを取り入れた教育と大学との連携をどうするかなど、知ることができればさらに良かった。
- ・このような機会があったこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・学生の皆さんと教職員も一緒に学び、使いこなせるようにしていければと考えております。
- ・非常勤講師として本学では広告論を担当している関係で、生成AIが活用できる可能性が高い分野として「広告コピーライティング」が挙げられていたり、活用事例として「カフェ」の「店長挨拶文」や「ロゴマーク」画像生成などの例が取り上げられ、とても身近な感じがした。実は本務校では、インターネットやソーシャルメディアなどを含む「先端メディアテクノロジー」の科目も担当しており、まさに「第三次AIブーム」と「生成AI」の論点、最新情報の紹介を昨年前期から始めたところだ。現在さまざまな大学・教育機関の「利用ガイドライン」を収集して本務校の「ガイドライン」検討修正などを行っており、大変に参考になるFD研修会でした。
- ・大学教育でChatGPTをどのように扱っていくかという問題は、著作権の問題などを含めて重要であることが再認識されました。積極的に利用していくような方針を取るのか、制約を加えるのかを含めて今後検討していかなければならないと思います。たとえば、レポートや実習報告書などの作成に当たって、ChatGPTを使えば、昔危惧されたようなネットのコピペ以上のスピードで、たちどころに提出物が出来上がってしまいます。より完成された提出物を作るにはAIをどう活用すればよいかという方向で指導するのか、AIにたよらず自分の頭で考えるのが重要であるという方向で指導するのか、引き続き課題として残り続けるのではないかと思います。
- ・今回生成AIの基本とChatGPTの経緯について大変わかりやすく説明していただいたので、利用していく際の注意点なども理解できたことで、実際に無料のサイトでの試用を試みようと思えた。ただし、変化が激しい状況だと思えたので、お忙しいとは思いますが、数カ月後くらいに状況の説明をお聞きしたいと思いました。

- ・生成AIの説明の際、それまでのAIと比較したことで、初めてその特徴がよく理解できた気がします。また、具体例やわかりやすい図や表を用いた説明により、活用方法や問題点などを知ることが出来ました。学生さんにも、しっかりとリスクを意識した上での活用を促したいと思いました。
- ・生成AIの活用実態と課題の把握に役立ち、自身の授業や研究への活用場面について考えるきっかけを得ることができました。ありがとうございました。
- ・生成AIのリスクと課題について理解できました。教育の場面では、指示をする学生を育てることになると思いますが、心配なことはその指示が不十分で出来上がった文脈に、学生がこれでよいと思った場合です。生み出すことのできるAIではなく人を育てたいのですが、課題を多く感じました。興味深いお話をありがとうございました。
- ・ChatGPTが自分自身にどのように関わるのか、あまり考えていなかったが、講演を伺って、リスクやどのように利用するのか、など、現在のこの技術の課題なども含めて整理してお話いただき、認識を新たにしました。ニュース等ではよく目にするようになったが、背景やこれまでの経緯、現状など、漠然としか知らなかったことを、わかりやすく説明いただき、具体的に把握することができたと思っている。貴重な機会をいただき、感謝です。
- ・生成AIに関する基本的な知識をわかりやすく講演していただき、大変興味深く拝聴しました。自分でどのくらい新たなAIと付き合っていけるかは、正直未知数なところがありますが、ブラッシュアップに努めたいと思います。論点整理や仮説構築は得意だが、現状把握や最終決定は人がしていかなければならないことを改めて認識できました。ありがとうございました。
- ・Chat GPT、生成AIの使用できる範囲が分かったことが、良かったです。生成AIが経営不振の改善の戦略までアイデアを出せるとは、コンサル業務まで出来ていまして、驚きました。個人的には、一昨日も、大学生が、あるテーマの作文の課題が出されて、数秒でChat GPTで作成して、多少の加筆をしたのち、提出しているのを、目の当たりにしていますので、生成AIの利用は避けられないものと感じております。
- ・今までAIや生成系AIについて十分に学ぶ機会が無かったので、とても参考になる情報を頂けたと感じています。基本的な仕組みについては、もう少し詳細な説明があれば、より理解が進んだと思われます。また、授業や自らの研究での利用については、授業担当者の責任の範囲だけで枠組みを設定して良いものかどうか、今後の判断に迷う部分もあるように感じました。自身でもより理解を深め、効率的な利用方法や管理手法を考えるよう努力いたします。今回は、本当にありがとうございました。
- ・注目していた内容でした。現実問題として、レポートなどの課題で同じ記載分を目にすることもあり、個々に判断していくしかないと感じています。
- ・講師の方がおっしゃっていた、生成AIと上手に付き合っていける学生を育てるという観点が印象に残りました。
- ・日本文学という研究分野の特性上、直接授業の参考になる点は少なかったものの、ChatGPTやAIについてはほとんど知識がなかったので、たいへん勉強になった。
- ・塩崎さまの「インターネットが当初は一部の人にしか使われなかったが今となってはほぼすべての人が当然のように使っているのと同じように、AIもいずれはほぼすべての人が使うようになるので、AIをうまく使えるようになる人に教育するのも大学の仕事の1つ」という意見には賛成です。他方で、干川先生の「本学の学生には使いこなせなさそう。格差が広がる」という意見にも同意します。数年前から1,2年ゼミで『AIにできること、できないことービジネス社会を生きていくための4つの力』という本を輪読し、(第3次ブームまでですが)AIの仕組みの概略、利点、欠点を学んでもらっているのですが、特にここ1,2年の学生はこの本の中身を半分以上理解できている人はほとんどいません。なので、もうやめようかなと思っています。難しいですね…。
- ・学生と一緒にワクワクを共有しようというコメントが印象に残りました。私自身が生成AIについて、未学習の部分が多いので、まずは私が学び授業に還元できたらと思います。
- ・生成AIが得意なこと、苦手なこと、利用する際の注意点が分かって良かった。
- ・従来のAIと、生成系AIの違いなど、知らなかった知識を教えていただけて大変参考になりました。
- ・改めてAIの有効性と限界について考える良い機会となりました。AIはこれからも進化することを前提に、「人間が考えなければいけないこと、しなければならないこと」を学生と共に考えたいと思います。
- ・ものすごく容易に生成AIを利用できることがわかった。またクエリーにもよると思うが、回答もあからさまな違和感を感じない。となると、生成AIの利用の有無の判定、著作権の問題、偽情報の問題等が今後ますます重要になってくると思う。
- ・本学にもAIを専門にされている先生が多数いらっしゃいますので、講師とのパネルディスカッション等で話題を深めても面白かったと思います。
- ・最終的には、人間の判断が求められること、特性を理解して利用すること、特性に合わせて利用方法を人間が考えることが必要であることを認識できました。本学においてもガイドラインを作成し、学生に周知すること大切であると考えます。
- ・AIには、ハルシネーションという課題があるということ。AIを活用するには、プロンプトエンジニアリングの成熟度という課題が使用する側にあること。
- ・生成AIのリスクと課題、能力と限界を理解する上でたいへん有益でした。特にデータバイアスの問題は興味深く、デジタル・エンジニアの約8割は男性が占めていることから、男性の論理や価値観に偏った形で技術開発が進み、ジェンダー・バイアスの助長が懸念されます。とはいえ、chatGPTをはじめ、AIはデジタルアシスタント

- として日常生活に浸透しつつあり、あらゆる業種やビジネスシーンで活用されていますので、教育分野における活用は時代の要請であると考えます。ただし、塩崎様もご説明されていたように、法規制が未整備なため、人工知能学会や大学独自のガイドラインに沿った活用が求められるでしょう。併せて、著作権や有害コンテンツ等の問題を学生と共有し、ChatGPT など生成 AI のトレンドを把握しながら、授業に取り入れていきたいと思います。
- ・生成 AI の活用については社会的・倫理的等の観点から議論すべき点が多く残されているものの、そうした問題点を踏まえた上でうまく使えば新しいものを生み出しうる、そのような可能性と「ワクワク感」をととても強く感じました。
 - ・生成 AI について基本的なところがよく理解できました。主にビジネス的な部分で業務に活用する方法も一定程度知ることができたと思います。前半の1〜3の部分や、具体的な活用方法について、学生向けの授業や講演会、ワークショップなどを企画することで、学生と共有できる機会が提供できると良いなと思いました。
 - ・ChatGPT についてあまり詳しく知らなかったが、どのようなものかということがよくわかって参考になった。講師も言われていたが、まだまだ信用できない部分がありそうなので、全面的に頼るのではなく、参考程度に ChatGPT を使用してみたいと思った。
 - ・AI は、「こころ」があるわけではなく、あくまでも数値・データ上の確率論で出している。また、偏ったデータしかない場合を含めて「うそ」をついてしまう。我々使用者のリテラシーが求められるという点は、非常に得心がいました。また、学術レベルでの活用には、まだまだ耐えられるわけではなく、学生への指導の在り方も、現状を理解させることが求められるのだと感じました。
 - ・2020 年に急に生成 AI に関する話題が多くなった理由や背景がわかり、どのように向き合ったらよいかを考えるうえでの基本事項を知るよい機会となりました。講師の先生は、来るべき「AI 革命」として、産業革命、情報革命と並べて捉えておられる立場から、教育現場に対して、こんな時代に教えられるというワクワク感をもってもらえたら、というメッセージが印象的でした。リスク面をただ恐れるだけでなく、リテラシーを高めることが重要という考えが深まりました。
 - ・AI のメリット、デメリットを理解しながら、いかに授業や研究に活用していくべきかについて、とても勉強になりました。有難うございます。
 - ・非常にわかりやすい講演で、勉強になりました。本務の大学や所属する学会などでも話題になっている内容でしたので、大変勉強になりました。後日録画で視聴できるようにして下さりありがとうございました。
 - ・「なんとなく」わかっている内容について、詳細に提示していただき、知識の確認や整理につながる大変いい内容であった。なんでもマイナス面に着目して活用を中止するという視点ではなく、大学としてどのように使っていくのがよいのかを考える際にも、教育に携わる全体がきちんと状況や内容を把握して考えていくことが必要であると改めて感じた。ありがとうございました。
 - ・生成系 AI に関するレビューにより、知識を再整理し、自身の認識を再確認することができました。
 - ・ChatGPT をうまく使えば自分のオリジナリティへつなげることができる、ということは勿論あるのかとは思いますが、それにしても、たとえば「ハルシネーションを見せる」という問題点についてお話しされているなかで出てきた具体例の、「野村総合研究所の創業年月日について聞くと間違った答えを返してくる」などについては、これが人間が相手なら「どこを見て得た情報なの？」と問うことができるのに、AI が相手だと「どうしてこう思ったの？」「何を讀んだの？」と問うこともできないというのは何とというか、誰に何の責任があるのかがどんどん不明瞭になっていくようで、凄い時代だなと思いました。
 - ・生成 AI の概要を知ることができた。とても有意義だった。
 - ・使用の際の課題や留意点がよくわかった。旧来の価値観から否定するよりは、社会の変化として見据えて効果的に活用できる方法を考えていきたい。
 - ・ブラックボックス問題や著作権問題など以前から気になっていた AI の課題について確かめられたのでよかった。
 - ・AI 技術の進歩状況や便利さという点についてはよく理解できた。ただ、ここからさらに AI 技術が進んでいくことを考えた場合、その技術が担うであろう作業を地道に行ってきた（いる）人間の存在意義とはどうなってしまうのかと、ふと恐怖を感じた。「人間は考える葦である」とどこかの哲学者が言ったそうだが、その言葉を大事にしたいと改めて思うそんな講演であった。
 - ・AI と生成 AI の違いについて、分かりやすい説明を受け理解につながった。今後学生が生成 AI を活用しレポートや論文を作成してくることが大いにありと考える。大学のガイドラインに従い倫理的にも節度ある活用を期待したい。成績評価等につながるレポート課題については、生成 AI で解決できない内容について今後検討し、学生が自律的に考えられるよう工夫したい。
 - ・どの領域の何を生成 AI と協働するかを考えなくてはならないように思った。
 - ・これまであいまいであったことがよくわかりました。最近手塚治虫のマンガを生成 AI で作ったというニュースを見て得た情報と今回ご教授いただいたことがつながり、できることや課題についてとてもよくわかりました。共同研究者は、ChatGPT や Bard を活用しているようですが、それらをどのように活用するのがよくわからない点です。また、インターネットの検索もそうですが、インプットのコツをつかむのが難しいと感じています。それでも、最新の情報をご教示いただきとても勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・大学における研究、教育における活用については、さらに進展するようになると思う。すでにソフトに生成 AI が組み込まれてしまうようになる。

- ・AI に関しては講師の方がおっしゃる通り、日々更新されているので、半年に1度ぐらいこのような公演があると嬉しいです。また、単に文章による質問だけでなく、絵を描く、音楽を作成するなど様々なことが可能になってきているので、分かりやすい例で紹介していただくとありがたいです。
- ・これまで曖昧だったことが、良くわかりました。
- ・メリット、デメリットが明確になり、今後、更に進化していく中で、役立つように思います。また、今後の対応も、し易くなりました。
- ・生成AIを取り巻く現在の状況については理解が深まったが、肝心の「教育現場への応用可能性」とか「使用上の留意点」といった問題については踏み込みが浅く、未消化のまま終わってしまった感がある。しかし、AIの示す回答の中に既存の著作物が含まれていて著作権侵害を構成するリスクがあることや、入力時に適切な指示・命令を与えないと有用な回答が得られないといった事柄は、今後の学生の卒論指導等においておおいに参考になる知見であった。
- ・生成AIの大学教育での利用について、より具体的なガイドラインを本学学生に作成する時期に来ている。生成AIの弱点は教育利用を考えると時のポイントである。
- ・お話を伺って、やはり新たなリテラシーが求められているのだと感じた。
- ・問題の絞り込みについて生成AIが活用できる範囲がありそうですので、卒論のテーマ決めや助言などに役立てることができるかもしれません。いずれにせよ、教職員・学生問わず、個人情報の流出にもっとも気をつけなくてはいけないものと思います。この点は私自身も気かけるとともに、授業を通じて学生に周知したいです。
- ・生成AIは「わからない」がないため嘘を教えるという点が特に興味深く、AIと正確さとは単純なイコール関係にはならないのだろうと感じた。就活や卒業論文、様々な場面で生成AIを使用した例を聞くことが増えた今、メリットもデメリットも含めて、生成AIとの向き合い方について今一度考えさせられる講演だった。わからないことを恐れずに「楽しむ」という姿勢で生成AIを利用できるよう学びたい。
- ・Chat GPTに関して基本的な情報から、教育現場での活用における注意点をコンパクトにまとめて解説してくださっており、わかりやすかったです。
- ・わかりやすいお話だった。生成AI等については多様な媒体で多様な論者や研究所、企業等が発信しているため、要点を再認識することができた。
- ・タイムリーなテーマであり、素人にもわかりやすい構成と説明で、大変参考になりました。生成AIの特徴、メリットとリスク、得手不得手等が理解でき、今後に活かせる内容だったと思います。「ワクワク感」が「覚悟」を上回るようにしなければと思いました。
- ・知りたかったことを学べたと思います。有難うございました。
- ・勉強になりました。
- ・生成AIの活用
- ・既知の内容が多かったが、問題点等整理することができた。
- ・生成AIの基本的な部分が学べてよかった。
- ・情報が古いと感じた
- ・まずは全体像を把握することができたのはよかった。学院としてどう取り組むのか、教員任せの印象も受けた。
- ・ChatGPTとビジネスのお話がメインで、大学教育研究との関わりについてのお話が少なく、その点において参考になるところが少なかった。講演の最後のほうで、今後も進歩を続ける生成AI技術革新の情報に追いついていかなければならないが、個人では難しいので大学の部署として対応するのが望ましいというようなお話があったのが印象的であった。メディア教育センターなどにおける組織的な対応が望まれる。当方が知らないだけで実はすでにあるのかもしれないが、まずは他大学同様、大学として生成AIの利用の方針やルールを明文化して学生に示す必要があるように思う。FD講習会全般に言えることかもしれないが、個々の教員の知識獲得(更新)および意識向上だけで終わってしまうのでは、教育改善のための取り組みとしては片手落ちだろう。組織としての取り組み・対応にもつなげていただければありがたい。
- ・生成AIとは何か、AIの進化の過程とビジネス一般におけるの使われ方や浸透度などがよくわかりました。教育分野でのより具体的な活用方法や効果的な使い方を中心に内容が知れるととても良いと感じました。
- ・すでに知っていることではありましたが、これからの自身の向き合い方について、再度考える機会となりました。ただ、教育における方向性はますます暗中模索といった状況で、その方策について何かしら具体的なヒントがあると有難かったと思った次第です。
- ・生成AIについての概要はよく理解できたが、詳細な使用方法(入力の工夫の仕方やChat-GTP以外のプラットフォームの使用例など)があるととても有益だった。
- ・昨今、今回のテーマに関する情報はテレビなどでもかなり扱われるようになり、多くの方はある程度の知識はすでに持っていると思われます。大学教員向けの、より踏み込んだ内容であれば、さらに良かったと思います。
- ・私が生成AIの進歩で危惧していることは学生の評価を出す場合にレポート提出という手段が今後使えなくなるのではないかという事です。以前にはHPのコピーを貼り付けたレポートが多いという議論はありましたが生成AIが作った文章を自分のレポートとして提出してきた場合はどのように見破ることができるのかという点です。今後の学生の成績評価についての提案が伺いたかったです。

- ・大学での利用状況や学生の不適切な使い方に対する対策についての事例などについて、もう少し紹介して頂けると良かった。
- ・とても丁寧に細かいところまで説明していただいたので、AI というものに無知な自分でも理解はできた。だが今回期待していたのは、具体的に大学の教育現場でどのように昨今学生や教員が AI を使い、また具体的にどんな問題があるのかを 知りたいと思っていたので、それが後半に設定されており、かつ大方想像内のことであったので、より現実的な事例を知れると良かった。
- ・特にないが、一般論すぎた。
- ・授業に反映する具体例の提示がなかったのは残念。今回の企画を FD 講演会で取り上げた趣旨が不明瞭。
- ・生成 AI に関しての最新の情報と知見を得ることができた。しかし、生成 AI のリスクについて、特に社会全般への悪影響（自律的殺人兵器の開発・実用化、偽情報、ディープフェイクの拡散による社会の混乱等）についても扱い、それに対して、国連や EU がどのように対処しているかについても触れてほしかった。
- ・著作権に抵触するので注意すべきであることはわかるが、具体的にどうすればそれを知ることができるのかを知りたかった。それがわからず残念。内容に誤謬があるかを知る方法も同様。専門家でなければ分からないことが多い。学生は生成物が正しい内容なのかを判断することが困難。講師の最後のコメントはよかった。この転換点に教育をすることを楽しんでほしい。いい言葉です。
- ・「ChatGPT とビジネス・大学教育研究～AI の発展に伴う課題と対応～」というタイトルから、ChatGPT の大学教育研究における「課題」と「対応」についての具体的なお話を期待していました。
- ・今回の講演についてではないが、今回の講演を聞いてもなお、chatGPT との付き合い方、学生との付き合い方について具体的なイメージは描けなかった。
- ・ウソを付くことがある,, 著作権に注意する必要がある, 秘匿すべき情報を入れてはいけないのが3つが、利用の際の留意点だと考えるが、最後の項目が、「留意点のついで」に出てきたのは意外だった。
- ・生成 Ai について体系的な話を伺う機会が多いですが、なぜかみな同じようなストーリー、組み立て、結論です。(今回のお話が悪いと言っているのではなく、皆有益なのですが同じような話、という意味ですので誤解なく) 私自身は第二次 AI ブームの時に学生時代を過ごしました。学生時代に履修した「情報処理概論」でこれからの時代は AI だと習いましたが、ブームは過ぎてしまいました。一方、これからの読み書きそろばん(リテラシー)は英語とコンピューター(当時はマイコンと言っていました)とも言われました。後者(英語とコンピューター)はその通りであると思います。これまでの AI がなぜ「ブーム」で終わってしまったのか、そここのところを聞いてみたかったです。(当日は所用があり、動画で視聴です)
- ・難しいことを平易簡潔に述べること、そしてそれが科学的な正しさをかなりの程度保つように話すことは、こうした話をするときの専門家としての基本だと思います。特に私たちが相手にするのは社会で生きる普通の人・ご家庭が育てた学生です。社会や素人と対話しなくてはならないので、もっと平易におもしろく話していただけるとよかったです。それがあまり見られなかったこと、そうした人を招聘したという事実は、データサイエンス系の教育(学部学科)にやや不安を覚えるものでした。
- ・詳細な内容でしたが、話が雑駁でプレゼンがあまり上手とは言えませんでした。昨年の学会で、東大の松尾豊先生の chatGPT に関する講演を聴講しましたが、もう少しわかりやすかったです。大学での FD 講演は、企業の方よりも大学の方が望ましいように思います。残念ながら、最初に質問された本学の先生の内容も、講演内容の意図するところとはあまり関係のないものになっていました。生成系 AI は、ホワイトカラーのパラダイムシフトが起きるような大きな発明です。車と同じで使い方を誤れば危険ですが、法的に規制すれば(演者はガイドラインと言っていました)、便利なものだと思います。安全な使い方をすれば、これからの社会の発展に大きく寄与すると思いますので、一律に使用を禁止しない方が良く考えます。このテーマは重要ですので、多角的な視点で何回か行って欲しいと思います。
- ・こちらの勉強不足かと思われるが、もう少し初歩的なフォローがあっても良かったように思います。受講する全員が何かしらで情報系に関わっているというわけではないので。
- ・自分の中で、まだチャット GTP が把握できておらず、日常的ではない(意識していないだけ?) ので、ツボをつかみにくかった。

以 上

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

（設置）

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（組織）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
- (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
- (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

（任期）

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

（議事）

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

（委員以外の出席）

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター部長、多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

（事務）

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

		令和5年度
(1)	副学長(委員長)	山 倉 健 嗣
2	副学長	小 川 浩
(2)	人間文化研究科長	田 中 直 子
(3)	家政学部長	市 川 博
	文学部長	増 野 弘 幸
	社会情報学部長	藤 村 考
	人間関係学部長	齊 藤 豊
	比較文化学部長	貫 井 一 美
	短期大学部長	下 坂 智 恵
(2)	人間文化研究科	小 谷 敏
(4)	家政学部	須 藤 良 子
	文学部	戸 田 山 祐
	社会情報学部	松 本 暢 子
	人間関係学部	山 本 真 知 子
	比較文化学部	城 殿 智 行
	短期大学部	竹 内 知 子

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

(1)	事務局長	杉 田 学
	教育支援センター部長	安 倍 達 哉
	多摩事務部長	石 坂 和 弘